

令和5年度
全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

調査結果報告書

国語

算数・数学

英語

深根固柢

(しんこんこてい)

物事の基礎をしっかりと固めて、
揺るがないようにすること

基礎・基本を大事にし、
骨太の人材を育成したい



令和5年12月
福岡県教育委員会

■ 報告書作成・活用についての基本的な考え方

本報告書は、本県及び市町村の教育施策の検証、改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的として、市町村教育委員会及び学校管理職、ミドルリーダー等が活用することを想定して作成しています。

※ Webページへの記載

本報告書は、以下のWebページで閲覧することができます。

① 福岡県庁ホームページ

URL : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/2132105/>

(トップページ→組織から探す→福岡県教育委員会→義務教育課→新着情報)



② 福岡県教育庁教育振興部義務教育課各種資料のページ

URL : <http://gimu.fku.ed.jp/Default1.aspx>



要 旨

今、Society 5.0時代が到来しつつあることやグローバル化が一層進展していることなどから、これからは言語や文化が異なる人々と共生するデジタル化された社会となることが予想されます。そのような中、次代を担う児童生徒には「未来社会の創り手」として、社会に主体的に参画する姿勢や、ウェルビーイングの向上が求められるとされています。そのため、学校教育においては、基礎・基本となる学力・体力をしっかりと定着させるとともに、柔軟な思考力や豊かな感性、創造力をもとに、主体的に考え、多様な他者と協働しながら、問題を見出し、納得解を生み出すことができる人材を育成する観点が大切になります。

「全国学力・学習状況調査」は、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に行われています。福岡県では「福岡県学力調査」を行うことで、小学校5年生から中学校3年生まで児童生徒一人一人の学習状況等を追跡把握し、切れ目のない指導や支援に役立てることを大切にしています。

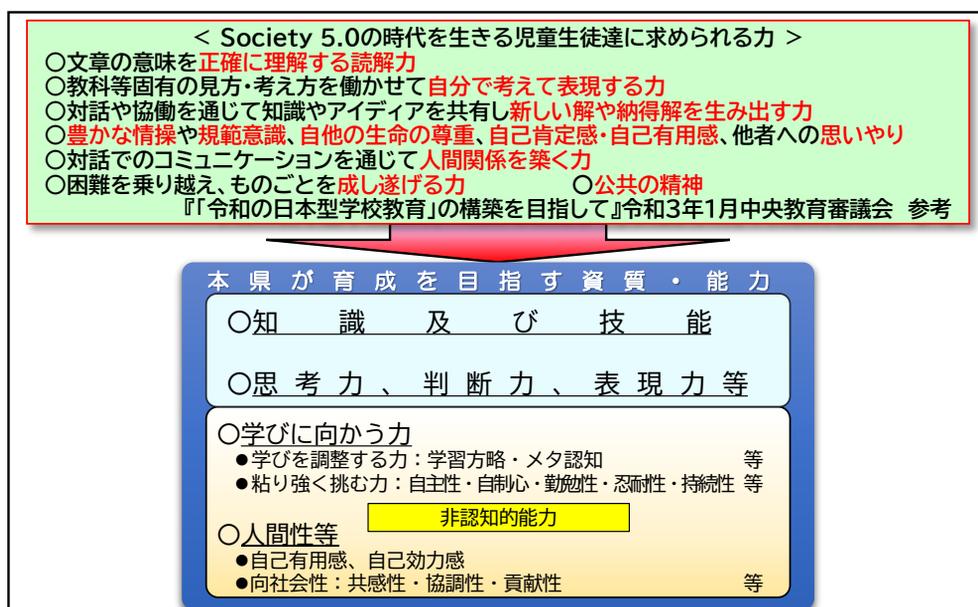
福岡県の結果については、各学校が、校長の明確な経営ビジョンのもと、検証改善サイクルの確立に努力してきたことにより、この3年間、県全体としては国語、算数・数学において全国平均水準を堅調に維持することができています。

課題としては、中学校数学は学年が上がるにしたがって学力差が広がっており、小学校段階からの重点的な指導や学年間の協力、小中学校間の連携による指導や支援が重要となっております。また、小学校高学年からは、中学校以上での抽象的で高度な学習への準備や中学校への円滑な接続のため、自律的に学ぶ力を育てる必要があります。

児童生徒質問紙調査から分かる全国的な傾向として、自分のよさを自覚しながら粘り強くやり遂げようとする児童生徒ほど教科の正答率が高い傾向にあります。

そこで、福岡県教育委員会としては、今後、学力調査や業者テストで測ることができる知識及び技能や思考力、判断力、表現力等の学力を育成する取組だけでなく、粘り強く挑む力や、自分にはよいところがあるや自分ならできるなどの自己有用感・自己効力感、よりよい集団の中で育まれる他者や集団に働きかける向社会性などの学びに向かう力、人間性等のいわゆる非認知的能力を育成する取組も大事にしていきます。

このような中、モデル小中学校の取組から、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等を向上させるポイントを整理しました。本報告書が、各学校の取組の参考となり、児童生徒の資質・能力の向上につながることを願っています。



I 調査の概要



- 1 調査の目的
- 2 調査対象の学年
- 3 調査の方式
- 4 調査日
- 5 調査の内容
- 6 調査問題の設問数及び問題形式
- 7 調査日(4月18日)に調査を実施した公立学校数・児童生徒数

全国学力・学習状況調査は、何のために行われているの？
令和5年度は具体的にどのような調査が行われたの？

II 調査結果の概要



- 1 調査結果の概況
- 2 教科に関する調査の結果
- 3 標準化得点と学力層(四分位)の推移
- 4 児童生徒の無解答の状況(地区別)
- 5 県内各市町村教育委員会の平均正答率度数分布

調査結果にはどのような特徴があるの？
どのような方法で分析したらいいの？

【書き込み活用ページ①】教科に関する調査結果の整理

III 各教科の調査結果



- 1 小学校国語
- 2 小学校算数
- 3 中学校国語
- 4 中学校数学
- 5 中学校英語

教科区分によってどのような傾向があるの？
どのような問題が得意で、どのような問題が苦手なの？

IV 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析



- 授業への取組状況
- 学習への興味・関心や理解度
- 基本的な生活習慣等
- 挑戦心、達成感、自己有用感等
- 学習習慣、学習環境等

児童生徒質問紙の結果にはどのような特徴があるの？
学力と質問紙の結果をどのように分析したらいいの？

V 学校質問紙に関する調査結果と分析



- 授業改善に関する取組状況
- 非認知的能力の育成を図る取組
- 学習環境等
- 学校運営
- ICTを活用した学習状況

学校質問紙の結果にはどのような特徴があるの？
学力と質問紙の結果をどのように分析したらいいの？

【書き込み活用ページ②】質問紙調査結果の整理

VI

令和5年度福岡県学力調査



31

- 1 調査の概要
- 2 調査結果の概要
- 3 各学年の調査結果

調査結果にはどのような特徴があるの？

VII

まとめと今後の取組



43

- 1 まとめ
- 2 今後の取組

これまでの取組からどのような成果があったの？
また、どのような課題が明らかとなっているの？
今後、どのような取組が必要なの？

VIII

今後、本県が育成を目指す「資質・能力」



45

- 1 資質・能力の三つの柱について
- 2 育成を目指す「資質・能力」のイメージ
- 3 「資質・能力」を向上させる学校経営(例)

IX

成果を上げている事例の紹介



47

- 1 事例紹介の内容や方法について
- 2 成果を上げている事例の紹介<小学校>
 - ・ A小学校 第6学年(学級数:1学級 約35名)
 - ・ B小学校 第6学年(学級数:3学級 約80名)
 - ・ C小学校 第6学年(学級数:1学級 約30名)
 - ・ D小学校 第6学年(学級数:2学級 約60名)
 - ・ E小学校 第6学年(学級数:2学級 約50名)
 - ・ F小学校 第6学年(学級数:2学級 約60名)
- 3 成果を上げている事例の紹介<中学校>
 - ・ A中学校 第3学年(学級数:2学級 約60名)
 - ・ B中学校 第3学年(学級数:6学級 約230名)
 - ・ C中学校 第3学年(学級数:5学級 約160名)
 - ・ D中学校 第3学年(学級数:6学級 約240名)
 - ・ E中学校 第3学年(学級数:3学級 約120名)
 - ・ F中学校 第3学年(学級数:2学級 約70名)

学校ではどのような取組が
成果につながっているの？

X

資料

66

- 1 各教科結果の市町村別の状況
- 2 児童生徒質問紙の回答状況
- 3 学校質問紙の回答状況
- 4 本県が育成を目指す「資質・能力」の視点に立ったこれまでの取組

令和5年度全国学力・学習状況調査

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象の学年

- ・小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の方式

文部科学省による悉皆方式の調査として実施

4 調査日

令和5年4月18日(火)

5 調査の内容

- (1) 教科に関する調査(調査時間:小学校は各教科45分間、中学校は国語及び数学50分間、英語「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」45分間、「話すこと」5分間)
小学校は国語及び算数、中学校は国語、数学及び英語に関する調査
- (2) 児童生徒質問紙調査(調査時間:20分程度)
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- (3) 学校質問紙調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

6 調査問題の設問数及び問題形式

	小学校調査		中学校調査			
教科	国語	算数	国語	数学	英語	
設問数	14問	16問	15問	15問	17問	
	選択式	9問	5問	7問	4問	12問
	短答式	2問	7問	4問	6問	3問
	記述式	3問	4問	4問	5問	2問

7 調査日(4月18日)に調査を実施した公立学校数・児童生徒数

小学校調査	学校数(校)	児童数(人)	
		国語	算数
全国(公立)	18,641	964,177	964,350
福岡県(公立)	708	43,025	43,043
福岡教育事務所	118	9,887	9,892
北九州教育事務所	46	1,895	1,897
北筑後教育事務所	79	4,061	4,067
南筑後教育事務所	85	3,015	3,013
筑豊教育事務所	56	2,260	2,263
京築教育事務所	47	1,577	1,576
指定都市	273	20,322	20,327
県立学校	4	8	8

中学校調査	学校数(校)	生徒数(人)		
		国語	数学	英語
全国(公立)	9,369	892,738	893,114	893,528
福岡県(公立)	337	39,798	39,801	39,825
福岡教育事務所	58	9,297	9,291	9,301
北九州教育事務所	19	1,773	1,776	1,778
北筑後教育事務所	34	3,749	3,744	3,744
南筑後教育事務所	35	2,803	2,803	2,802
筑豊教育事務所	28	2,113	2,113	2,112
京築教育事務所	20	1,359	1,359	1,361
指定都市	133	18,252	18,263	18,272
県立学校	10	452	452	455

福岡県全体を各地区等に分けて表すと、学校数や児童生徒数等には違いがあります。そのため、他地区(他校)の取組を参考にしながらも、各地区(学校)における丁寧な実態分析に基づいた取組の推進が重要です。



Ⅱ 調査結果の概要

Ⅰ 調査結果の概況

		小学校（公立）			中学校（公立）		
		平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率	平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率
国語	福岡県	9.5	101.1	68	10.5	100.0	70
	全国	9.4 / 14	(100.0)	67.2	10.5 / 15	(100.0)	69.8
算数 数学	福岡県	10.0	100.0	62	7.6	100.0	51
	全国	10.0 / 16	(100.0)	62.5	7.6 / 15	(100.0)	51.0
英語	福岡県				注 7.1	92.2	42
	全国				注 7.7 / 17	(100.0)	45.6

平均正答数：児童生徒の正答数の平均のこと。

標準化得点：全国の平均正答数を100としたときの本県の平均得点のこと。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。

注は、英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の集計値。
(英語「話すこと」は、都道府県別の公表はなし。)

2 教科に関する調査の結果

- 国語及び算数・数学は、小学校、中学校ともに全国平均以上であった。
- 中学校英語は、全国平均を下回った。



毎年行われている国語、算数・数学において、**小学校・中学校ともに、全国平均水準を堅調に維持**しています。

3 標準化得点と学力層(四分位)の推移

※ 平成31(令和元)年度からA・B問題が統合されたため、H19~H30は参考。

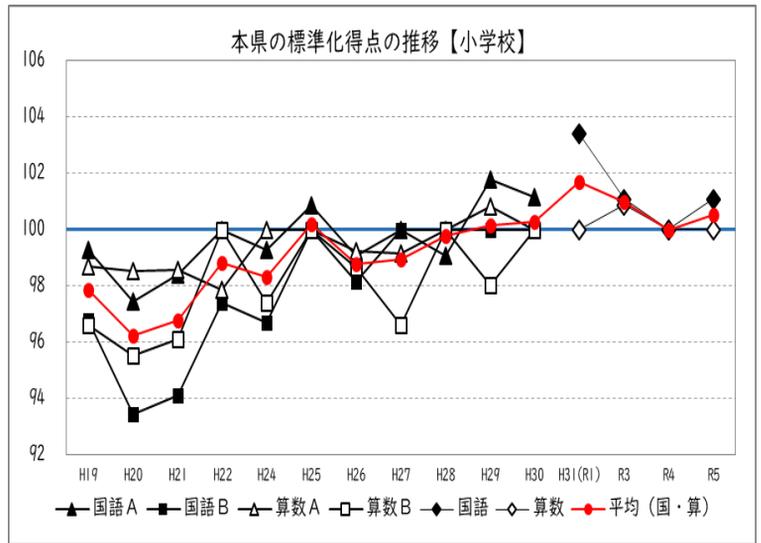
※ 英語は3回に1回で調査を実施。(今回は平成31年度)

(1) 本県の標準化得点の推移

<小学校>

- 前回との比較では、国語は1.1ポイント上昇した。
- 経年での比較では、国語は6回、算数は5回連続して全国平均以上の結果だった。

	国語A	国語B	算数A	算数B
H19	99.3	96.8	98.7	96.6
H20	97.5	93.4	98.5	95.5
H21	98.4	94.1	98.6	96.1
H22	100.0	97.4	97.9	100.0
H24	99.3	96.7	100.0	97.4
H25	100.9	100.0	100.0	100.0
H26	99.1	98.2	99.2	98.7
H27	100.0	100.0	99.2	96.6
H28	99.1	100.0	100.0	100.0
H29	101.8	100.0	100.8	98.0
H30	101.2	100.0	100.0	100.0
	国語		算数	
H31(R1)	103.4		100.0	
R2				
R3	101.1		100.9	
R4	100.0		100.0	
R5	101.1		100.0	

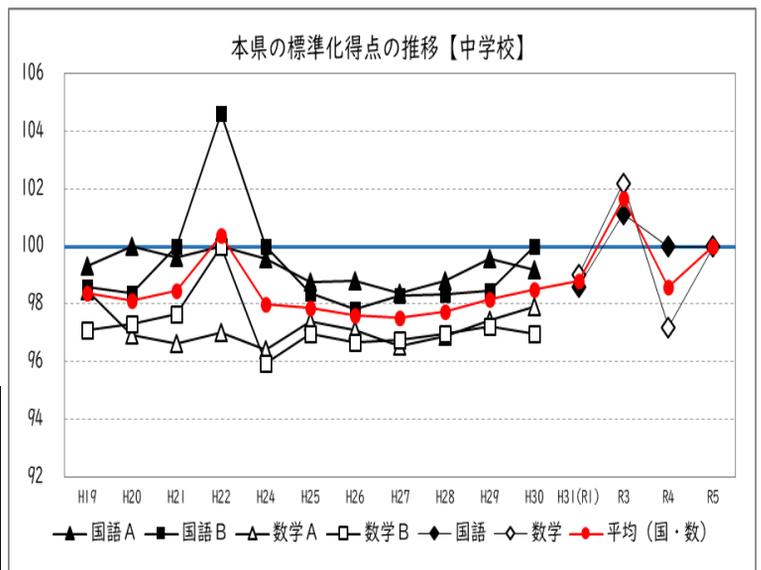


<中学校>

- 前回との比較では、数学は2.8ポイント上昇し、英語は4.4ポイント下降した。
- 経年での比較では、国語は3回連続して全国平均以上の結果だった。

	国語A	国語B	数学A	数学B
H19	99.3	98.6	98.5	97.1
H20	100.0	98.4	96.9	97.3
H21	99.6	100.0	96.6	97.6
H22	100.0	104.6	97.0	100.0
H24	99.6	100.0	96.4	95.9
H25	98.8	98.4	97.4	97.0
H26	98.8	97.8	97.1	96.7
H27	98.4	98.3	96.6	96.8
H28	98.8	98.3	96.9	97.0
H29	99.6	98.5	97.4	97.2
H30	99.2	100.0	97.9	97.0
	国語		数学	
H31(R1)	98.6		99.0	
R2				
R3	101.1		102.2	
R4	100.0		97.2	
R5	100.0		100.0	

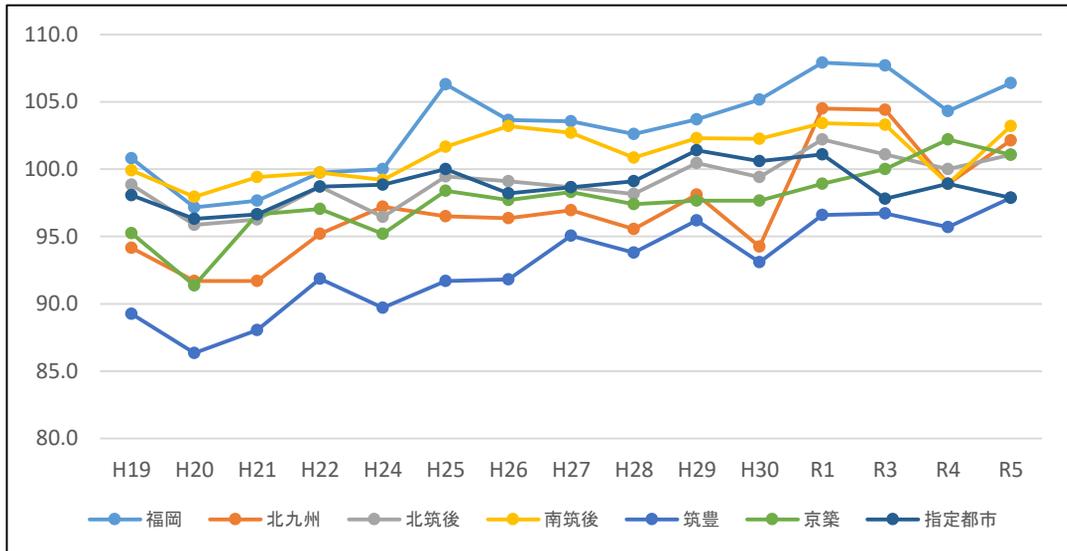
	英語
H31(R1)	96.6
R2	
R3	
R4	
R5	92.2



(2) 教科ごとの地区別標準化得点の推移

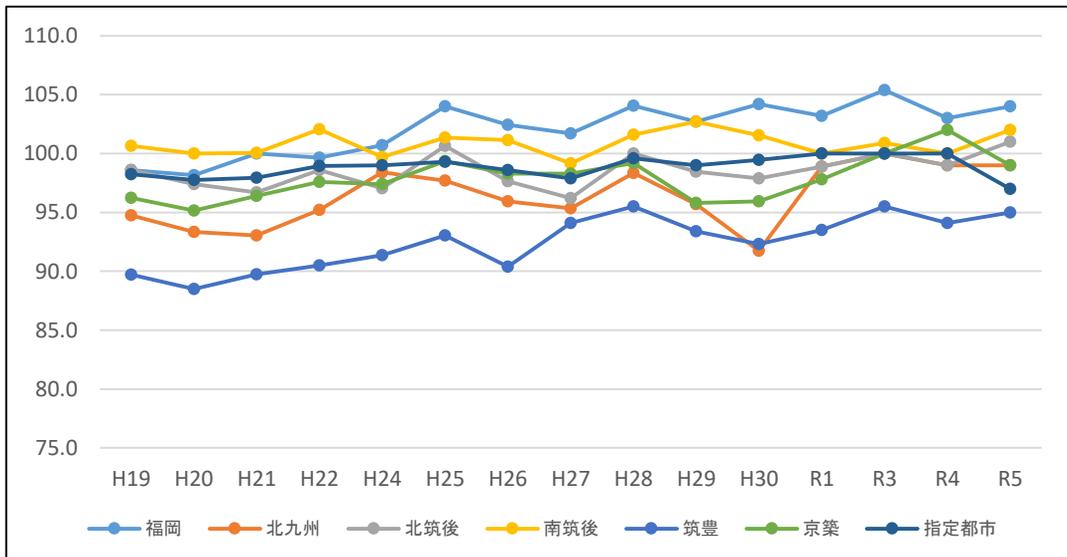
※ 折れ線グラフ(地区別標準化得点)のH19~H30は、A・B問題の平均値。

<小学校国語>



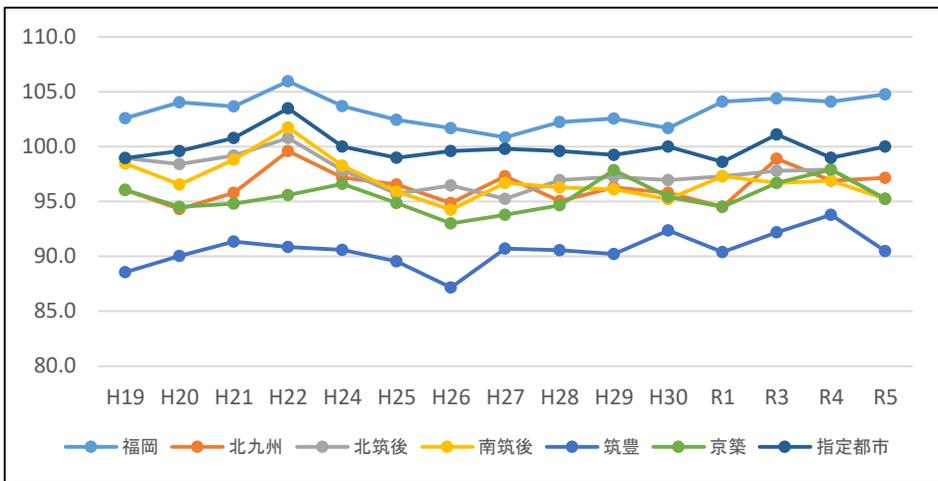
- 7地区中5地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区中5地区で上昇した。

<小学校算数>



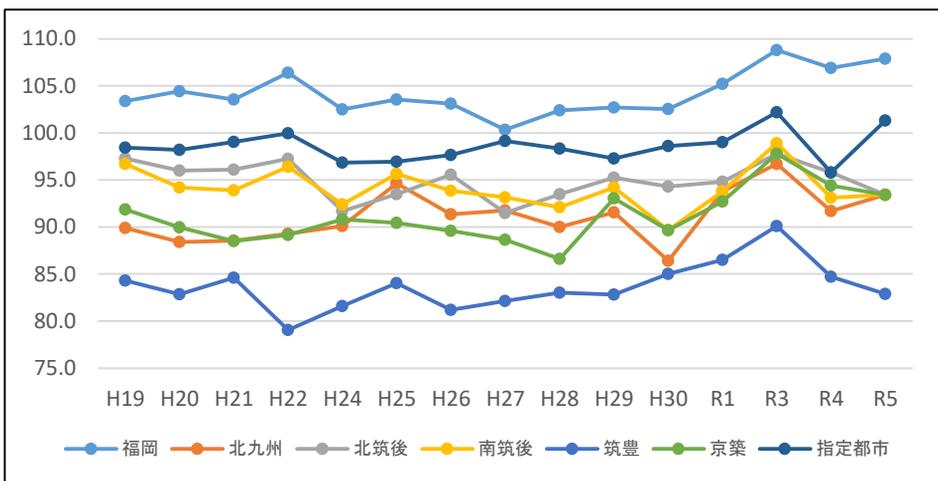
- 7地区中3地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区中4地区で上昇した。

<中学校国語>



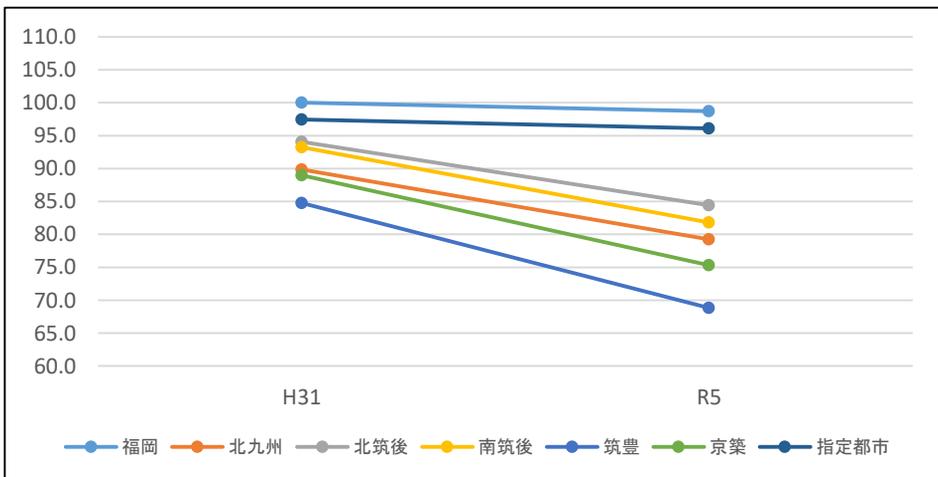
- 7地区中2地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区中3地区で上昇した。

<中学校数学>



- 7地区中2地区が全国平均以上であった。
- 前回と比較すると、7地区中4地区で上昇した。

<中学校英語>



- 全ての地区が全国平均以下であった。
- 前回と比較すると、全ての地区で下降した。

(3) 本県の学力層(四分位)の結果

ア 学力層(四分位)とは

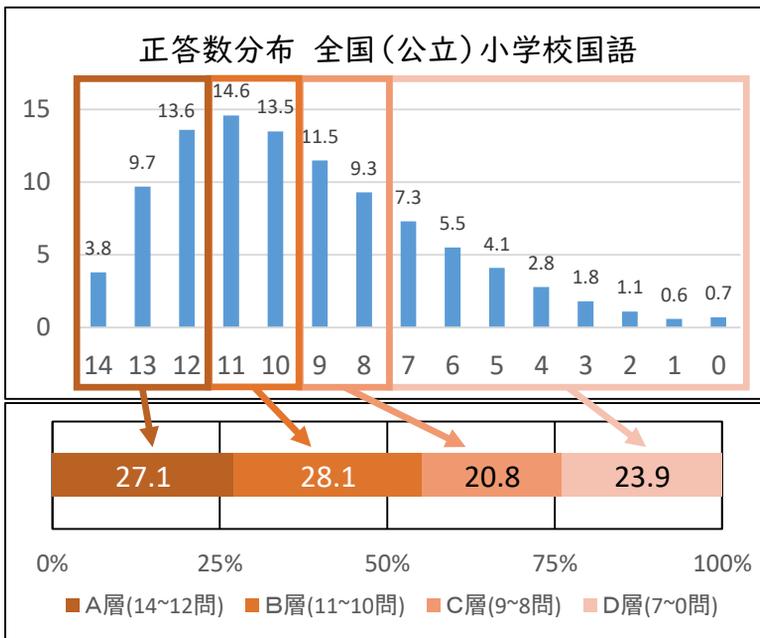
各正答数の児童生徒の割合の合計について、正答数が多い方から順に25%、50%、75%を基準として区切り、それぞれA層、B層、C層、D層としたもの。

(例) 令和5年度全国学力・学習状況調査(小学校国語)【全国(公立)の結果】

正答数分布グラフは、横軸に正答数、縦軸に割合を表している。

正答数の割合を積算していく、25%、50%、75%を超えた正答数が各層の区切りとなる。

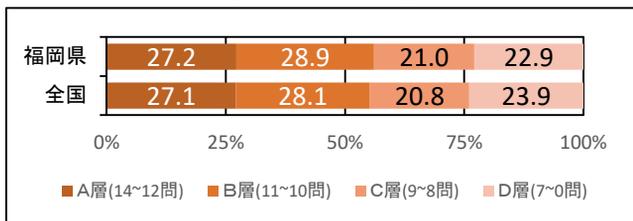
学力層(四分位)の区切りとなる25%、50%、75%を含む正答数の人数は全て、上位の層に含まれるため、各層はきれいに25%ずつにならず、前後する。



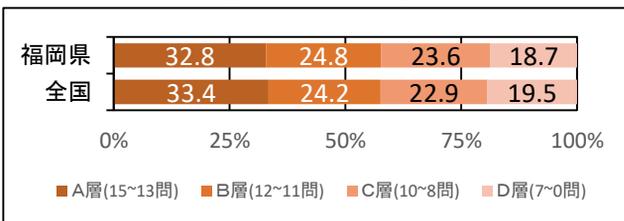
イ 本年度の本県と全国の学力層(四分位)の結果

全国の学力層(四分位)と同じ区切りで本県の学力層(四分位)を算出し比較する。

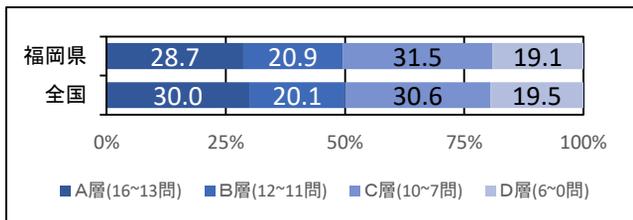
【小学校国語】



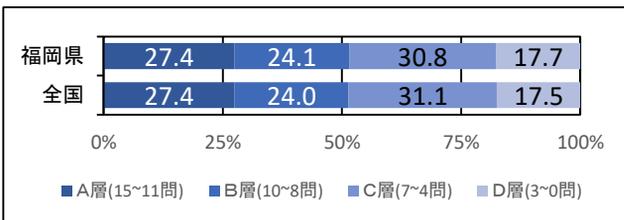
【中学校国語】



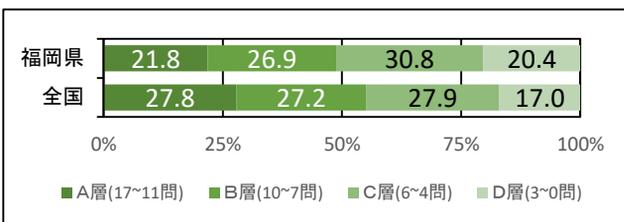
【小学校算数】



【中学校数学】



【中学校英語】

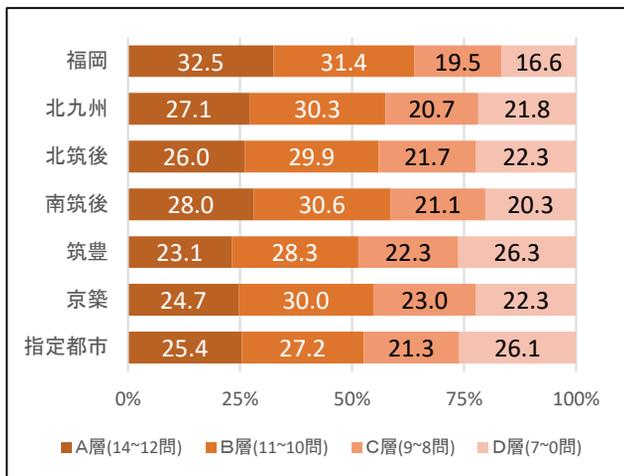


※各層の四捨五入の影響で、各層の合計が100%とならないことがある

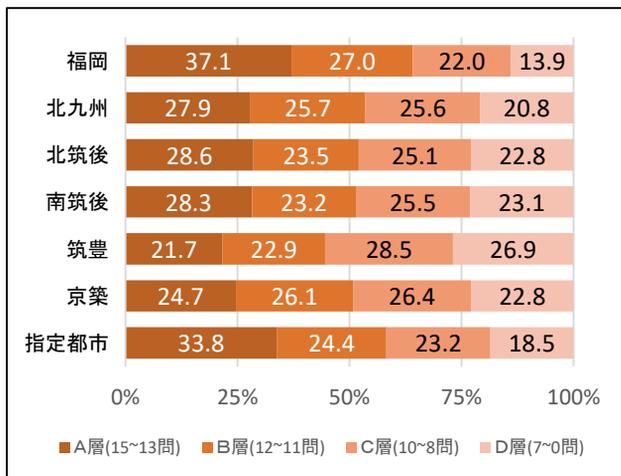
ウ 本年度の各地区の学力層(四分位)の結果

全国の学力層(四分位)と同じ区切りで各地区の学力層(四分位)を算出し比較する。

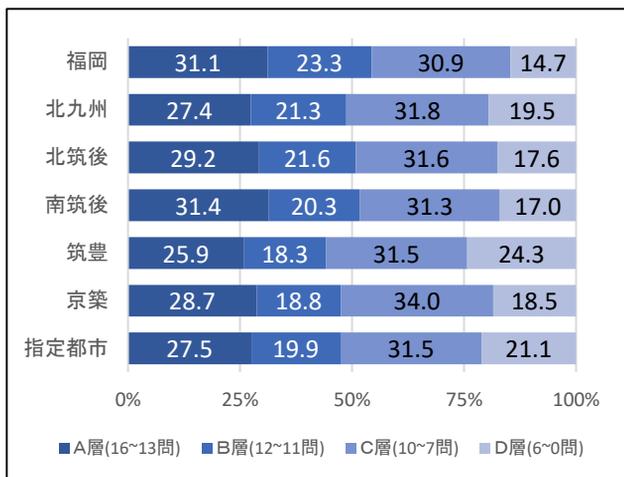
【小学校国語】



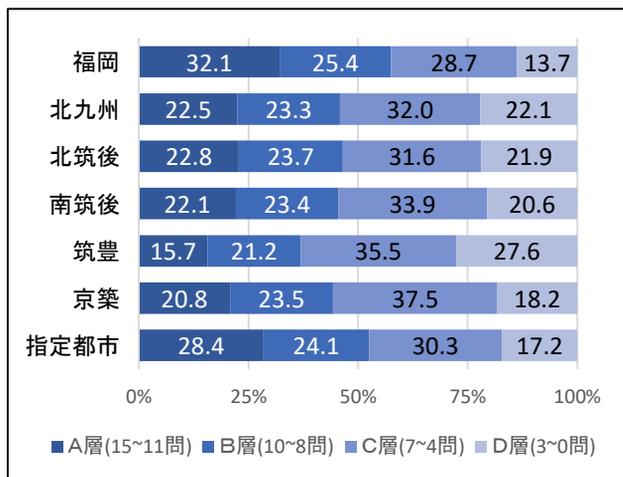
【中学校国語】



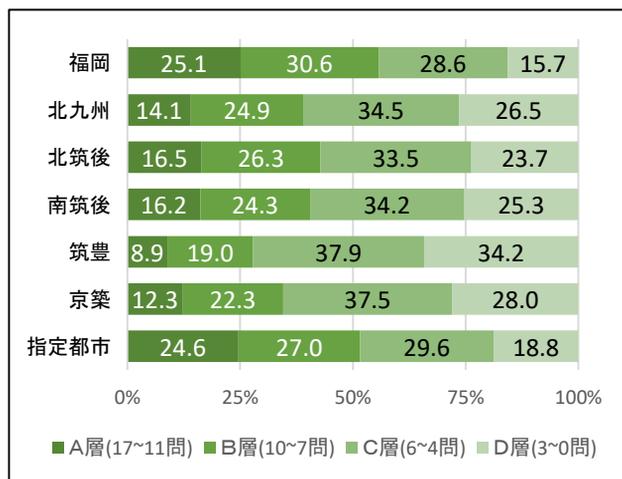
【小学校算数】



【中学校数学】



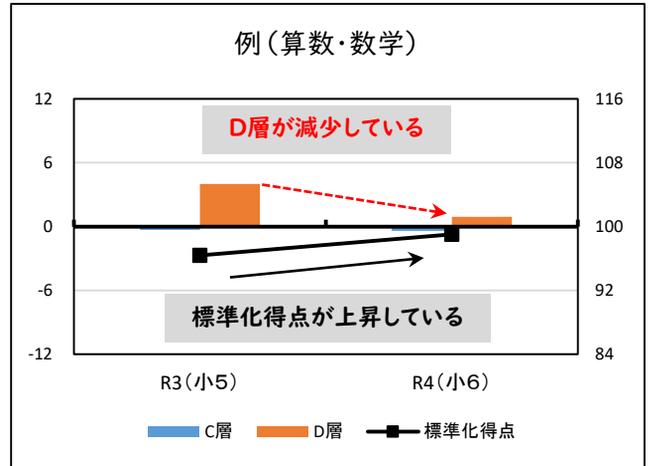
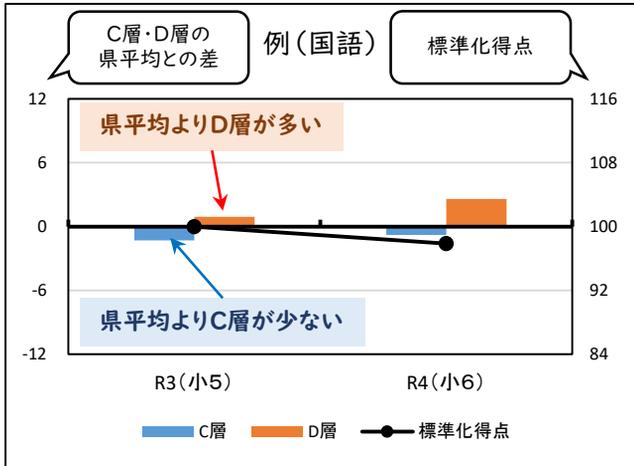
【中学校英語】



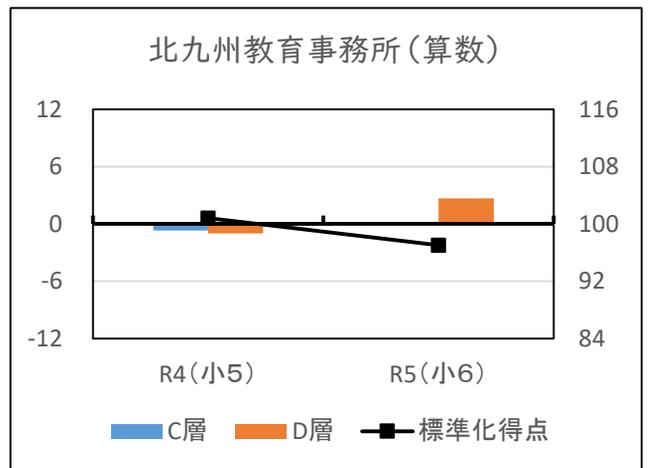
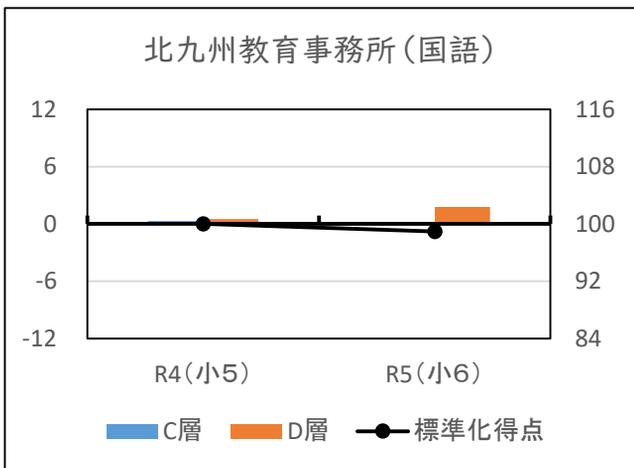
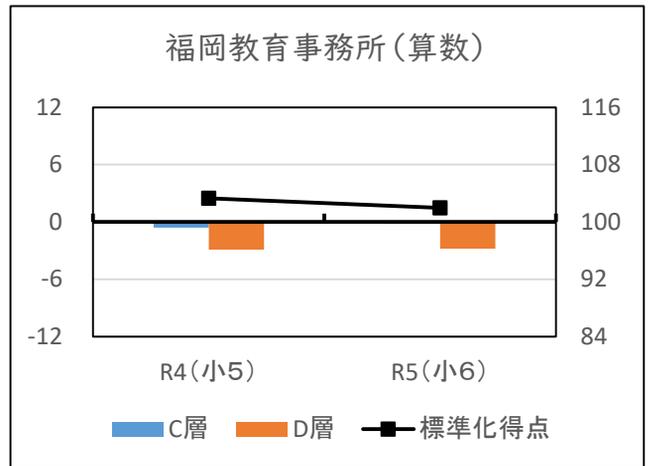
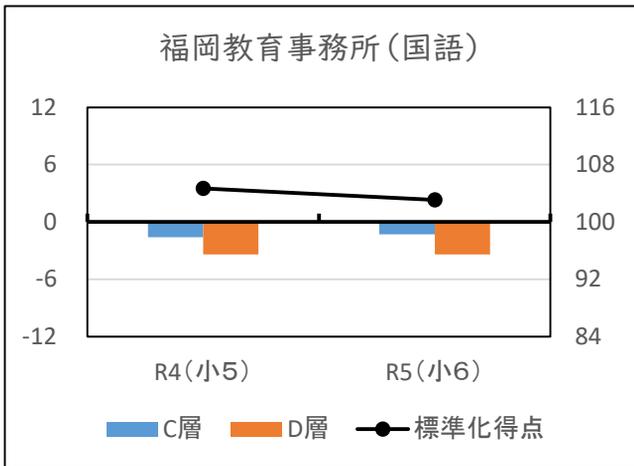
(4) 同一集団の学力層(C層・D層)の県平均との差と標準化得点の推移

同一集団

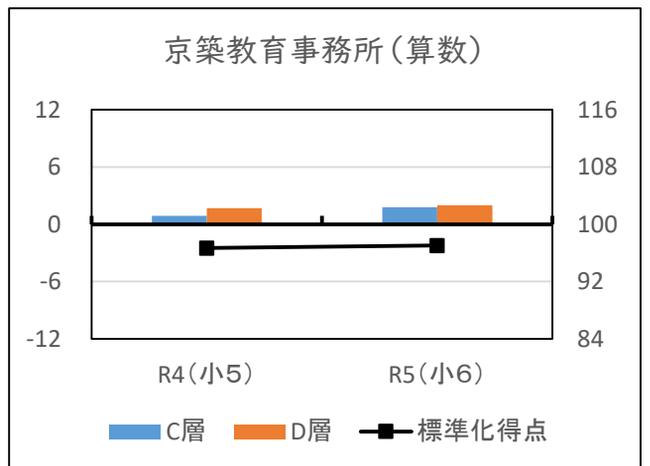
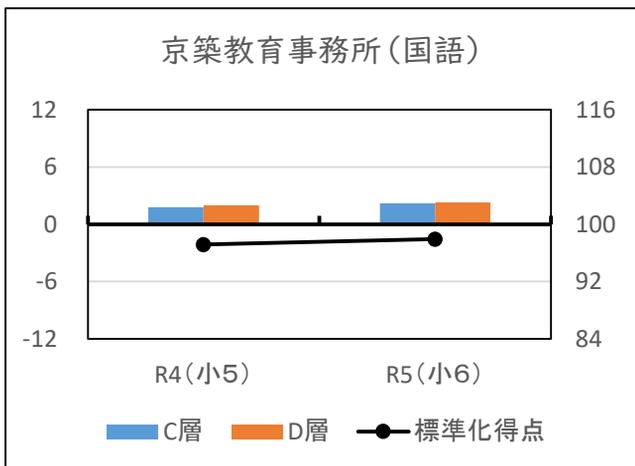
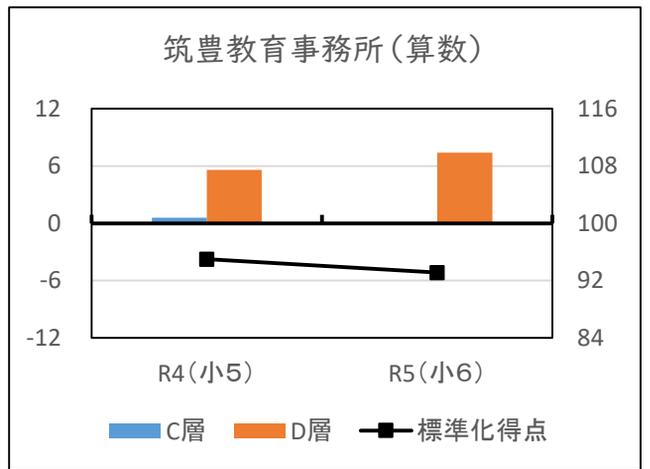
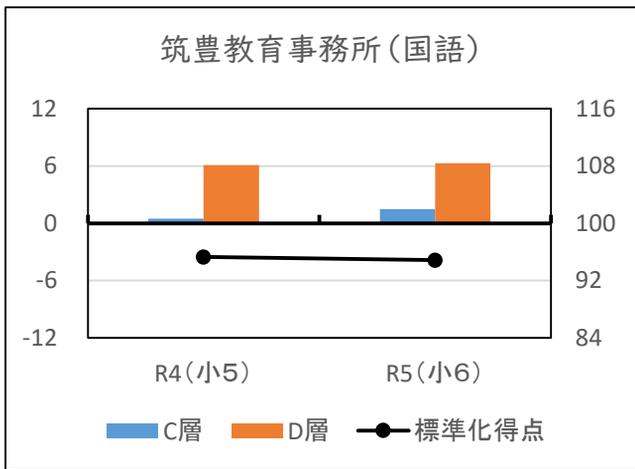
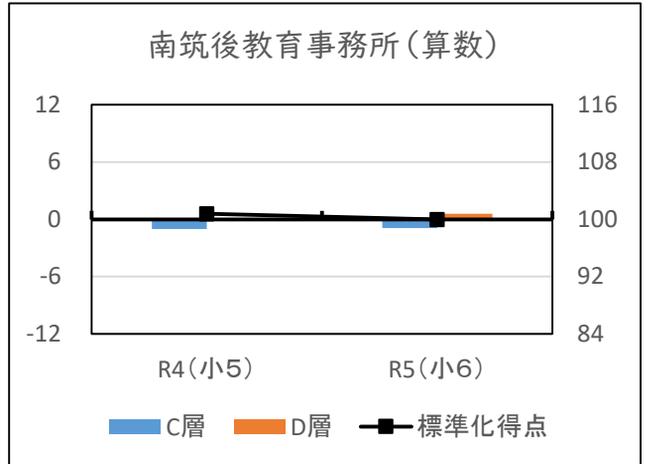
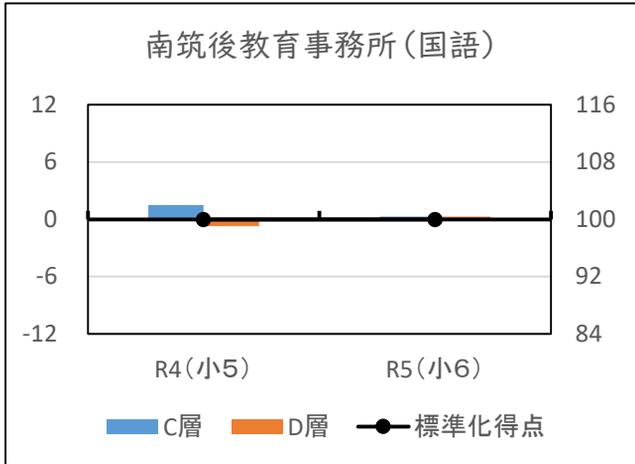
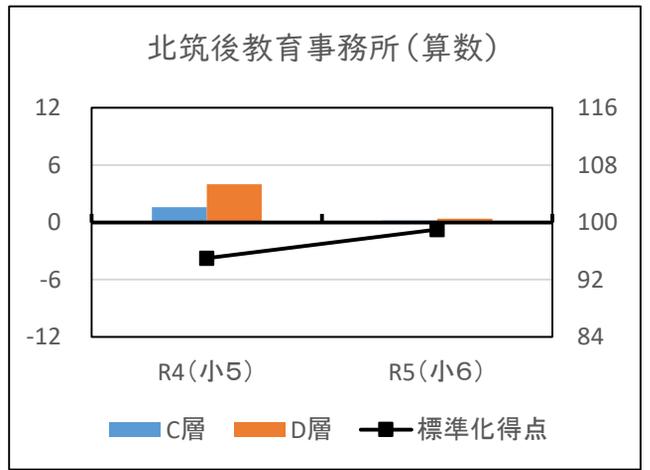
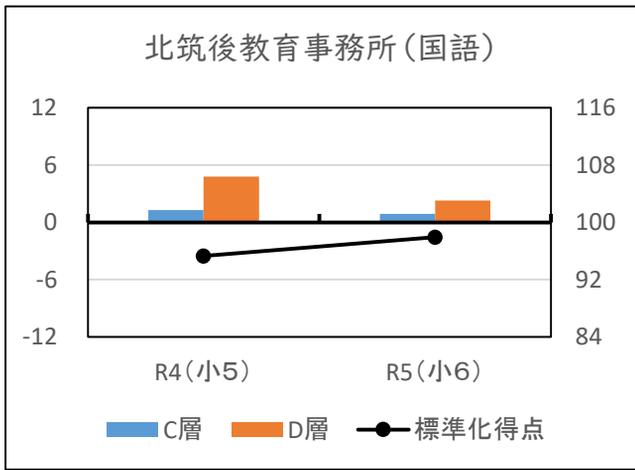
下の図は、指定都市を除く各教育事務所における学力層(C層・D層)の県平均との差の推移を棒グラフで表し、標準化得点の推移を折れ線グラフで表している(左の縦軸は各教育事務所における学力層(C層・D層)の県平均との差、右の縦軸は標準化得点)。



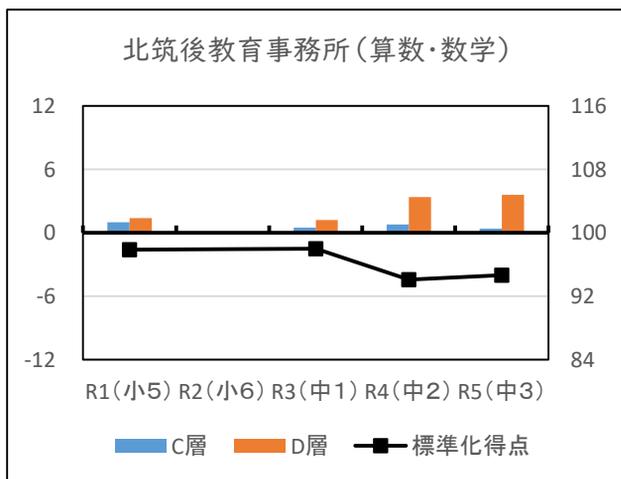
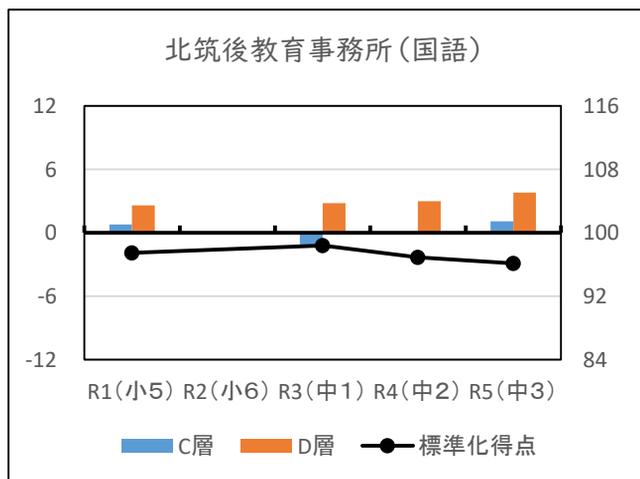
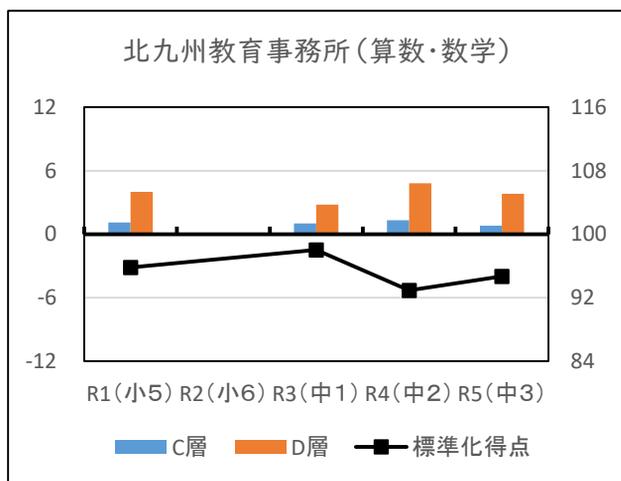
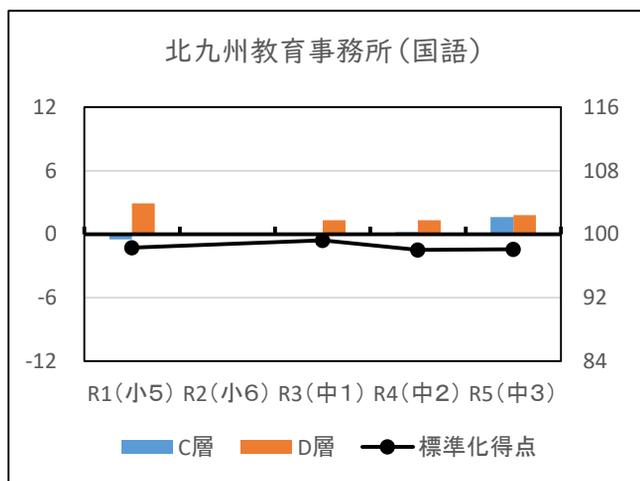
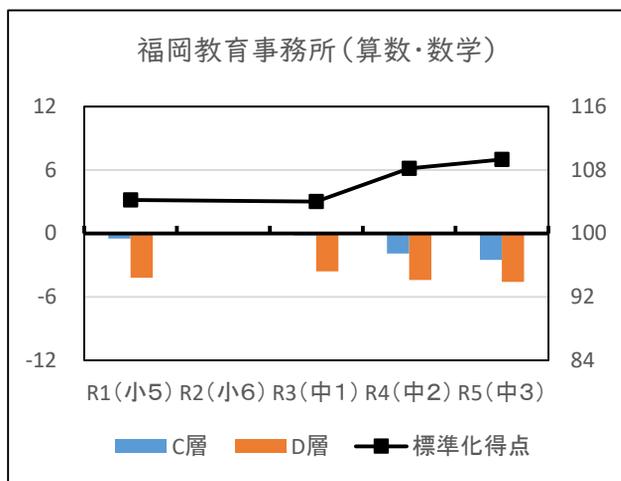
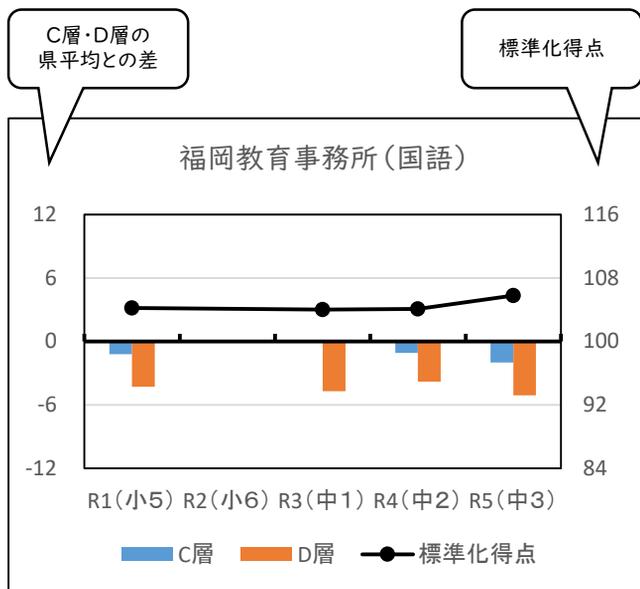
ア 令和4年度小学校5年生(県調査)～令和5年度小学校6年生(全国調査)の推移

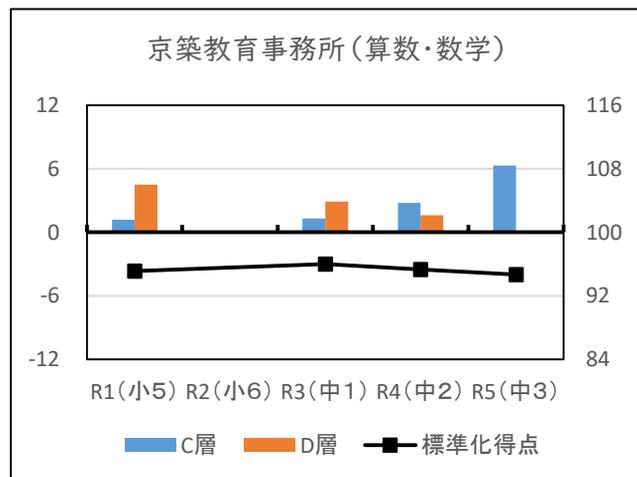
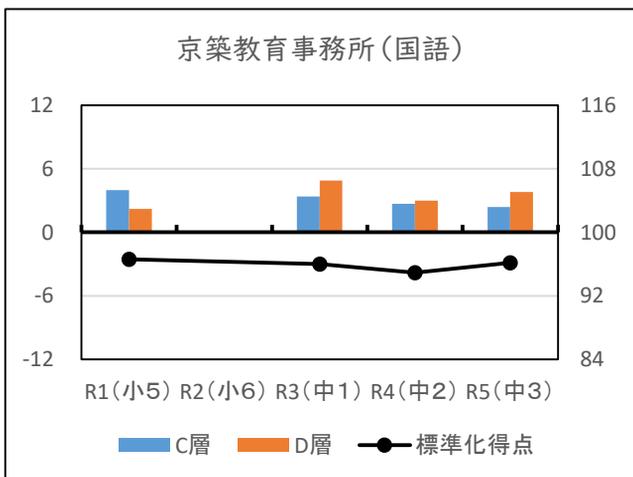
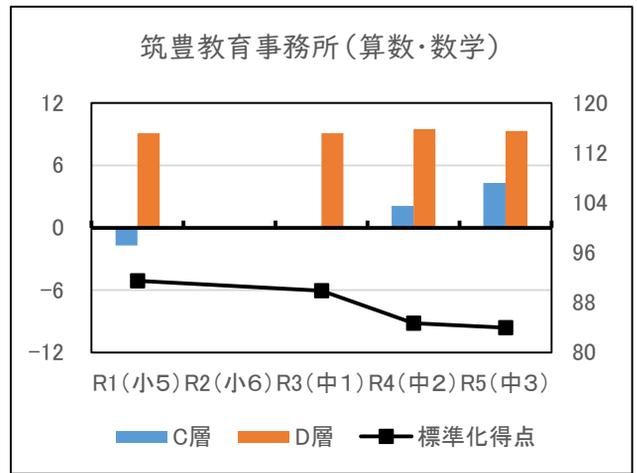
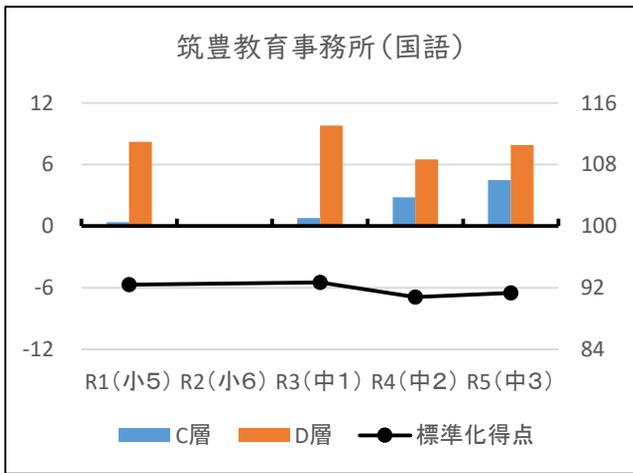
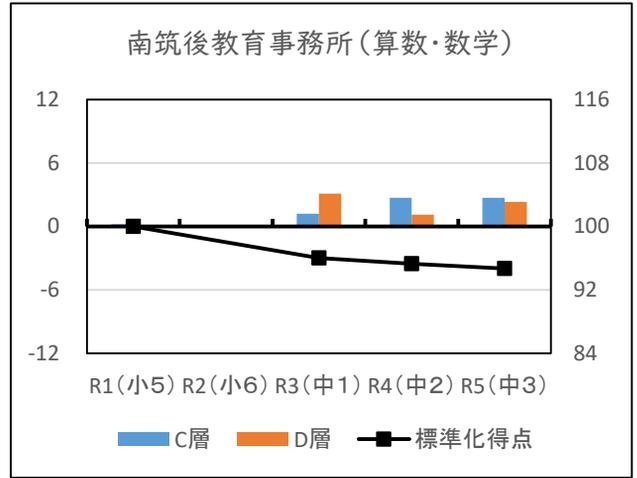
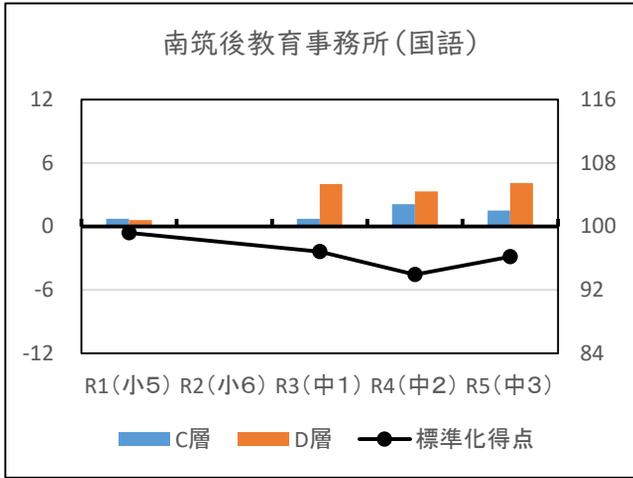


全ての児童生徒の学力を育成していくために、同じ児童生徒集団の学力の状況を追跡し、経年で分析することで指導や支援の効果の検証が可能になります。特に、「標準化得点」と「学力層」を関連付けて分析することで指導や支援の妥当性が検証できます。



イ 同一集団の令和元年度小学校5年生(県調査)～令和5年度中学校3年生(全国調査)の推移

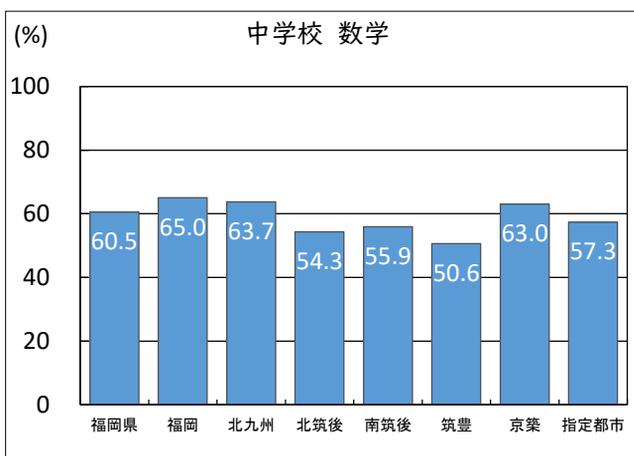
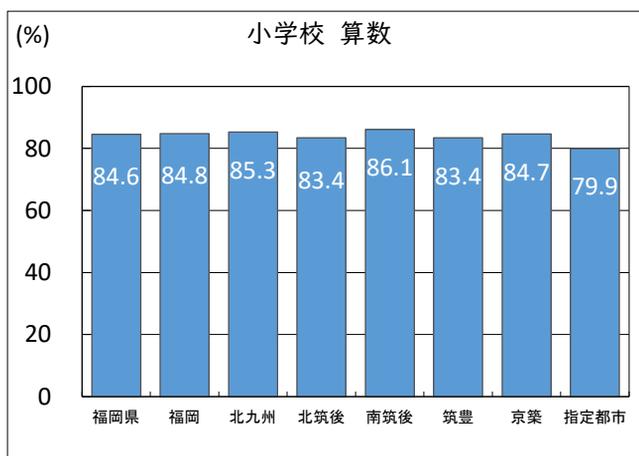
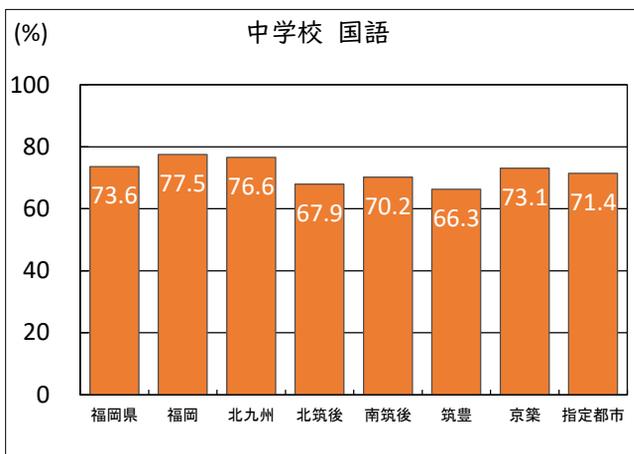
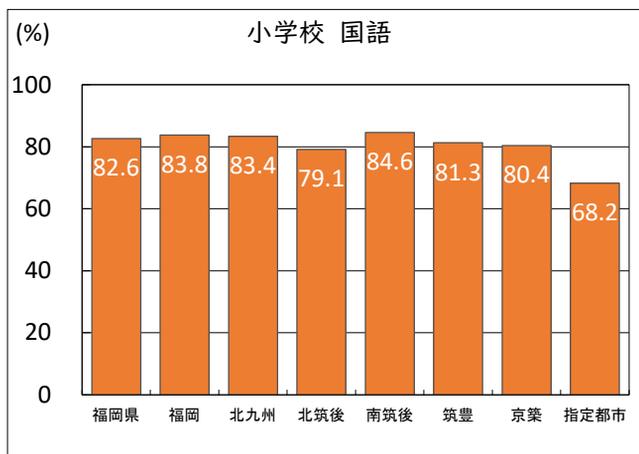




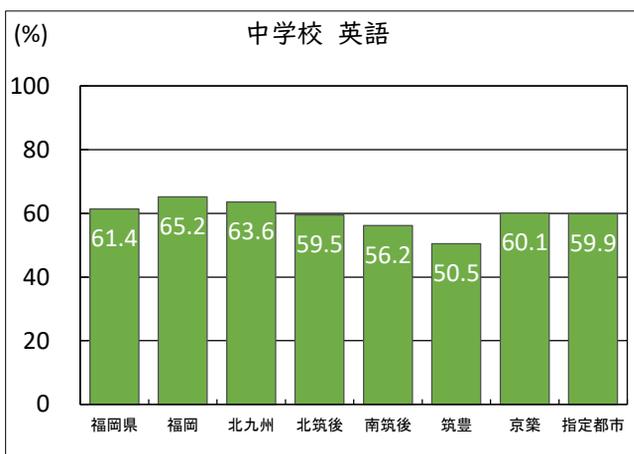
4 児童生徒の無解答の状況(地区別)

(1) 教科区分ごとの「無解答なし」の児童生徒の状況

※ 棒グラフの値は、「無解答なし」(全て解答した)の児童生徒の割合



- 小学校では、算数の「無解答なし」(全て解答した児童)の割合が高い。
- 中学校では、国語の「無解答なし」(全て解答した生徒)の割合が高い。



(2) 記述問題における「無解答率」、「平均正答率」、「解答類型(その他)」の状況

- 小学校、中学校ともに、全国と比べて、無解答率が高い地区が少ない。
- 県全体でみると無回答率は全ての問題で全国より低い、小学校算数の3(2)、中学校国語の3四、中学校数学9(1)のように、平均正答率が低く、解答類型(その他)が全国よりも高い問題がある。→ 解答を記入するだけでなく、問題の意図や場面を解釈した上で、目的や条件を意識した「書く活動」を行うことが大切である。

令和5年度全国・学習状況調査 各教科【記述式】問題の平均正答率・無解答率・解答類型(その他)の状況(各教育事務所)

教科	問題番号	出題の趣旨	無解答率(%)								正答率(%)								解答類型(その他)の割合(%)										
			福岡	北九州	北筑後	南筑後	筑豊	京築	指定都市	福岡県	全国	福岡	北九州	北筑後	南筑後	筑豊	京築	指定都市	福岡県	全国	福岡	北九州	北筑後	南筑後	筑豊	京築	指定都市	福岡県	全国
小学校 国語	1二	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	4.6	5.0	5.5	4.6	6.7	6.3	8.2	6.6	7.1	32.2	29.9	27.1	28.8	24.2	28.0	25.2	27.5	26.7	5.2	6.5	7.3	6.9	8.5	7.9	9.0	7.7	7.8
	2四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	5.8	5.6	7.4	5.2	6.7	7.3	10.6	8.3	8.5	62.6	61.8	56.7	62.7	56.9	60.7	52.8	57.0	56.2	1.5	1.7	1.6	1.5	1.7	1.5	2.6	2.1	2.1
小学校 算数	1(3)	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3.1	3.6	2.9	2.4	3.5	3.1	3.4	3.2	3.4	60.0	54.7	55.6	56.0	52.6	54.5	55.0	56.1	55.5	9.2	10.3	9.8	10.7	13.5	11.5	10.6	10.4	10.3
	3(2)	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	2.8	3.2	3.8	2.3	3.5	3.2	4.4	3.7	4.0	59.7	54.1	54.8	56.3	50.4	51.6	55.4	55.9	56.7	16.7	21.1	18.6	19.7	24.7	20.8	19.8	19.4	18.8
中学校 国語	2四	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	3.0	3.2	4.1	4.0	4.5	2.6	3.4	3.4	3.9	73.0	69.7	66.7	63.8	61.2	67.7	69.2	69.1	67.5	10.7	12.7	14.9	15.1	16.4	13.2	12.0	12.5	13.1
	3四	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	7.6	9.1	10.9	10.4	11.6	9.6	9.9	9.5	10.2	75.1	67.8	67.4	68.1	63.2	67.4	71.2	71.0	72.1	5.2	5.3	8.3	6.8	8.7	6.3	6.2	6.3	5.4
中学校 数学	6(2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	7.5	9.9	13.1	10.3	12.9	7.0	10.1	9.8	10.6	66.5	57.7	55.5	59.2	49.6	60.6	61.0	61.0	58.8	10.6	15.7	14.1	12.8	18.4	15.2	12.6	12.7	12.6
	8(3)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	8.2	9.6	10.7	11.1	10.5	7.6	11.6	10.4	13.2	50.2	41.2	41.4	41.1	32.8	41.1	42.5	43.6	42.8	0.4	0.3	0.4	0.3	0.8	0.5	0.4	0.4	0.7
	9(1)	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	18.5	22.5	27.0	25.2	31.2	21.5	24.6	23.5	24.7	33.3	24.3	26.1	24.3	17.3	25.2	29.2	28.7	32.1	13.7	17.8	12.7	15.9	17.6	16.3	13.7	14.2	12.3
中学校 英語	8(2)	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	25.1	27.2	30.4	31.6	37.8	28.0	29.7	29.0	29.3	16.4	11.4	15.7	12.7	8.9	10.9	16.8	15.7	19.5	2.6	2.4	2.0	2.6	3.0	3.8	2.4	2.5	2.6
	10	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	18.1	21.7	21.2	22.5	26.5	17.7	20.0	20.1	21.4	5.8	3.4	4.3	3.5	1.8	2.9	7.1	5.8	7.4	2.7	4.0	3.1	3.9	6.2	3.9	2.9	3.2	3.3

※ 無解答率の網掛け及び解答類型(その他)の網掛けは「全国より高い値」、平均正答率の網掛けは「全国より低い値」である。

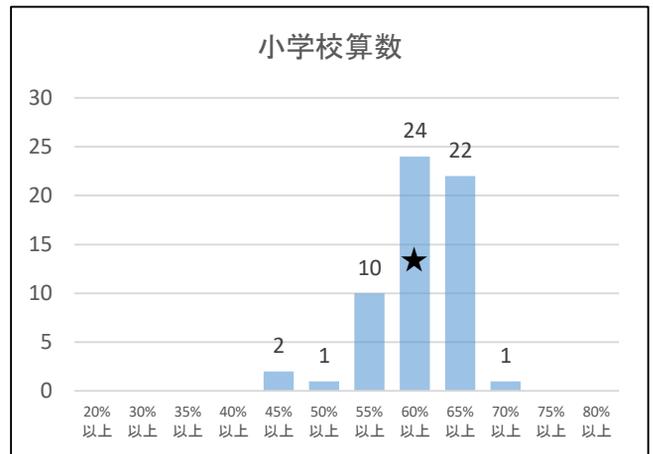
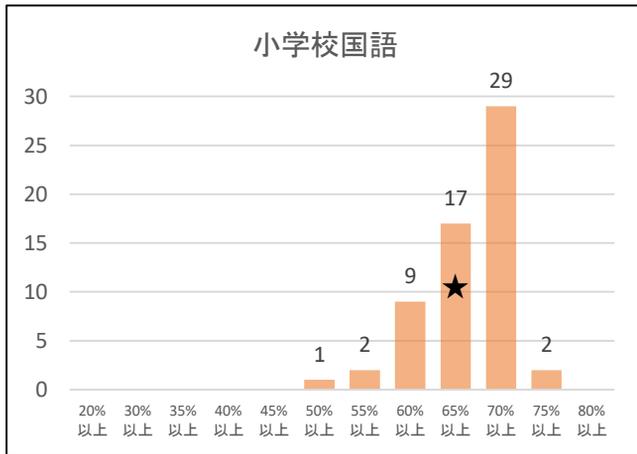
5 県内各市町村教育委員会の平均正答率度数分布

※ グラフの縦軸は、福岡県内の市町村教育委員会の数を表している。

★は全国平均を示す。

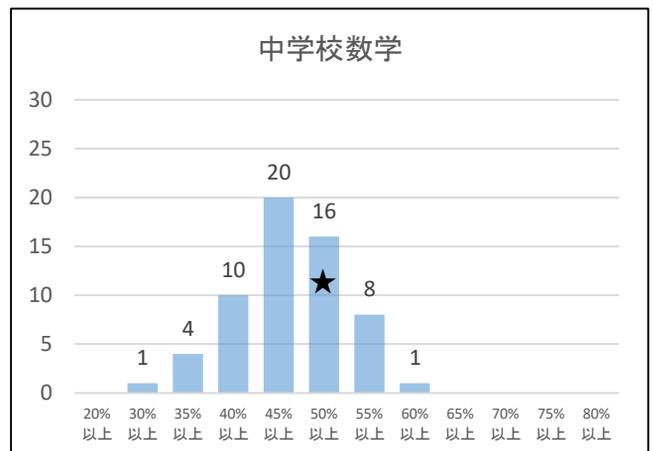
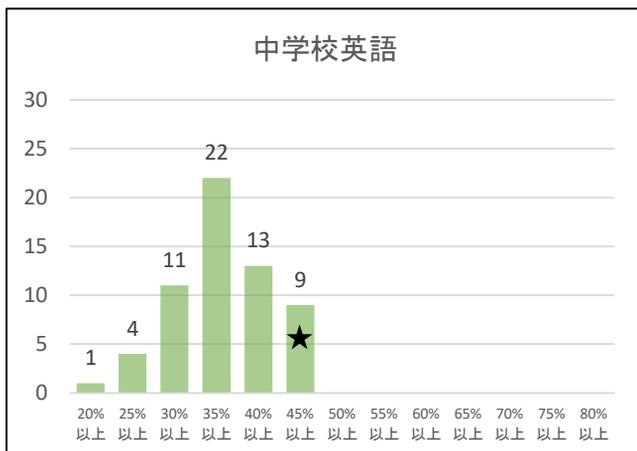
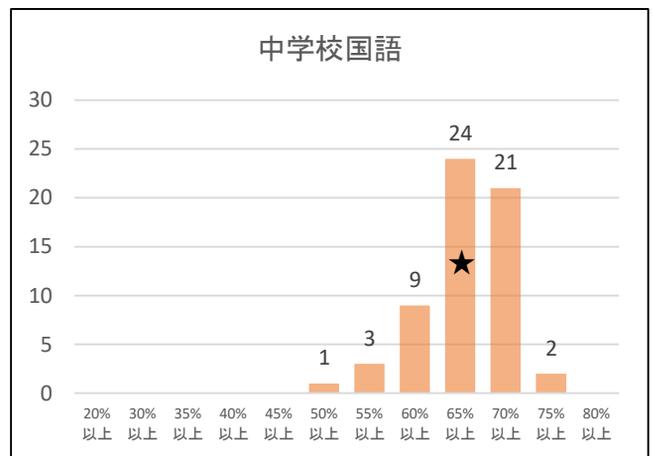
【小学校】

- 国語は、全国平均の階級（★印）よりも1つ上の階級に最も多くの市町村が集まっている。
- 算数は、全国平均の階級（★印）と同じ階級に最も多くの市町村が集まっている。



【中学校】

- 国語は、全国平均の階級（★印）と同じ階級に最も多くの市町村が集まっている。
- 数学は、全国平均の階級（★印）よりも1つ下の階級に最も多くの市町村が集まっている。
- 英語は、全国平均の階級（★印）よりも2つ下の階級に最も多くの市町村が集まっている。



【書き込み活用ページ①】 教科に関する調査結果の整理

令和5年度全国学力・学習状況調査結果をもとに学校の取組等を見直す際、以下のような内容については、把握しておくことが重要です。(記入は色塗りの空欄部分)

◆ 調査結果の概要 (本報告書:3ページ参照)

		小学校 (公立)			中学校 (公立)		
		平均正答数/出題数	標準化得点	平均正答率	平均正答数/出題数	標準化得点	平均正答率
国語	本校						
	全国	9.4 / 14	(100.0)	67.2	10.5 / 15	(100.0)	69.8
算数 数学	本校						
	全国	10.0 / 16	(100.0)	62.5	7.6 / 15	(100.0)	51.0
英語	本校						
	全国				注 7.7 / 17	(100.0)	45.6

◆ 学力層(四分位)の状況(本報告書:7ページ参照)

※「福岡県」には指定都市を含むため、同一集団推移の基準となる「指定都市を除く県の平均」とは異なる。

【小学校国語】

	A層 14~12問	B層 11~10問	C層 9~8問	D層 7~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	27.2%	28.9%	21.0%	22.9%
全国	27.1%	28.1%	20.8%	23.9%

【中学校国語】

	A層 15~13問	B層 12~11問	C層 10~8問	D層 7~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	32.8%	24.8%	23.6%	18.7%
全国	33.4%	24.2%	22.9%	19.5%

【小学校算数】

	A層 16~13問	B層 12~11問	C層 10~7問	D層 6~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	28.7%	20.9%	31.5%	19.1%
全国	30.0%	20.1%	30.6%	19.5%

【中学校数学】

	A層 15~11問	B層 10~8問	C層 7~4問	D層 3~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	27.4%	24.1%	30.8%	17.7%
全国	27.4%	24.0%	31.1%	17.5%

【中学校英語】

	A層 17~11問	B層 10~7問	C層 6~4問	D層 3~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	21.8%	26.9%	30.8%	20.4%
全国	27.8%	27.2%	27.9%	17.0%

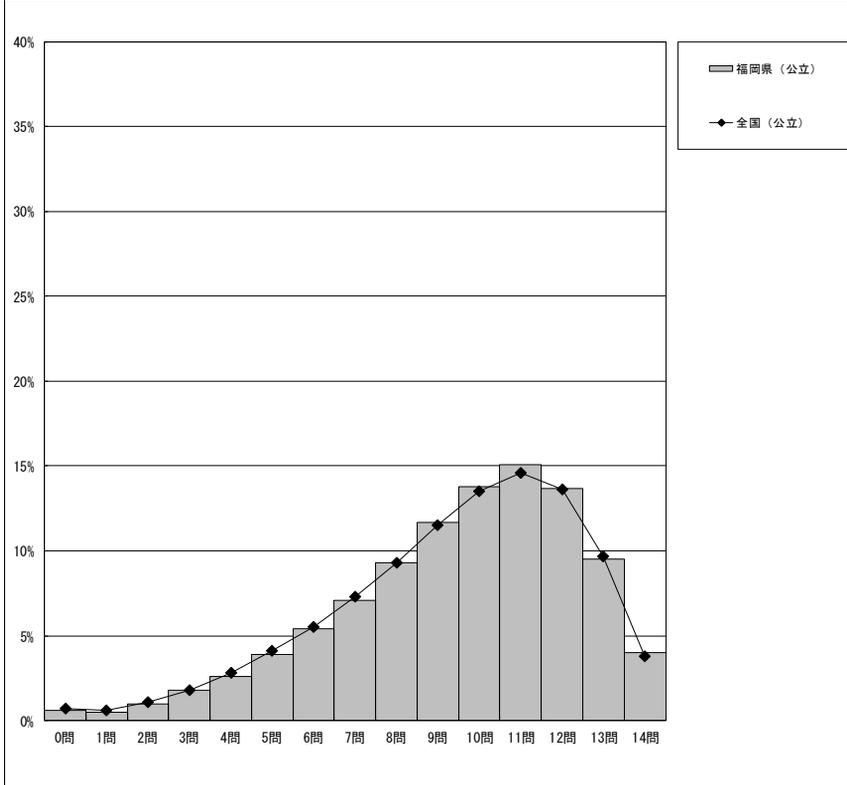
※各層の四捨五入の影響で、各層の合計が100%とならないことがあります

Ⅲ 各教科の調査結果

Ⅰ 小学校国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	43,025	9.5 / 14	68	10.0	2.9
全国(公立)	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数	正答数集計値		
	児童数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
14問	1,700	4.0	3.8
13問	4,107	9.5	9.7
△ 12問	5,893	13.7	13.6
11問	6,508	15.1	14.6
◇ 10問	5,957	13.8	13.5
9問	5,047	11.7	11.5
▽ 8問	3,993	9.3	9.3
7問	3,068	7.1	7.3
6問	2,325	5.4	5.5
5問	1,663	3.9	4.1
4問	1,113	2.6	2.8
3問	767	1.8	1.8
2問	414	1.0	1.1
1問	219	0.5	0.6
0問	251	0.6	0.7

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴(全国との差の大きい問題を抽出)
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題(◇)、低い問題(◆)】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
3-1) 選択式	◇ 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかをみる	74.8	73.6	+1.2
1-3(2)イ 選択式	◇ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	94.2	93.1	+1.1
1-3(1)ウ 短答式	◆ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	72.1	72.6	-0.5
2-3 選択式	◆ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	61.7	62.0	-0.3



小学校国語では、特に、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」に課題が見られました。

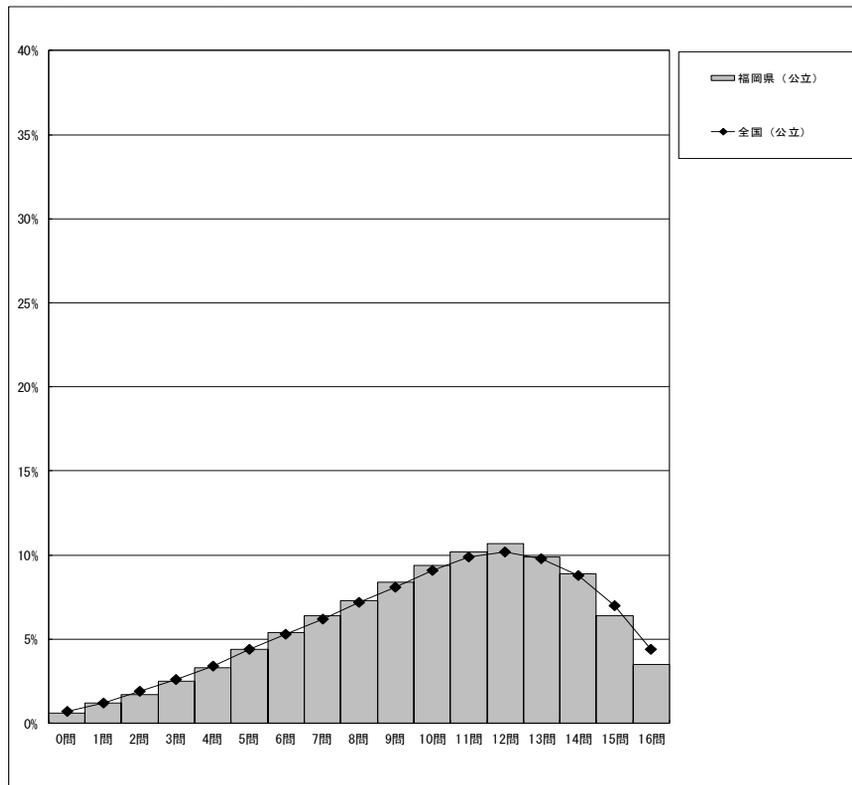
学習指導に当たっては、**図示などにより語句と語句の関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりするような学習場面を設定することが考えられます。**

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1ー	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	65.2	64.7	1.5	1.8
1ニ	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	27.5	26.7	6.6	7.1
1三 (1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	53.9	52.8	4.1	4.8
1三 (1)ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)		72.1	72.6	6.0	6.7
1三 (2)イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したもとして適切なものを選択する(くらべて)	送り仮名に注意して、漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	94.2	93.1	0.9	1.0
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	80.1	79.8	1.8	2.0
2ー	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる	90.5	90.0	1.0	1.2
2ニ	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	67.2	67.4	1.2	1.4
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したもとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	61.7	62.0	1.3	1.6
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	57.0	56.2	8.3	8.5
3ー (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる	74.8	73.6	3.3	3.7
3ー (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する		74.5	74.0	3.7	4.1
3ニ	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	71.3	70.2	13.6	14.3
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	58.2	57.6	8.3	9.5

2 小学校算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	43,043	10.0 / 16	62	10.0	3.7
全国(公立)	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数集計値			
正答数	児童数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
16問	1,515	3.5	4.4
15問	2,741	6.4	7.0
14問	3,814	8.9	8.8
△ 13問	4,273	9.9	9.8
12問	4,587	10.7	10.2
11問	4,389	10.2	9.9
◇ 10問	4,030	9.4	9.1
9問	3,609	8.4	8.1
8問	3,149	7.3	7.2
▽ 7問	2,747	6.4	6.2
6問	2,326	5.4	5.3
5問	1,886	4.4	4.4
4問	1,439	3.3	3.4
3問	1,056	2.5	2.6
2問	724	1.7	1.9
1問	498	1.2	1.2
0問	260	0.6	0.7

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	10.0問	11.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴(全国との差の大きい問題を抽出)
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題(◇)、低い問題(◆)】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
4(3) 記述式	◇ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	58.4	56.2	+2.2
1(4) 短答式	◇ 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	82.1	80.8	+1.3
2(4) 記述式	◆ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	17.4	20.8	-3.4
4(1) 選択式	◆ 百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる	44.2	46.0	-1.8



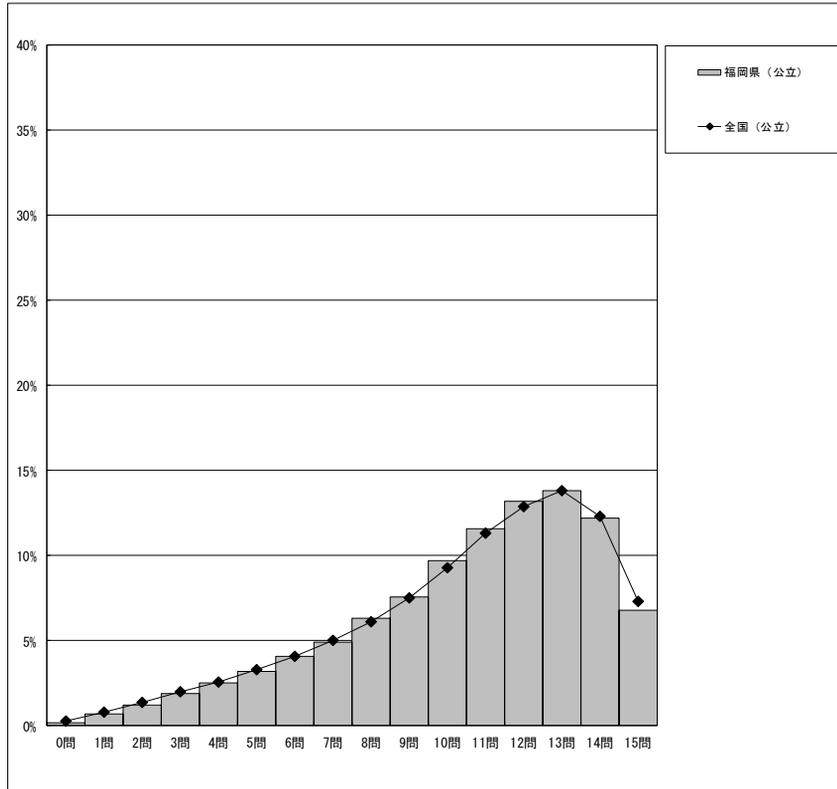
小学校算数では、特に、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること」に課題が見られました。
学習指導に当たっては、**具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えるような学習場面を設定することが考えられます。**

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1(1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる	94.2	93.5	0.7	0.8
1(2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる	88.8	88.5	0.7	1.0
1(3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、4脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	56.1	55.5	3.2	3.4
1(4)	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	82.1	80.8	0.9	1.2
2(1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	60.6	59.8	0.5	0.7
2(2)	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	87.0	87.2	2.5	2.9
2(3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	23.3	24.9	3.2	3.7
2(4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	17.4	20.8	3.4	4.0
3(1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	() を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	70.9	70.3	1.2	1.4
3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	55.9	56.7	3.7	4.0
3(3)	$(151 + 49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	73.1	72.4	2.3	2.5
3(4)	$66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数) \div (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる	46.6	47.6	3.5	3.9
4(1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる	44.2	46.0	2.3	2.4
4(2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	74.1	75.7	4.1	4.3
4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	58.4	56.2	13.2	13.8
4(4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	64.3	64.6	4.8	4.9

3 中学校国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	39,798	10.5 / 15	70	11.0	3.3
全国(公立)	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数集計値			
正答数	生徒数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
15問	2,714	6.8	7.3
14問	4,837	12.2	12.3
△ 13問	5,483	13.8	13.8
12問	5,263	13.2	12.9
◇ 11問	4,623	11.6	11.3
10問	3,868	9.7	9.3
9問	3,012	7.6	7.5
▽ 8問	2,524	6.3	6.1
7問	1,958	4.9	5.0
6問	1,624	4.1	4.1
5問	1,284	3.2	3.3
4問	979	2.5	2.6
3問	758	1.9	2.0
2問	488	1.2	1.4
1問	288	0.7	0.8
0問	95	0.2	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴(全国との差の大きい問題を抽出)
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題(◇)、低い問題(◆)】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
4一 短答式	◇ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる	87.2	82.5	+4.7
2四 記述式	◇ 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	69.1	67.5	+1.6
2二 選択式	◆ 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる	60.7	63.0	-2.3
3三 短答式	◆ 具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	59.9	61.8	-1.9



中学校国語では、特に、「具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること」に課題が見られました。

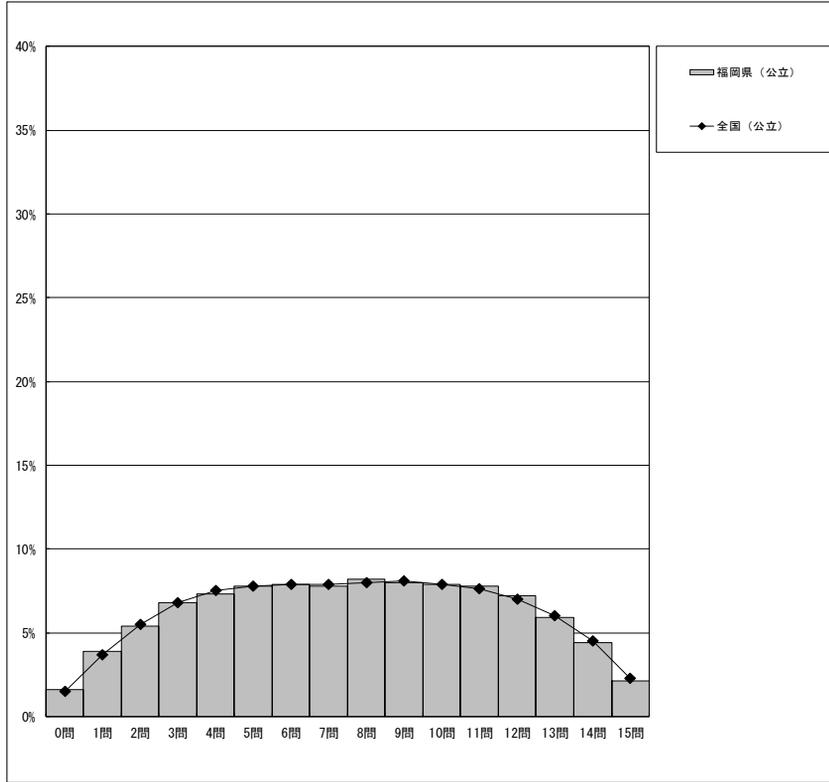
学習指導に当たっては、「具体」と「抽象」のそれぞれの言葉を国語辞典で調べ、その関係が説明できそうなものを身近な情報の中から探して説明するような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる	87.3	87.5	0.1	0.1
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	65.1	65.1	0.1	0.2
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる	77.3	76.6	0.2	0.2
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	83.8	82.5	9.8	10.8
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	91.3	91.1	0.1	0.2
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる	60.7	63.0	0.4	0.4
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる	73.3	74.2	0.3	0.3
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にし、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	69.1	67.5	3.4	3.9
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	52.7	54.3	0.6	0.6
3二	漢字を書く(おし量って)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	45.2	43.9	8.9	10.7
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとめりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとめりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	59.9	61.8	2.0	2.1
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	71.0	72.1	9.5	10.2
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる	87.2	82.5	3.1	3.6
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す(いと)	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる	73.6	74.1	4.5	4.8
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	50.3	50.0	20.5	20.7

4 中学校数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	39,801	7.6 / 15	51	8.0	3.9
全国(公立)	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数集計値			
正答数	生徒数 福岡県 (公立)	割合(%)	
		福岡県 (公立)	全国 (公立)
15問	833	2.1	2.3
14問	1,744	4.4	4.5
13問	2,355	5.9	6.0
12問	2,858	7.2	7.0
△ 11問	3,104	7.8	7.6
10問	3,158	7.9	7.9
9問	3,168	8.0	8.1
◇ 8問	3,263	8.2	8.0
7問	3,108	7.8	7.9
6問	3,136	7.9	7.9
5問	3,097	7.8	7.8
▽ 4問	2,893	7.3	7.5
3問	2,705	6.8	6.8
2問	2,153	5.4	5.5
1問	1,571	3.9	3.7
0問	655	1.6	1.5

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	4.0問	4.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴(全国との差の大きい問題を抽出)
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題(◇)、低い問題(◆)】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
7(1) 短答式	◇ 四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる	70.8	65.7	+5.1
4 選択式	◇ 反比例の意味を理解しているかどうかをみる	45.2	42.8	+2.4
5 短答式	◆ 累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	41.9	46.1	-4.2
9(1) 記述式	◆ ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	28.7	32.1	-3.4



中学校数学では、特に、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること」に課題が見られました。

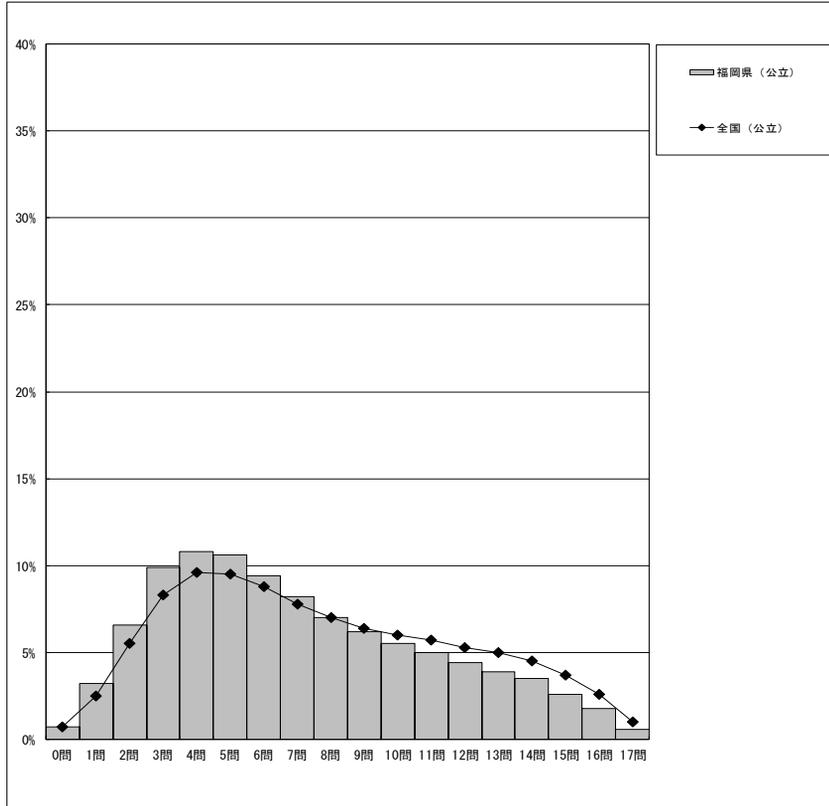
学習指導に当たっては、**構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現するような学習場面を設定することが考えられます。**

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	46.8	46.1	0.1	0.1
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	79.3	80.5	4.3	4.0
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる	28.1	30.4	0.7	0.8
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる	45.2	42.8	0.4	0.5
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	41.9	46.1	10.7	11.0
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	88.6	88.9	2.5	2.4
6(2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	61.0	58.8	9.8	10.6
6(3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	43.0	40.9	22.8	24.7
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる	70.8	65.7	5.3	5.6
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	34.5	33.6	21.8	22.8
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる	56.2	57.5	8.3	8.6
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	60.5	61.7	0.8	1.1
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	43.6	42.8	10.4	13.2
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	28.7	32.1	23.5	24.7
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	35.0	37.0	13.4	14.2

5 中学校英語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	39,825	7.1 / 17	42	6.0	4.0
全国(公立)	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数	正答数集計値		
	生徒数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
17問	246	0.6	1.0
16問	711	1.8	2.6
15問	1,048	2.6	3.7
14問	1,403	3.5	4.5
13問	1,560	3.9	5.0
12問	1,762	4.4	5.3
11問	1,974	5.0	5.7
△ 10問	2,202	5.5	6.0
9問	2,475	6.2	6.4
8問	2,796	7.0	7.0
7問	3,257	8.2	7.8
◇ 6問	3,740	9.4	8.8
5問	4,228	10.6	9.5
▽ 4問	4,313	10.8	9.6
3問	3,927	9.9	8.3
2問	2,610	6.6	5.5
1問	1,291	3.2	2.5
0問	282	0.7	0.7

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	10.0問	11.0問
◇ 第2四分位	6.0問	7.0問
▽ 第1四分位	4.0問	4.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴(全国との差の大きい問題を抽出)
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題(◇)、低い問題(◆)】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
2 選択式	◆ 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	55.4	61.1	-5.7
9(2) 短答式	◆ 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる	23.7	29.0	-5.3



中学校英語では、特に、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことに課題が見られました。

学習指導に当たっては、言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けるために、**言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手や状況に応じた適切な表現を選択するような学習場面を設定することが考えられます。**

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1(1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	74.6	79.0	0.1	0.1
1(2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	60.2	64.4	0.2	0.2
1(3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	45.4	49.8	0.1	0.2
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	55.4	61.1	0.1	0.2
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	36.3	41.2	0.2	0.2
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	50.6	54.8	0.4	0.4
5(1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる	52.6	56.0	0.2	0.3
5(2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる	63.6	64.5	0.2	0.3
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	32.5	35.9	0.2	0.3
7(1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	56.0	59.8	0.2	0.3
7(2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	33.4	34.7	0.7	0.7
8(1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	50.9	56.1	0.8	0.8
8(2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	15.7	19.5	29.0	29.3
9(1)①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる	35.4	40.4	6.9	6.6
9(1)②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる	17.7	20.9	11.3	10.9
9(2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる	23.7	29.0	25.5	24.5
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	5.8	7.4	20.1	21.4

Ⅳ 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析

本報告書においては、教科の平均正答率に影響を与えやすい質問項目、非認知的能力の育成に関する質問項目等を取り上げている。

※ただし、小・中学校で番号が異なる場合は、()内に中学校の番号を示す。

なお、結果(全国との比較、クロス集計、地区別の状況)は、「X 資料」に掲載。

質問分類	番号	質問項目	頁
授業への取組状況	33 (37)	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	76
	35 (39)	授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	77
	36 (40)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	77
学習への興味・関心 や理解度	45 (49)	国語の授業の内容はよく分かりますか	78
	53 (57)	算数/数学の授業の内容はよく分かりますか	78
基本的な生活習慣等	1	朝食を毎日食べていますか	72
挑戦心、達成感、 自己有用感等	4	自分には、よいところがあると思いますか	73
	5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	73
	8	人が困っているときは、進んで助けていますか	74
	11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	74
	13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	75
学習習慣、 学習環境等	16	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	75
	17	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む)	76

教科に関する調査

児童生徒が身に付けなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容、実生活において不可欠であり常に活用できることが望ましい知識・技能等、併せて、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等の調査。

各学校には、主体的・対話的で深い学びの実現に資する授業改善が求められる。

児童生徒質問紙調査

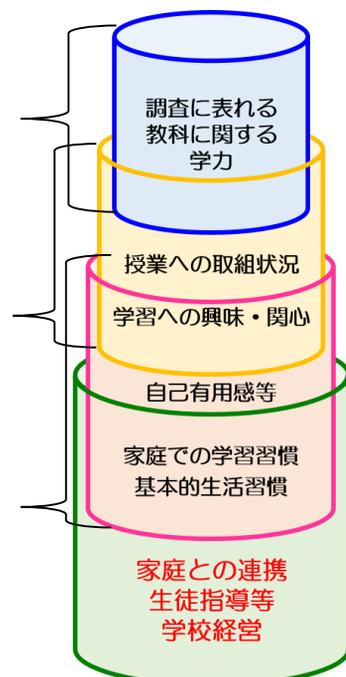
児童生徒の学習意欲、学習方法等に関する調査項目。

各学校には、児童生徒が学ぶ楽しさや成長の実感がもてるような学習の基盤づくりや授業づくりの充実が求められる。

児童生徒質問紙調査

児童生徒の学習環境、生活の諸側面等に関する調査項目。

各学校には、家庭・地域との連携・協力のもと、児童生徒の健全な成長を促す、日常的な環境づくり、生活づくりの充実が求められる。



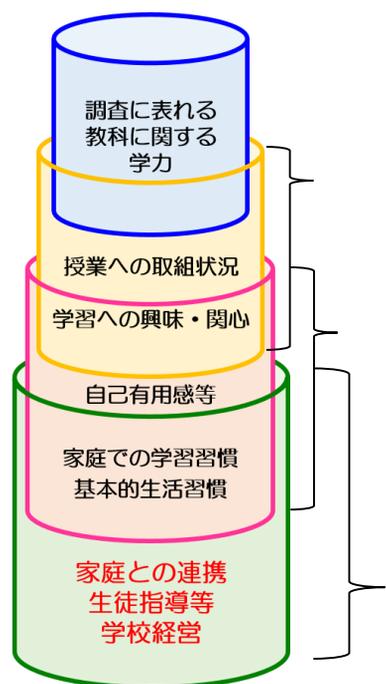
全国学力・学習状況調査から見える
「学力に関するイメージ図」

V 学校質問紙に関する調査結果と分析

本報告書においては、児童生徒の学力向上に影響を与えやすい質問項目、非認知的能力の育成に関する質問項目等を取り上げている。

※ただし、小・中学校で番号が異なる場合は、() 内に中学校の番号を示す。
 なお、結果(全国との比較、クロス集計、地区別の状況)は、「X 資料」に掲載。

質問分類	番号	質問項目	頁
授業改善に関する取組状況	31	一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	79
	32	それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	80
非認知的能力の育成を図る取組	12	前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	80
	13	前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか	81
	39	学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか	81
学習環境等	9	授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	82
学校運営	19	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	82
ICTを活用した学習状況	63 (71)	一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	83



全国学力・学習状況調査から見える「学力に関するイメージ図」

学校質問紙調査

授業改善に関する調査項目。
 各学校には、児童生徒が学ぶ楽しさや成長の実感がもてるような**授業づくりの充実**が求められる。

学校質問紙調査

生徒指導や総合、学活、道徳の指導方法等に関する調査項目。
 各学校には、児童生徒の資質・能力を高めるための、**日常的な環境づくり、生活づくりの充実**が求められる。

学校質問紙調査

学校の指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査。
 各学校には、児童生徒の学力向上を**下支えする取組や条件整備の充実**が求められる。

全国学力・学習状況調査から見える「学力に関するイメージ図」と令和5年度の各調査結果

児童生徒質問紙

教科に関する調査 (全国100)

学校質問紙

☆が付いている質問項目は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答割合の合計を示しています。

★が付いている質問項目は、「よく行った」「どちらかといえば、行った」の回答割合の合計を示しています。

■33<37>課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。☆

(小) 76.4[78.8] (中)77.4[79.2]

■35<39>自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。☆

(小) 81.8[82.9] (中)74.7[74.9]

■36<40>話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている。☆

(小) 80.4[81.8] (中)79.9[79.7]

■45<49>国語の授業の内容はよく分かる。☆

(小) 83.4[85.7] (中)78.2[80.0]

■53<57>算数/数学の授業の内容はよく分かる。☆

(小) 79.5[81.2] (中)72.2[73.3]

■1<1>朝食を毎日食べていますか。☆

(小) 91.4[93.9] (中)90.1[91.2]

■4<4>自分には、よいところがある。☆

(小) 82.3[83.5] (中)80.4[80.0]

■5<5>先生は、自分のよいところを認めてくれる。☆

(小) 89.3[89.8] (中)87.7[87.3]

■8<8>人が困っているときは、進んで助ける。☆

(小) 91.4[91.6] (中)88.0[88.1]

■11<11>人の役に立つ人間になりたいと思う。☆

(小) 96.0[95.9] (中)94.7[94.6]

■13<13>自分と違う意見について考えるのは楽しい。☆

(小) 75.0[76.5] (中)76.8[77.6]

■16<16>家で自分で計画を立てて勉強している。☆

(小) 67.2[70.7] (中)52.0[55.0]

■17<17>普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか。〈「1時間以上」の回答割合〉

(小)53.5[57.1] (中)61.6[65.8]

【国語】
小学校：101.1
中学校：100.0
【算数・数学】
小学校：100.0
中学校：100.0
【英語】
中学校：92.2

■31<31>一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫している。★

(小) 91.1[93.1] (中)91.9[90.9]

■32<32>それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している。★

(小) 91.8[94.3] (中)93.4[94.2]

■12<12>学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた。★

(小) 97.2[97.0] (中)95.9[96.1]

■13<13>一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った。★

(小) 98.9[98.9] (中)99.4[98.3]

■39<39>学級活動の授業を通して、学級での話し合いを生かして、意思決定できる指導を行っている。〈「よくしている」「どちらかといえば、している」の回答割合の合計〉

(小) 92.5[93.1] (中)91.1[92.0]



■9<9>授業中の私語が少なく、落ち着いている。〈「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の回答割合の合計〉

(小) 90.8[87.6] (中)96.5[95.1]

■19<19>児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、…改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。

〈「よくしている」「どちらかといえば、している」の回答割合の合計〉

(小) 96.9[96.2] (中)94.3[95.2]

■63<71>PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか。〈「毎日持ち帰っている、毎日利用させている」「毎日持ち帰って、時々利用させている」の回答割合の合計〉

(小) 20.9[32.5] (中)34.3[40.9]

※質問項目番号については、「小学校の番号<中学校の番号>」で表しています。

※数値については、回答割合を「福岡県[全国]」で表しています。

※赤字の数値は、福岡県(指定都市を含む。)が全国より高い数値を表します。

【書き込み活用ページ②】 質問紙調査結果の整理

令和5年度全国学力・学習状況調査結果をもとに取組等を見直す際、以下のような内容については、各学校で把握しておくことが重要です。(記入は色塗りの空欄部分)

◆ 児童生徒質問紙調査結果 (本報告書:29、72~83ページ参照)

①当てはまる ②どちらかといえば ③あまり ④当てはまらない

4_自分には、よいところがあると思いますか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	41.1%	41.2%	12.3%	5.4%
全国	42.6%	40.9%	11.4%	5.1%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	36.4%	44.0%	14.1%	5.5%
全国	37.2%	42.8%	14.3%	5.6%

5_先生は自分のよいところを認めてくれますか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	49.3%	40.0%	8.2%	2.4%
全国	49.9%	39.9%	7.8%	2.4%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	39.6%	48.1%	9.5%	2.7%
全国	40.0%	47.3%	9.7%	2.8%

8_人が困っているときは、進んで助けていますか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	44.5%	46.9%	7.4%	1.1%
全国	45.6%	46.0%	7.2%	1.2%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	37.1%	50.9%	10.0%	1.4%
全国	38.4%	49.7%	9.7%	1.5%

13_自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	30.8%	44.2%	19.3%	5.5%
全国	32.0%	44.5%	18.1%	5.3%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	30.9%	45.9%	18.5%	3.8%
全国	32.2%	45.4%	17.7%	3.9%

16_家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	25.9%	41.3%	24.3%	8.4%
全国	28.7%	42.0%	22.1%	7.1%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	13.3%	38.7%	34.1%	13.8%
全国	15.3%	39.7%	31.9%	12.9%

33_課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか(中学校37)

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	28.4%	48.0%	19.7%	3.7%
全国	30.5%	48.3%	17.7%	3.4%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	28.9%	48.5%	18.5%	4.0%
全国	30.4%	48.8%	17.0%	3.6%

35_自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか(中学校39)

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	35.8%	46.0%	14.4%	3.8%
全国	37.3%	45.6%	13.3%	3.8%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	21.7%	53.0%	19.9%	4.9%
全国	22.6%	52.3%	19.7%	5.0%

36_話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか(中学校40)

小学校	①	②	③	④	⑤
本校	%	%	%	%	%
福岡県	36.5%	43.9%	14.9%	3.8%	0.9%
全国	38.6%	43.2%	13.8%	3.4%	0.9%

中学校	①	②	③	④	⑤
本校	%	%	%	%	%
福岡県	34.2%	45.7%	13.7%	4.3%	1.6%
全国	34.3%	45.4%	14.1%	4.2%	1.5%

令和5年度福岡県学力調査

VI 令和5年度 福岡県学力調査

I 調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各市町村（学校組合）教育委員会、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの維持・向上を支援する。
- ③ 各学校が、児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査対象の学年（指定都市を除く）

- ① 公立の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- ② 公立の中学校第1学年、義務教育学校後期課程第1学年、中等教育学校前期課程第1学年、特別支援学校中学部第1学年
- ③ 公立の中学校第2学年、義務教育学校後期課程第2学年、中等教育学校前期課程第2学年、特別支援学校中学部第2学年

(3) 調査の教科（実施時間）

- 小学校第5学年 国語、算数（1教科45分で実施）
- 中学校第1学年 国語、数学（1教科50分で実施）
- 中学校第2学年 国語、数学（1教科50分で実施）

(4) 調査の内容

出題範囲は調査対象学年の前学年までの指導事項（中学校第1学年においては小学校までの指導事項）とし、出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、主として「知識・技能」に関する問題及び主として「思考・判断・表現」に関する問題を一体的に問う。

(5) 調査日

令和5年6月20日（火）

(6) 6月21日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

	学校数(校)		児童生徒数(人)	
	国語	算数・数学	国語	算数・数学
小学校第5学年	436	436	21,971	21,968
中学校第1学年	206	206	22,197	22,213
中学校第2学年	205	205	20,770	20,787

※ 学校数は、分校を含む。

(7) 調査問題の内容

○ 領域別の設問数

	国語				算数・数学			
	知識及び技能 (1)(2)(3)	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	小:数と計算 中:数と式	図形	小:変化と関係 中:関数	データの 活用
小学校第5学年	9問	3問	3問	3問	9問	4問	3問	3問
中学校第1学年	8問	3問	4問	3問	8問	4問	3問	4問
中学校第2学年	5問	3問	5問	6問	9問	4問	3問	3問

○ 評価の観点別の設問数

	国語		算数・数学	
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
小学校第5学年	9問	9問	9問	10問
中学校第1学年	8問	10問	11問	8問
中学校第2学年	5問	14問	10問	9問

○ 解答形式別の設問数

	国語			算数・数学		
	選択式	短答式	記述式	選択式	短答式	記述式
小学校第5学年	7問	8問	3問	5問	11問	3問
中学校第1学年	8問	7問	3問	5問	10問	4問
中学校第2学年	9問	6問	4問	4問	11問	4問

※ 選択式：選択肢から選ぶ（基本は4択）問題

※ 短答式：語句などを答える問題。グラフや図を描く問題も含む。

※ 記述式：文で答える問題。考え方の筋道を図や式で答える問題も含む。

2 調査結果の概要

(1) 県全体及び地区別の平均正答数、標準化得点、平均正答率

平均正答数：児童生徒の正答数の平均のこと。

標準化得点：県全体の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した得点のこと。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。

○ 小学校第5学年

設問数 国語：18問、算数：19問

		国語					算数				
		平均 正答数	標準化 得点	平均正答率			平均 正答数	標準化 得点	平均正答率		
				全体	知・技	思・判・表			全体	知・技	思・判・表
県全体		8.5	100.0	47.2	57.7	36.6	9.1	100.0	47.8	54.4	42.0
地 区	福岡	8.8	103.7	48.9	58.8	38.9	9.4	103.8	49.7	55.3	44.6
	北九州	8.7	102.6	48.4	60.9	35.8	9.2	101.4	48.5	55.8	42.0
	北筑後	8.0	94.5	44.6	53.5	35.6	8.6	94.4	45.2	51.2	39.8
	南筑後	8.4	98.4	46.4	58.0	34.8	9.0	98.5	47.1	55.4	39.7
	筑豊	8.2	96.7	45.6	57.6	33.6	8.8	96.9	46.4	54.4	39.1
	京築	8.2	97.0	45.8	57.8	33.7	8.8	96.9	46.4	53.6	39.9

○ 中学校第1学年

設問数 国語：18問、数学：19問

		国語					数学				
		平均 正答数	標準化 得点	平均正答率			平均 正答数	標準化 得点	平均正答率		
				全体	知・技	思・判・表			全体	知・技	思・判・表
県全体		10.9	100.0	60.7	67.3	55.5	11.1	100.0	58.3	68.0	45.0
地 区	福岡	11.3	103.4	62.8	68.8	58.0	11.4	103.0	60.1	69.1	47.6
	北九州	10.8	98.5	59.8	66.8	54.3	10.9	98.1	57.2	67.7	42.7
	北筑後	10.5	96.0	58.3	64.4	53.4	10.7	96.8	56.4	66.6	42.5
	南筑後	10.5	96.1	58.4	65.4	52.8	10.7	96.6	56.3	66.5	42.2
	筑豊	10.3	94.2	57.2	65.7	50.4	10.4	93.7	54.6	65.4	39.8
	京築	10.9	99.4	60.4	68.1	54.2	11.1	100.2	58.4	68.7	44.4

○ 中学校第2学年

設問数 国語：19問、算数：19問

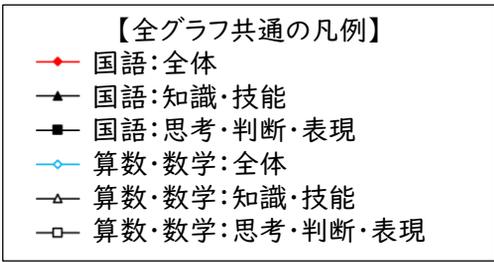
		国語					数学				
		平均 正答数	標準化 得点	平均正答率			平均 正答数	標準化 得点	平均正答率		
				全体	知・技	思・判・表			全体	知・技	思・判・表
県全体		9.4	100.0	49.5	75.7	40.1	8.1	100.0	42.5	50.8	33.2
地 区	福岡	10.0	106.0	52.4	78.6	43.1	8.8	108.7	46.1	54.1	37.2
	北九州	9.2	97.7	48.3	74.7	38.9	7.5	93.0	39.5	47.6	30.5
	北筑後	9.0	96.3	47.6	73.8	38.3	7.8	97.1	41.2	49.9	31.6
	南筑後	8.8	94.0	46.5	73.3	36.9	7.4	91.8	39.0	47.5	29.5
	筑豊	8.3	88.8	43.9	69.7	34.7	6.6	81.4	34.6	43.2	24.9
	京築	8.9	94.2	46.6	73.3	37.1	7.4	91.7	38.9	47.8	29.1

(2) 全体の状況

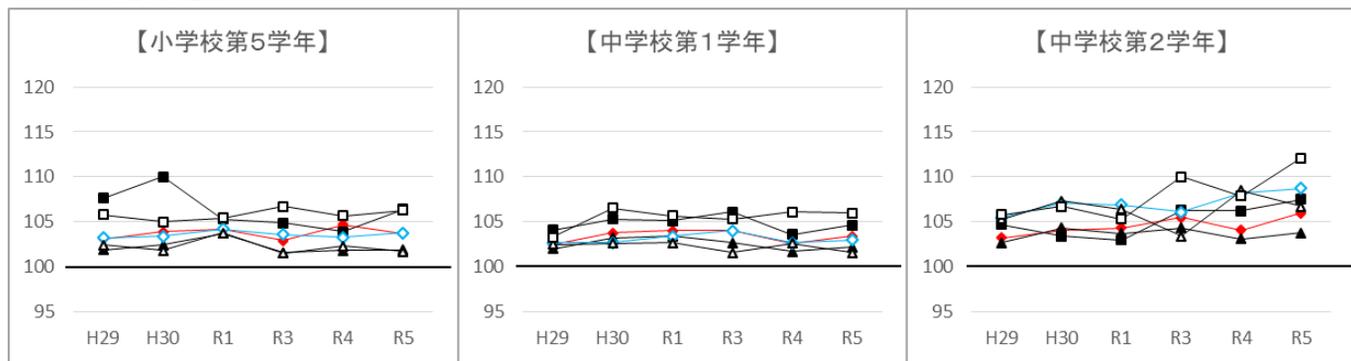
- 国語、算数・数学ともに、「全体」の平均正答率が、中学1年生が最も高くなっている。
- 国語の「知識・技能」の正答率は、中学2年生が最も高くなっている。
- 算数・数学の「知識・技能」の正答率は、中学1年生が最も高くなっている。

(3) 地区別の標準化得点の推移

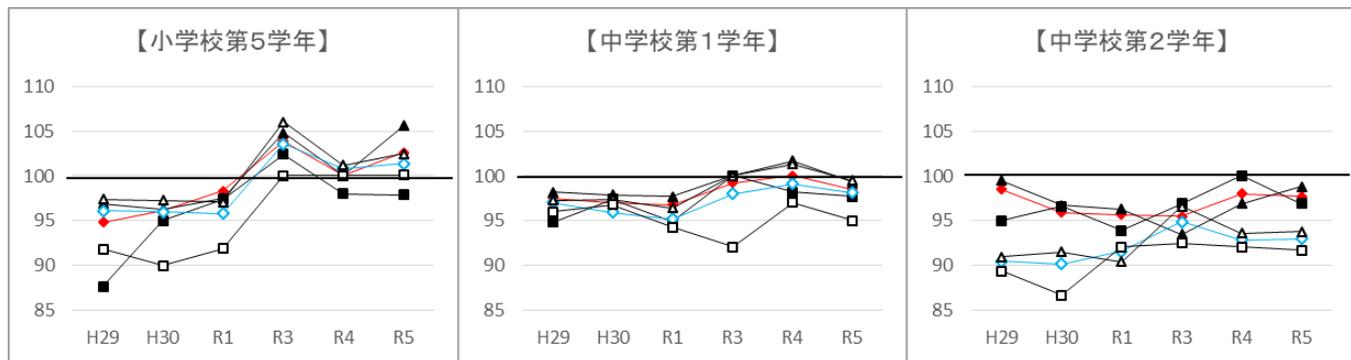
① 平成29年度からの当該学年の推移



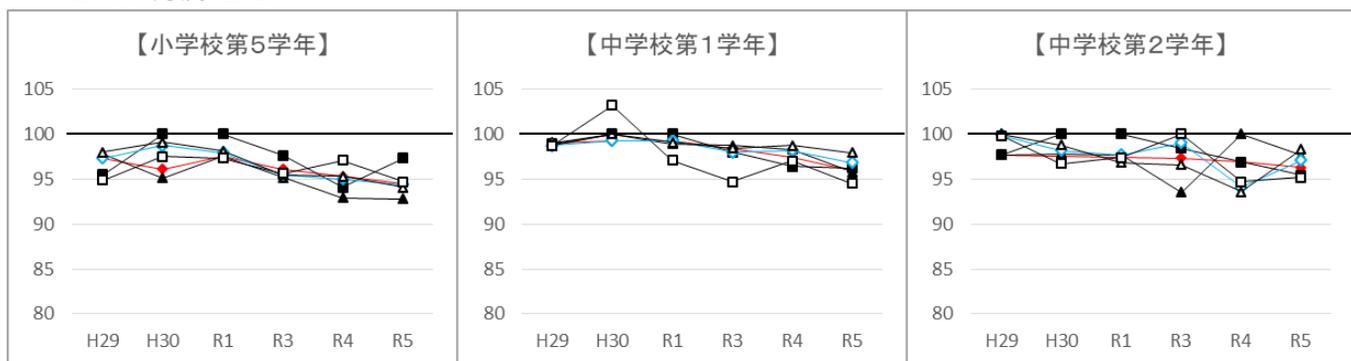
○ 福岡地区



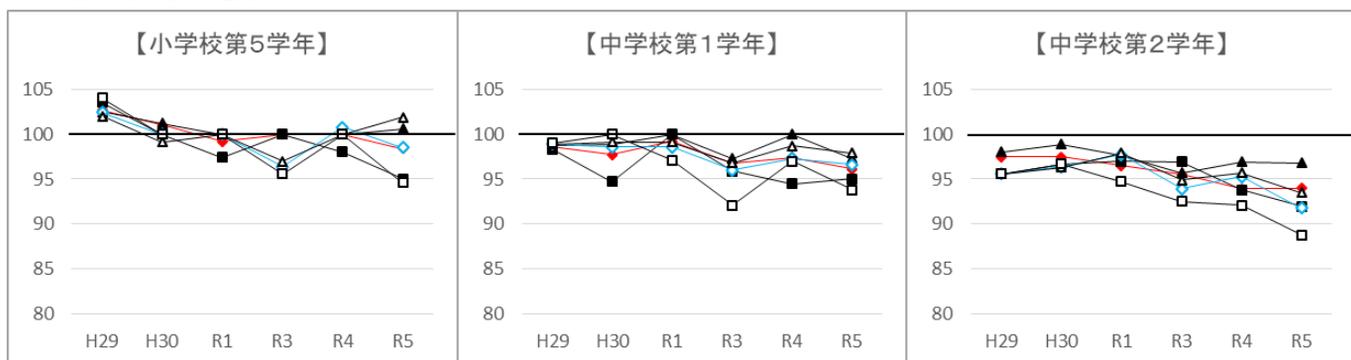
○ 北九州地区



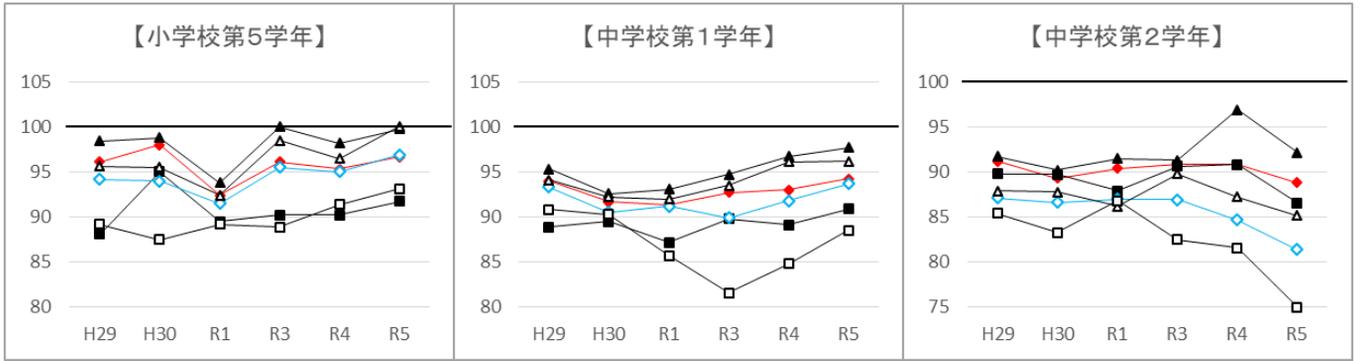
○ 北筑後地区



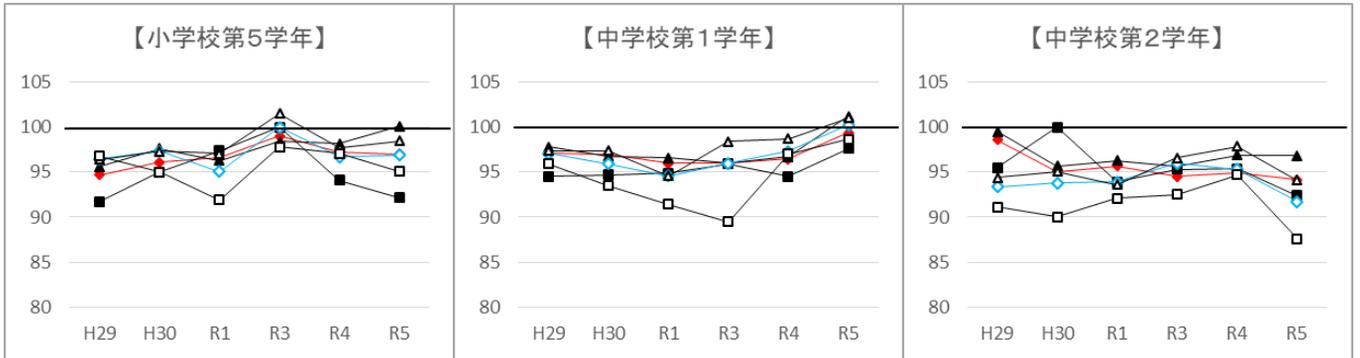
○ 南筑後地区



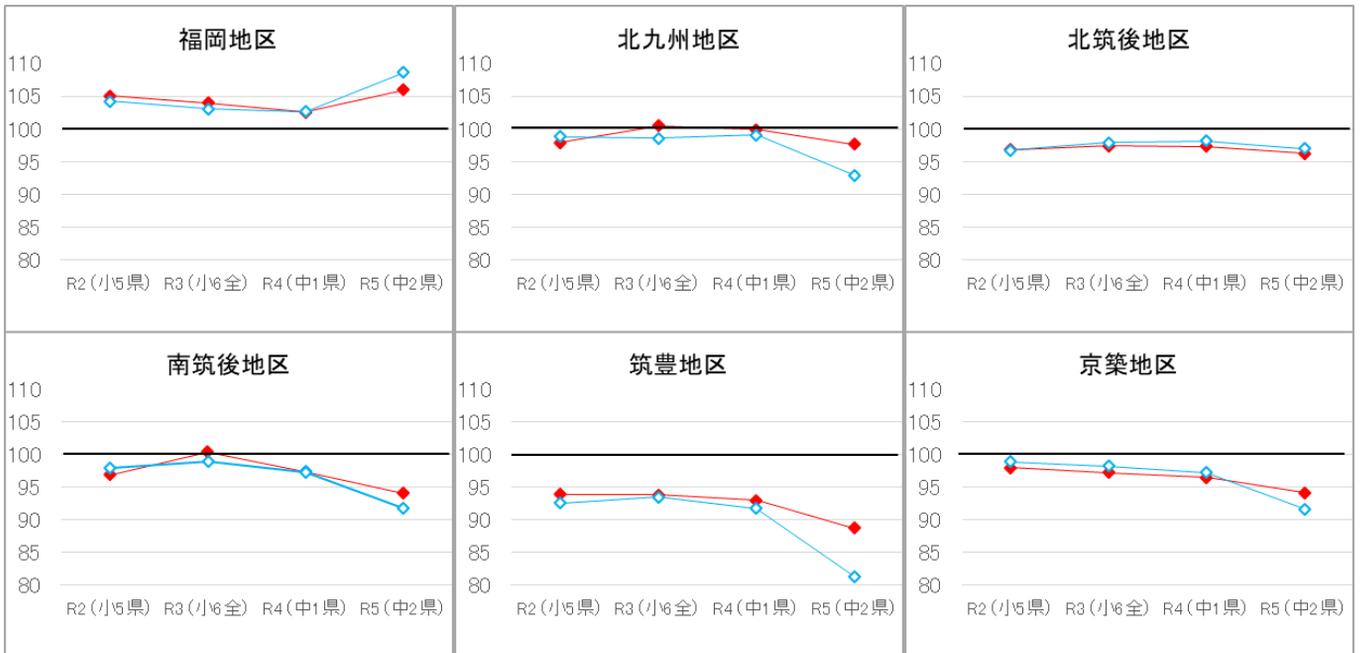
○ 筑豊地区



○ 京築地区



② 同一集団(現中学校第2学年)の経年変化



3 各学年の調査結果

(1) 小学校第5学年国語

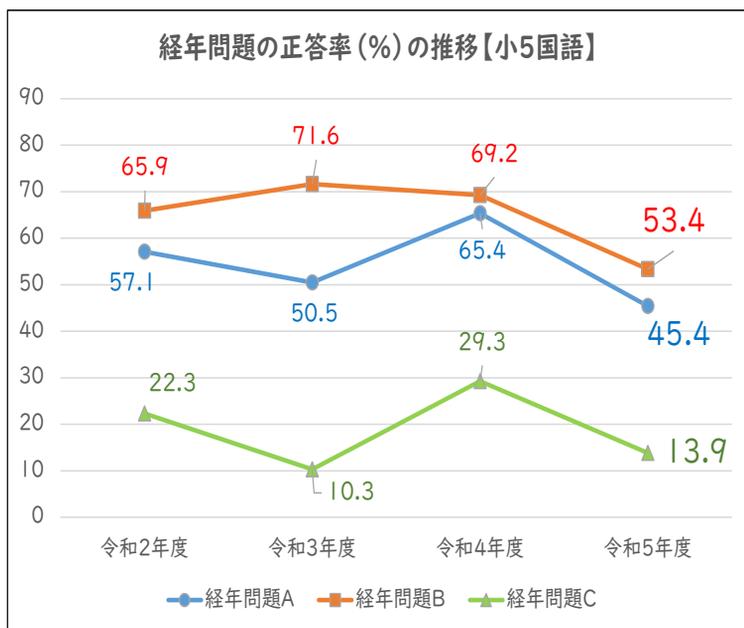
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	62.2	67.8	63.3	56.7	50.0	67.8	56.7	61.4	71.3	40.0
平均正答率	47.2	57.7	42.0	37.6	30.3	57.7	36.6	47.5	59.4	13.6
差	-15.0	-10.1	-21.3	-19.1	-19.7	-10.1	-20.1	-13.9	-11.9	-26.4

- 教科全体では、期待正答率を15.0ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「知識及び技能」で10.1ポイント、「話すこと・聞くこと」で21.3ポイント、「書くこと」で19.1ポイント、「読むこと」で19.7ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で10.1ポイント、「思考・判断・表現」で20.1ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で13.9ポイント、「短答式」で11.9ポイント、「記述式」で26.4ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの5年間に、同様の「出題のねらい」で4回程度出題した問題(2、3問程度)である。



経年問題A

考えを支える事例を明確にして、書き表し方の工夫を捉えることができるかを問う問題
R5調査問題 2 一

経年問題B

相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることができるかを問う問題
R5調査問題 2 二

経年問題C

目的や必要に応じて自分の考えの理由を挙げて書くことができるかを問う問題
R5調査問題 2 三

- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より11.7ポイント下降している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より12.5ポイント下降している。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より8.4ポイント下降している。



例えば、経年問題C「目的や必要に応じて自分の考えの理由を挙げて書くこと」に関する学習指導として、相手や目的を意識して書く活動や、書かれた文章に対する感想や意見を伝え合うような学習場面を設定すること等が考えられます。

(2) 小学校第5学年算数

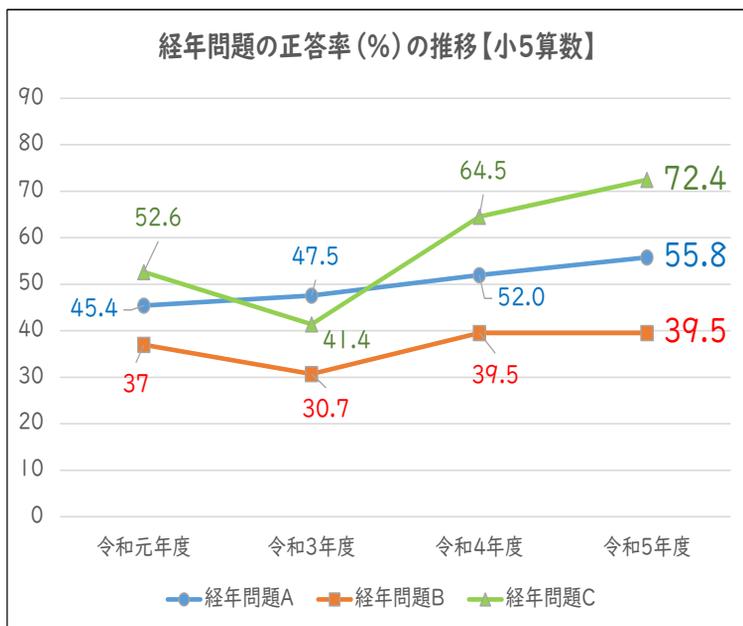
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		数と計算	図形	測定／ 変化と関係	データの 活用	知識・技能	思考・判断 ・表現	選択	短答	記述
期待正答率	62.6	62.2	66.3	66.7	55.0	74.4	52.0	64.0	69.1	36.7
平均正答率	47.8	57.6	31.5	48.9	39.3	54.4	42.0	50.2	52.4	27.2
差	-14.8	-4.6	-34.8	-17.8	-15.7	-20.0	-10.0	-13.8	-16.7	-9.5

- 教科全体では、期待正答率を14.8ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「数と計算」で4.6ポイント、「図形」で34.8ポイント、「測定／変化と関係」で17.8ポイント、「データの活用」で15.7ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で20.0ポイント、「思考・判断・表現」で10.0ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で13.8ポイント、「短答式」で16.7ポイント、「記述式」で9.5ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの5年間に、同様の「出題のねらい」で4回程度出題した問題(2、3問程度)である。



経年問題A	乗法や除法の式の意味を解釈することができるかを問う問題(意味の選択) R5調査問題 2 (1)
経年問題B	与えられた条件から、乗法や除法に必要な分量を求め、判断が正しい理由を説明することができるかを問う問題 R5調査問題 2 (2)
経年問題C	乗法や除法の式の意味を解釈することができるかを問う問題(式の選択) R5調査問題 2 (3)

- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より10.4ポイント上昇している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より2.5ポイント上昇している。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より19.8ポイント上昇している。

例えば、経年問題A「乗法や除法の式の意味を解釈すること」に関する学習指導として、数量関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたり、その性質を活用して計算を工夫するような学習場面を設定すること等が考えられます。



(3) 中学校第1学年国語

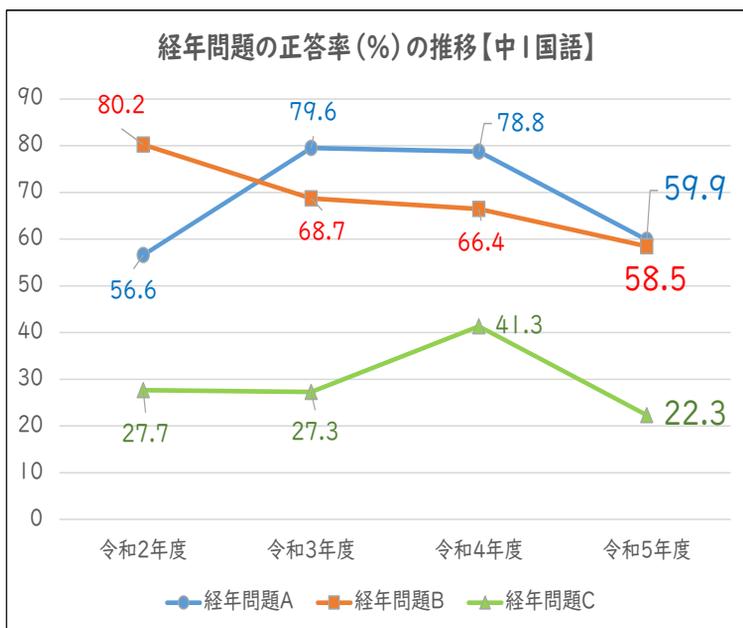
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	66.7	71.3	61.7	55.0	75.0	71.3	63.0	71.3	72.9	40.0
平均正答率	60.7	67.3	67.2	39.7	65.0	67.3	55.5	64.3	71.2	26.7
差	-6.0	-4.0	5.5	-15.3	-10.0	-4.0	-7.5	-7.0	-1.7	-13.3

- 教科全体では、期待正答率を6.0ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「話すこと・聞くこと」で5.5ポイント上回り、「知識及び技能」で4.0ポイント、「書くこと」で15.3ポイント、「読むこと」で10.0ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で4.0ポイント、「思考・判断・表現」で7.5ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で7.0ポイント、「短答式」で1.7ポイント、「記述式」で13.3ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの5年間に、同様の「出題のねらい」で4回程度出題した問題(2、3問程度)である。



経年問題A

図表を用いた目的を捉えることができるかを問う問題
R5調査問題Ⅰ一

経年問題B

情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることができるかを問う問題
R5調査問題Ⅰ二

経年問題C

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかを問う問題
R5調査問題Ⅰ三

- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より3.3ポイント上昇している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より21.7ポイント下降している。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より5.4ポイント下降している。



例えば、経年問題B「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること」に関する学習指導として、他者が工夫して表現した文章について、どのような工夫がされているかを読み取ったり、複数の文章の中から、指定された工夫が施された文章を選んだりするような学習場面を設定すること等が考えられます。

(4) 中学校第1学年数学

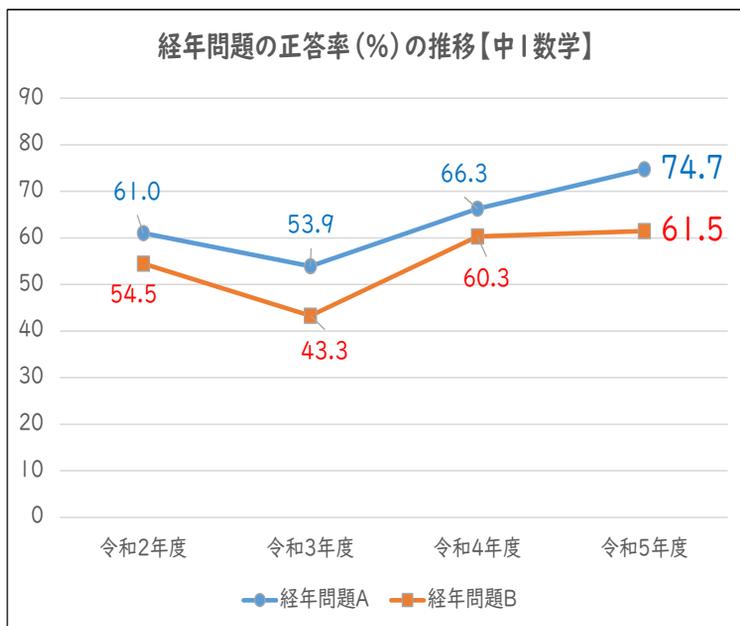
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	64.2	73.1	67.5	61.7	45.0	70.5	55.6	76.0	65.0	47.5
平均正答率	58.3	68.4	50.8	72.6	34.8	68.0	45.0	60.9	62.5	44.5
差	-5.9	-4.7	-16.7	10.9	-10.2	-2.5	-10.6	-15.1	-2.5	-3.0

- 教科全体では、期待正答率を5.9ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「変化と関係」で10.9ポイント上回り、「数と計算」で4.7ポイント、「図形」で16.7ポイント、「データの活用」で10.2ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で2.5ポイント、「思考・判断・表現」で10.6ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で15.1ポイント、「短答式」で2.5ポイント、「記述式」で3.0ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの5年間に、同様の「出題のねらい」で4回程度出題した問題(2、3問程度)である。



経年問題A

問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかを問う問題
R5調査問題 2 (1)

経年問題B

示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、同じ表現方法を適用して記述することができるかを問う問題
R5調査問題 2 (2)

- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より13.7ポイント上昇している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より7.0ポイント上昇している。

例えば、経年問題A「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」の学習指導に関して、見いだした数の性質について根拠を明らかにして説明したり、数学的な表現を用いて表現したりするような学習場面を設定すること等が考えられます。



(5) 中学校第2学年国語

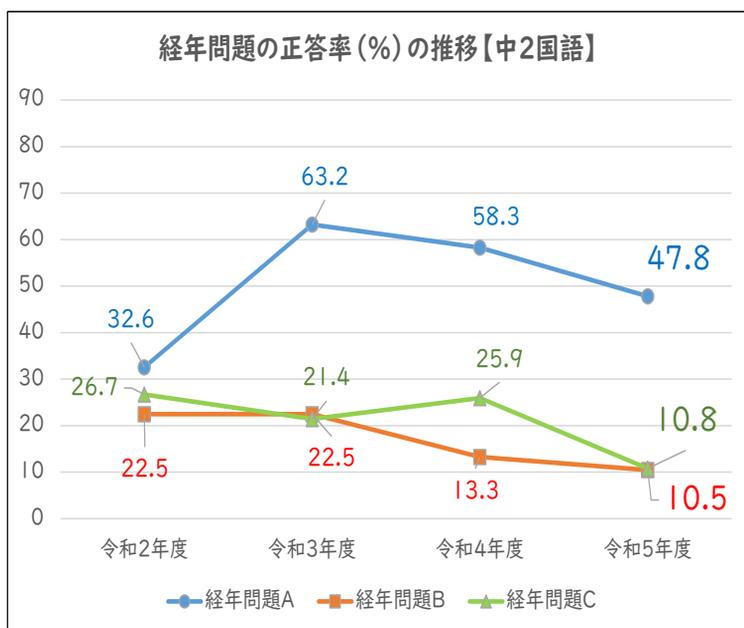
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		知識及び技能	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	61.6	67.0	68.3	66.0	50.0	67.0	59.6	63.3	71.7	42.5
平均正答率	49.5	75.7	50.3	47.6	28.7	75.7	40.1	60.4	57.5	12.7
差	-12.1	8.7	-18.0	-18.4	-21.3	8.7	-19.5	-2.9	-14.2	-29.8

- 教科全体では、期待正答率を12.1ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「知識及び技能」で8.7ポイント上回っており、「話すこと・聞くこと」で18.0ポイント、「書くこと」で18.4ポイント、「読むこと」で21.3ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で8.7ポイント上回っており、「思考・判断・表現」で19.5ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で2.9ポイント、「短答式」で14.2ポイント、「記述式」で29.8ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの5年間に、同様の「出題のねらい」で4回程度出題した問題(2、3問程度)である。



経年問題A
文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかを問う問題
R5調査問題 4一

経年問題B
文章の内容を、叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかを問う問題
R5調査問題 4二

経年問題C
文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかを問う問題
R5調査問題 4三

- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より15.2ポイント上昇している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より12.0ポイント下降している。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より15.9ポイント下降している。



例えば、経年問題B「文章の内容を、叙述を基に捉え、要旨を把握すること」の学習指導に関して、文章の内容を段落ごとにまとめ段落相互の関係を整理したり、キーワードなどの情報をもとに書き手の考えの中心を読み取ったりするような学習場面を設定すること等が考えられます。

(6) 中学校第2学年数学

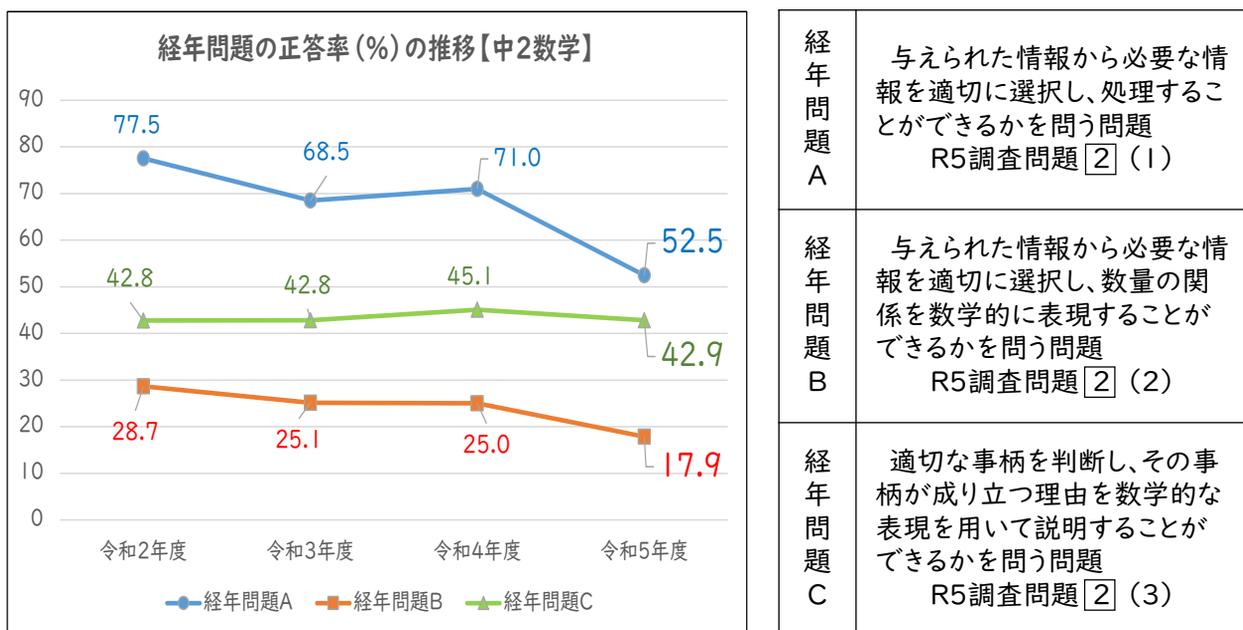
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	60.5	59.4	62.5	65.0	56.7	63.5	57.2	71.3	60.5	50.0
平均正答率	42.5	49.7	42.3	41.5	21.9	50.8	33.2	48.3	44.8	30.3
差	-18.0	-9.7	-20.2	-23.5	-34.8	-12.7	-24.0	-23.0	-15.7	-19.7

- 教科全体では、期待正答率を18.0ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「数と式」で9.7ポイント、「図形」で20.2ポイント、「関数」で23.5ポイント、「データの活用」で34.8ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で12.7ポイント、「思考・判断・表現」で24.0ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で23.0ポイント、「短答式」で15.7ポイント、「記述式」で19.7ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの5年間に、同様の「出題のねらい」で4回程度出題した問題(2、3問程度)である。



- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より25.0ポイント下降している。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より10.8ポイント下降している。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より0.1ポイント上昇している。

例えば、経年問題A「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理すること」の学習指導に関して、日常生活や社会のできごとを数学と結び付けて考えたり、式や図などを用いて数学的に処理するような学習場面を設定すること等が考えられます。



VII まとめと今後の取組

1 まとめ

福岡県教育委員会では、「日常的・組織的な『授業改善』による学力向上」を掲げ、「学力アップ推進事業」をはじめとした取組を通じて、市町村（学校組合）教育委員会や学校への支援を行ってきた。

取組や本年度の調査結果から、以下のような「成果と課題」を整理することができる。

<成果>

- 小・中学校の国語、算数・数学の全教科区分で、令和3年度に続き調査開始以来2度目の、全国の平均以上の結果となり、児童生徒の確かな学力の育成が図られてきている。
- 国語、算数・数学、英語において、児童生徒の無解答率が全国よりも低い傾向となり、粘り強く問題に取り組んでいる児童生徒が増えている。
- 質問紙調査において、「自分には、よいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国平均の水準となっており、自己有用感等を高める取組の充実が図られている。

<課題>

- 記述問題の無解答率は減少しているが、正答率が低く解答類型の「その他」の出現率が高い問題があるため、授業において、問題の場面や意図を解釈し、自身の考えを適切に表現する力を高めることを目指した「書く活動」を充実させる必要がある。
- 質問紙調査において、「家で自分で計画を立てて勉強している」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国平均よりやや低く、調査に表れる教科の学力の分析と併せて、学びに向かう力や人間性等の非認知的能力を育成する取組の充実が求められる。

2 今後の取組

成果と課題を踏まえ、次年度は「授業づくり」と「マネジメント」の視点から、日常的・組織的な「授業改善」による学力向上を進め、キャリアステージに応じた人材育成を図る。そこで、次のような市町村（学校組合）教育委員会及び学校への支援を行う。

■ 「授業づくり」への支援

- ・授業チェックリストや授業評価アンケートを活用した授業改善の実施
- ・学力向上に資するICTの効果的な活用の推進
- ・目的や条件に応じた「書く活動」の充実による思考力、判断力、表現力等の育成
- ・学びに向かう力、人間性等の涵養を図る取組の充実

■ 「マネジメント」への支援

- ・小中9年間を意識した学力向上プランに基づく検証改善サイクルの充実
- ・学校の課題解決に向けたマネジメントの充実
- ・学びに向かう力、人間性等の涵養を図る取組の充実

日常的・組織的な『授業改善』による学力向上

人材育成

授業づくり

授業チェックリストや
授業評価アンケートを活用した授業改善

- 【学力向上推進拠点校指定事業】
- 【重点課題研究指定・委嘱事業】
- 【学力向上推進強化市町村指定事業】
- 【クラスター非常勤講師派遣事業】

学力向上に資するICTの
効果的な活用の推進

- 【学級づくりと個別最適な学習による
確かな学力の育成推進事業】
- 【小4チャレンジテスト(CBT)】
- 【鍛ほめプロジェクト推進事業】
- 【重点課題研究指定・委嘱事業】

目的や条件に応じた「書く活動」の充実
による思考力、判断力、表現力等の育成

- 【未来シリーズ(教材集・指導資料等)】
- 【思考力・判断力・表現力等を問う
定期考査問題】

学びに向かう力・人間性等の涵養を図る取組の充実

- 【未来への一歩】【動画コンテンツ「Step to the Future」】
- 【学ぶことに挑み続ける子どもを育む鍛ほめプロジェクト】
- 【学級づくりと個別最適な学習による確かな学力の育成推進事業】

マネジメント

学校の課題解決に向けた
マネジメントの充実

- 【学力向上推進拠点校指定事業】
- 【重点課題研究指定・委嘱事業】
- 【学級づくりと個別最適な学習による
確かな学力の育成推進事業】

学力向上プランに基づく
検証改善サイクルの充実

- 【教育課程実施・編成状況調査】
- 【学力向上検証改善実施状況調査】
- 【管理職研修】【学力向上プラン】

VIII 今後、本県が育成を目指す「資質・能力」

1 資質・能力の三つの柱について

前述したとおり、本県においては、小・中学校の国語、算数・数学の全教科区分で、令和3年度に続き調査開始以来2度目の全国の平均以上の結果となり、児童生徒の確かな学力の育成が図られてきている。市町村教育委員会、各学校等の地道な取組により、本県の全国学力・学習状況調査の結果は、ここ数年、小・中学校ともに全国平均水準を堅調に維持しており、一定の成果を実感できるようになった。

ここで、改めて資質・能力の三つの柱に目を向けると、全国学力・学習状況調査において把握できている力は、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」が主であることが分かる。

文部科学省は、「「資質・能力」の三つの柱のうち、「学びに向かう力、人間性等」は児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる資質・能力であり、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。」としている。

本県においてここ数年、小・中学校ともに全国平均水準を堅調に維持している「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を、児童生徒がどのような方向性で働かせ、よりよい生活を送るかを考えた際に、今後は「学びに向かう力、人間性等」を含めた資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することが重要になるといえる。

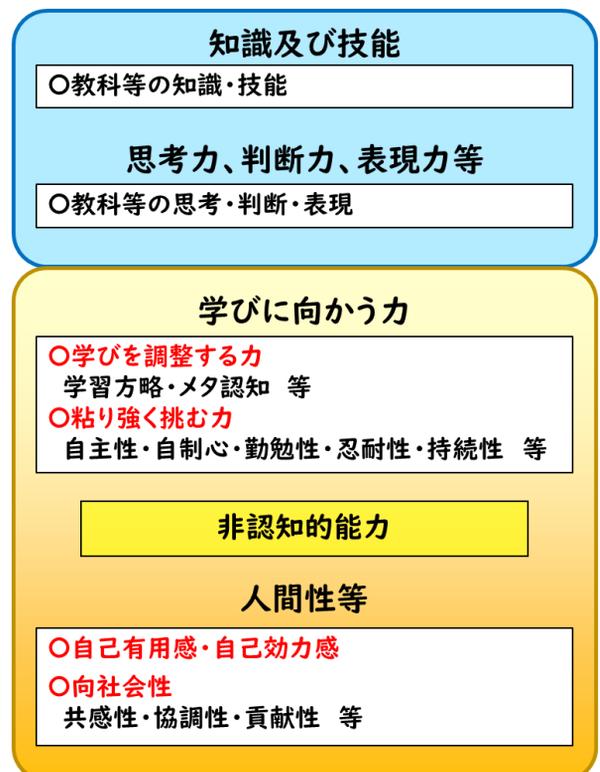
一方で、「学びに向かう力、人間性等」は、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」と比べ、いわゆる非認知的要素を多く含んでいることから、能力を把握することが困難であるといった側面もある。

2 育成を目指す「資質・能力」のイメージ

文部科学省は、学びに向かう力、人間性等の具体として、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度、自分の思考や行動を客観的に把握し認識するメタ認知、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等を挙げている。

これらを踏まえ、本県が育成を目指す「資質・能力」のイメージを作成した。

学びに向かう力は「**学びを調整する力**」と「**粘り強く挑む力**」、人間性等は自分自身を高めるための「**自己有用感・自己効力感**」及び他者や集団への意識の中で自分を高める「**向社会性**」からなるとする。



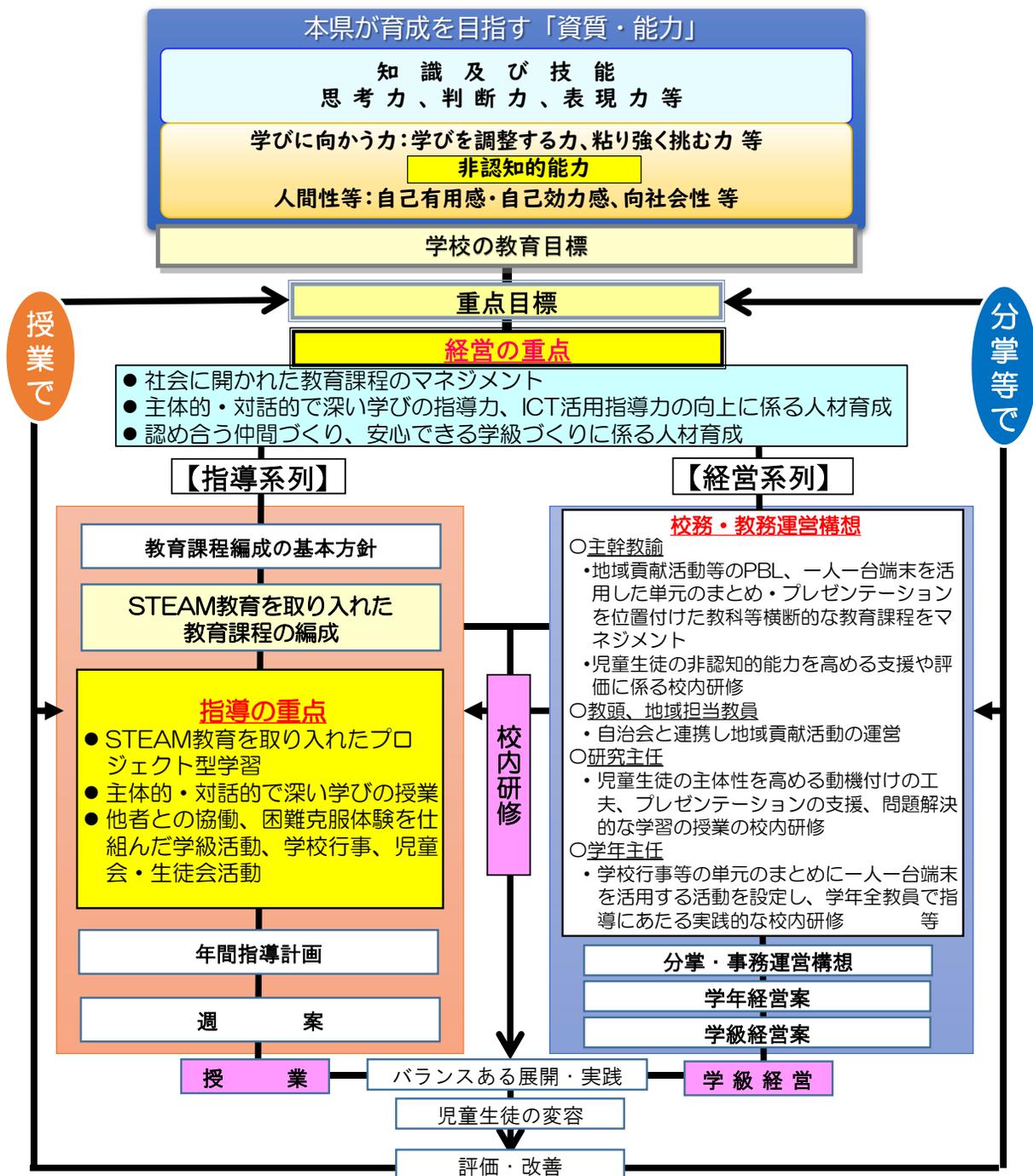
参考 「学力の二元的分類」市川伸一（2000）
「家庭、学校、地域社会における社会的情動スキルの育成」OECD（2015）

【育成を目指す「資質・能力」イメージ】

3 「資質・能力」を向上させる学校経営(例)

各学校の校長は、「資質・能力」の育成に向けて、経営ビジョンを言葉にして所属職員に示しベクトルをそろえ、教頭とともにリーダーシップを発揮し、所属職員と協働しながら教育活動をマネジメントしながら、みんなで成果を実感してほしいものである。

そこで、まずは児童生徒の実態分析から、誰にでもわかりやすい言葉で重点目標を設定すること。その際、下に示す本県が育成を目指す「資質・能力」から自校の課題を見出し、設定すること。次に、組織運営や人材育成、家庭・地域との連携等から「経営の重点」を策定、そして中心に据える教育活動を「指導の重点」として定め、各種経営案や指導計画を作成し、児童生徒とともに、組織的に取組を進めることが大切である。



IX 成果を上げている事例の紹介

1 事例紹介の内容や方法について

令和5年度全国学力・学習状況調査結果において成果を上げている事例校の状況を、右のような内容や方法で紹介する。

また、「令和5年度調査で明らかになったこと」の欄については、本県が育成を目指す「資質・能力」に基づいて、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、教科に関する調査の標準化得点を、「学びに向かう力、人間性等」は、児童生徒質問紙調査の結果を示す。

経営の重点

資質・能力の育成に向けて定めた経営の重点を紹介

指導の重点

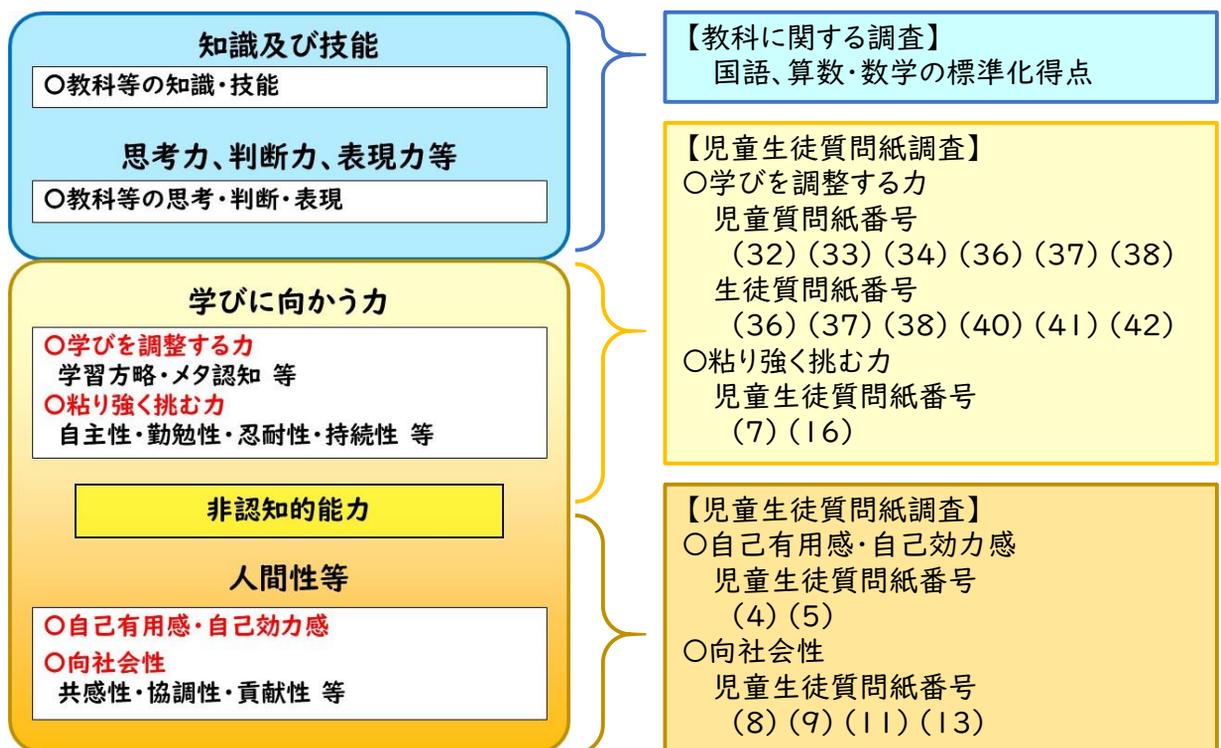
資質・能力の育成に向けて重点的に行った指導を、「授業づくり」「学力の基盤づくり」「学びに向かう集団づくり」「地域・家庭との連携」等の視点からまとめて紹介

令和5年度調査で明らかになったこと

重点的な指導を全校で行った結果、児童生徒にどのような成果が見られたかを、本県が育成を目指す「資質・能力」に基づき紹介

【事例紹介の内容や方法】

なお、「学びに向かう力、人間性等」に係る「学びを調整する力」「粘り強く挑む力」「自己有用感・自己肯定感」「向社会性」の傾向を把握するために活用した質問紙の項目は、以下のとおりである。



【「学びを調整する力」「粘り強く挑む力」「自己有用感・自己効力感」「向社会性」等の傾向を把握するために活用した質問紙の項目】

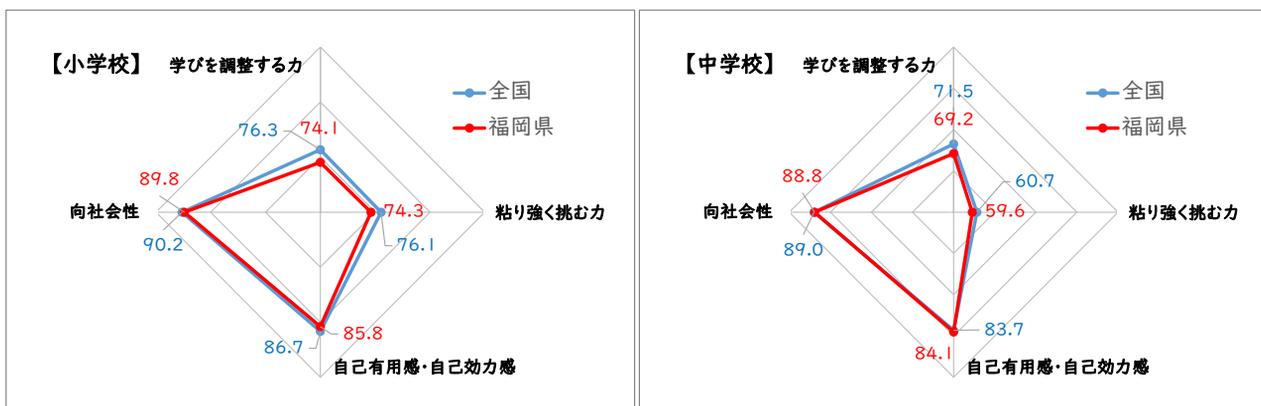
次頁に、上に示した各質問紙の具体を示す。

番号		「学びを調整する力」に関する項目
小	中	
(32)	(36)	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
(33)	(37)	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
(34)	(38)	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
(36)	(40)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
(37)	(41)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
(38)	(42)	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか
番号		「粘り強く挑む力」に関する項目
小	中	
(7)	(7)	将来の夢や目標を持っていますか
(16)	(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)
番号		「自己有用感・自己効力感」に関する項目
小	中	
(4)	(4)	自分には、よいところがあると思いますか
(5)	(5)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
番号		「向社会性」に関する項目
小	中	
(8)	(8)	人が困っているときは、進んで助けていますか
(9)	(9)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
(11)	(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
(13)	(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

上に示した「学びを調整する力(6項目)」「粘り強く挑む力(2項目)」「自己有用感・自己効力感(2項目)」「向社会性(4項目)」の全国及び本県の児童生徒の結果(肯定的な回答の割合)を、平均して示すと次のようになる。

	小学校		中学校	
	福岡県	全国	福岡県	全国
学びを調整する力	74.1	76.3	69.2	71.5
粘り強く挑む力	74.3	76.1	59.6	60.7
自己有用感・自己効力感	85.8	86.7	84.1	83.7
向社会性	89.8	90.2	88.8	89.0

下は、上に示した全国及び本県の児童生徒の結果をグラフ化したものである。グラフからは、本県の児童生徒の「学びを調整する力」「粘り強く挑む力」「自己有用感・自己効力感」「向社会性」の傾向は、小中ともに全国と比較して、同等もしくは若干低い傾向にあることが分かる。また、「粘り強く挑む力」は、本県においても全国においても、低い傾向にあり、課題といえる。



2 成果を上げている事例の紹介<小学校>

A小学校 第6学年(学級数:1学級 児童数:約35名)

校内及び中学校区内で統一した学力向上の取組を全学級で確実に実施し、調査結果から明らかになった課題に基づく授業改善を行うことで、教科の標準化得点とともに、児童の「**学びを調整する力**」や「**粘り強く挑む力**」の面に成果が見られた学校

B小学校 第6学年(学級数:3学級 児童数:約80名)

基礎タイムの充実や振り返りを重視した授業づくり、丁寧なノート指導、全校での「**いいところ見つけ**」等を共通実践し、教科の標準化得点とともに、児童の「**学びを調整する力**」や「**向社会性**」の面に成果が見られた学校

C小学校 第6学年(学級数:1学級 児童数:約30名)

児童の個別の学力実態に応じた授業づくりとともに、校内で、児童の主体的な行動を認め、ほめる取組を共通実践することで、教科の標準化得点とともに、児童の「**粘り強く挑む力**」や「**自己有用感・自己効力感**」の面に成果が見られた学校

D小学校 第6学年(学級数:2学級 児童数:約60名)

全校で意図的・計画的に自学、朝活動、集中講座、専科等を実践し、その成果を校内実力テストで児童にフィードバックすることを繰り返すことで、教科の標準化得点とともに、児童の「**粘り強く挑む力**」や「**自己有用感・自己効力感**」の面に成果が見られた学校

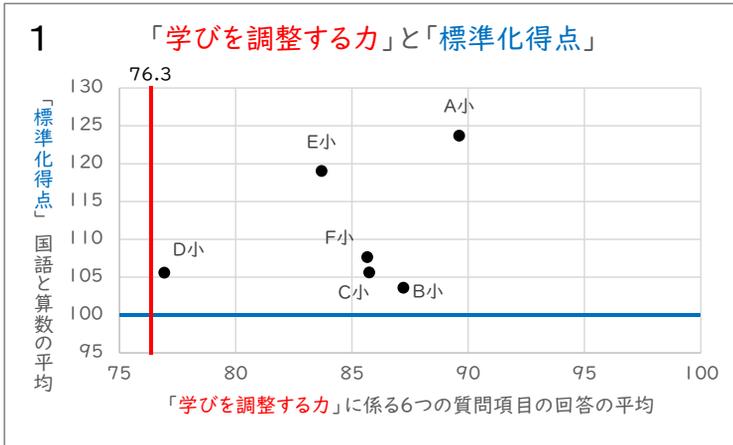
E小学校 第6学年(学級数:2学級 児童数:約50名)

算数科を中心に、全職員による「できるまで・わかるまで」の指導を徹底するとともに、読解力を高める指導を実践することで、教科の標準化得点とともに、児童の「**自己有用感・自己効力感**」や「**向社会性**」の面に成果が見られた学校

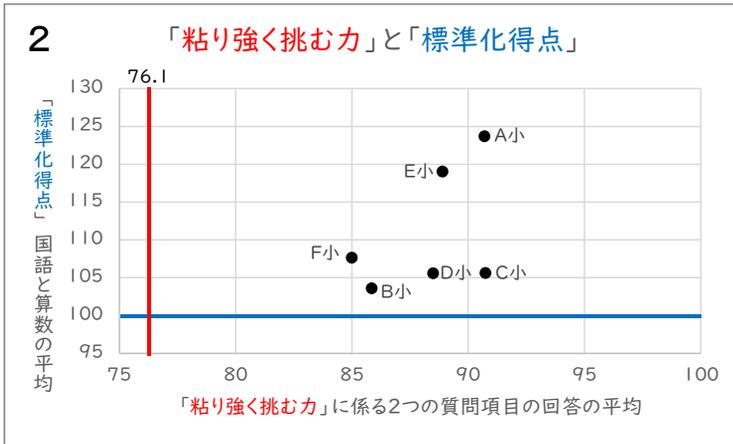
F小学校 第6学年(学級数:2学級 児童数:約60名)

学び合う土台としての集団づくり、人間関係づくりを重視し、児童の主体性や創意工夫を発揮させる学級活動、児童会活動、学校行事等を実践することで、教科の標準化得点とともに、児童の「**自己有用感・自己効力感**」や「**向社会性**」の面に成果が見られた学校

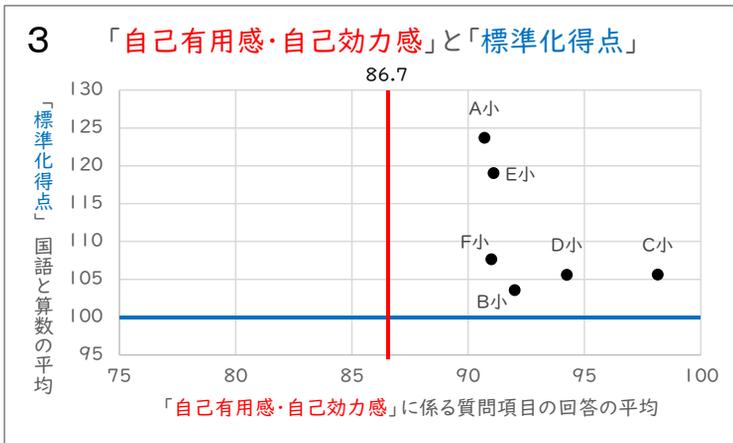
成果を上げている小学校の 「学びに向かう力、人間性等」と「標準化得点」の関係



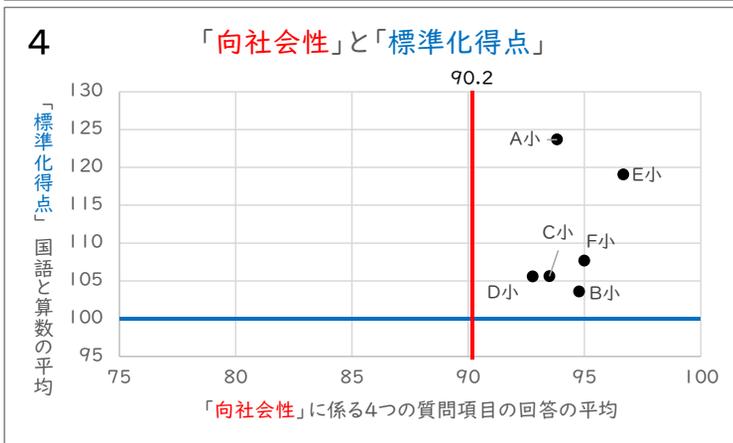
- 「学びを調整する力」について
- 関係する6つの質問項目に対する肯定的な回答の平均値
児童質問紙番号
(32) (33) (34)
(36) (37) (38)
 - 全国平均(76.3)が赤線



- 「粘り強く挑む力」について
- 関係する2つの質問項目に対する肯定的な回答の平均値
児童質問紙番号
(7) (16)
 - 全国平均(76.1)が赤線



- 「自己有用感・自己効力感」について
- 関係する2つの質問項目に対する肯定的な回答の平均値
児童質問紙番号
(4) (5)
 - 全国平均(86.7)が赤線



- 「向社会性」について
- 関係する4つの質問項目に対する肯定的な回答の平均値
児童質問紙番号
(8) (9) (11) (13)
 - 全国平均(90.2)が赤線

- 「標準化得点」について
- 国語と数学の標準化得点の平均
 - 全国平均(標準化得点100)が青線

A小学校 第6学年(学級数:1学級 児童数:約35名)

経営の重点

人権が尊重された安全・安心な環境の中で、今求められている学力・学ぶ力を一人一人の児童に定着させる。

- 「褒めて育てる」を基本理念とし全職員で児童を育てる
- 職員が、自身の課題に応じたテーマを設定して研究に取り組むとともに、似たテーマで研究する職員同士で交流する主体的・協働的な主題研究

指導の重点

授業づくり

- 生徒指導の3機能「自己決定」「自己存在感」「共感的人間関係」の視点から作成した自校版**授業評価シート(振り返りチェックシート)**を活用した授業改善
- 各種学力調査結果を内容別、観点別、形式別に分析し、学年ごとに指導の重点を明確にして取り組む授業づくり

学力の基盤づくり

- 中学校区の学力向上スタンダードの徹底
- **補充学習**の取組
- 活学力の育成を意識した朝活動
- 放課後学習室の開設



【中学生の協力による補充学習の様子】

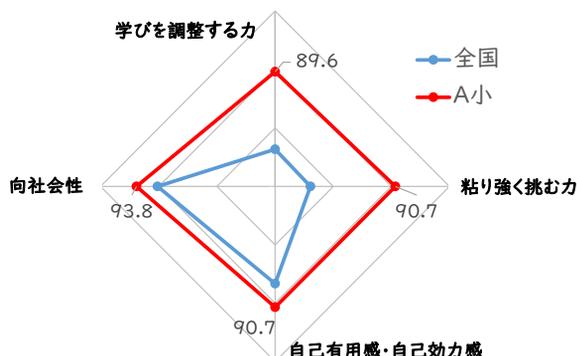
【授業評価シート(振り返りチェックシート)】

(2) 生徒指導の3機能を活かした、子どもが活躍できる授業づくり

教師のチェックリスト		チェック	
自己決定	1	ゴールを明確化し、学習の見通しをもたせる。	
	2	自分の考えをつくる場、じっくり考える場を設定する。	
	3	自分の考えを書く場を設定する。	
	4	自分の考えを伝える場を設定する。	
	5	思考をゆさぶり、自発的な学習につながる発問を工夫する。	
	6	学びの成果と今後の課題を明確化する振り返りを位置づける。	
自己存在感	1	UDLを意識したわかる・できる授業をする。	
	2	賞賛・承認・激励の言葉かけ(教師・子どもどうし)のある授業をする。	
	3	交流活動を取り入れ、考えのよさや違いに気づかせている。	
	4	自分の考えの根拠や理由を明確に伝えさせている。	
	5	課題の自己解決が難しい子や主体的に参加できない子が自ら支援を求めるよう促したり、自ら人に聞くことができる場を設定したりしている。	
人間関係	1	日常的に望ましい態度や言動をほめ、よい姿勢を全体に浸透させる。	
	2	間違いに対し、必ず肯定的な価値づけを行う。	
	3	体の向き・顔き・相づちを促し、肯定的・共感的に人の話を聴かせる。	
	4	体験的・協同的・対話的な学びを取り入れた、子どもの思考・判断・表現を豊かにする授業をする。	
	5	子どもの発言をつなぎ、集団の学び合いを促進する。	
	6	子どもどうしが互いの成果や努力を共有できる活動を位置づける。	

家庭・関係機関との連携

- 家庭学習の目安時間の設定と周知
- 月2回の週末課題の提供
- 中学校の定期考査期に行う家庭学習チャレンジウィークの設定



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」

国語:123.4 算数:124.0

校内及び中学校区内で統一した学力向上の取組を全学級で確実に実施し、調査結果から明らかになった課題に基づく授業改善を行うことで、教科の標準化得点とともに、児童の「**学びを調整する力**」や「**粘り強く挑む力**」の面に成果が見られた。

B小学校 第6学年(学級数:3学級 児童数:約80名)

経営の重点

目に見える具体的な児童の姿を大切に、できている姿を全職員が積極的に認め、ほめることで、児童の望ましい行動を増やす。

- 日常的に、教師と児童が言葉を選びながら、互いに納得のいくまで選び繰り返す対話を重視
- 知・徳・体のそれぞれを担う3つの部会が、取組の提案、取組に対する意見集約、推進状況の把握、改善策の検討等を責任をもって進める組織運営

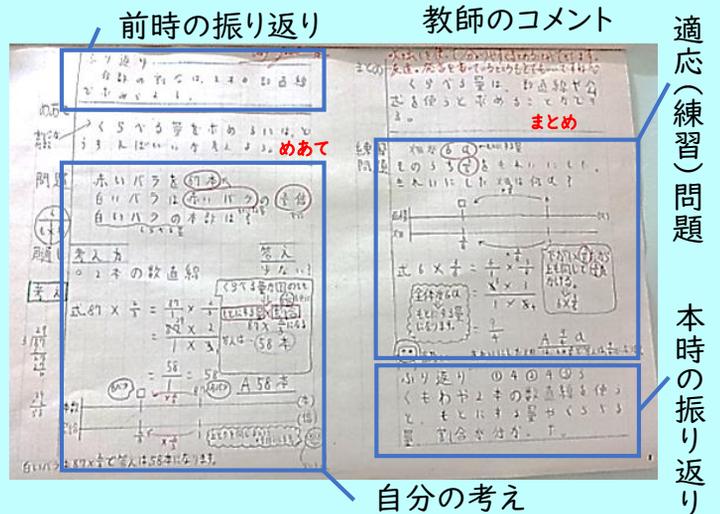
指導の重点

学力の基盤づくり

- 自分のがんばりを実感すること、自他のがんばりを互いに認め合うこと、がんばりを継続する励みとすること等を目的とし、2か月に1回の頻度で実施する「**ノートチャンピオン**」の取組
- 曜日ごとに教科を定め、意図的に用意されたいくつかの内容の中から、児童が自分にあった内容を選択して取り組む**基礎タイム**

「基礎タイム」の基本の流れ

【国語】	【算数】
①文章を全員で音読	①問題を選択
②文章を個人で音読	②問題を解く
③問題を解く	③答え合わせ
④答え合わせ・解説	④やり直し



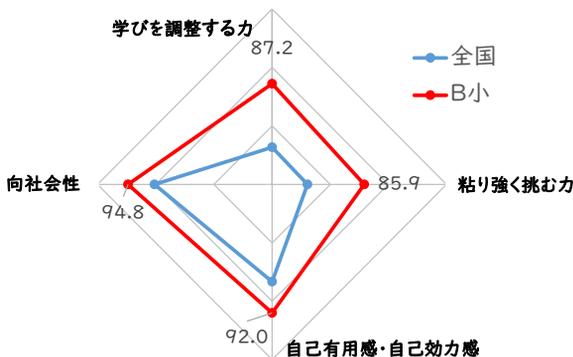
【ノートチャンピオンとして紹介されたノート(6年生)】

授業づくり

- 児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「これまでの学習と本時の学習をつなぐ導入」「意見・根拠・理由をキーワードに考えをつなぐ交流」「学んだことと日常をつなぐ振り返り」を意識した授業づくり
- ICTを活用して、考えを強化・修正・整理する交流活動
- 自分を磨き、互いを高め合う**教え合い活動**



【教え合い活動の様子】



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」
国語:103.2 算数:104.0

基礎タイムの充実や振り返りを重視した授業づくり、丁寧なノート指導、全校での「いいところ見つけ」等を共通実践し、教科の標準化得点とともに、児童の「**学びを調整する力**」や「**向社会性**」の面に成果が見られた。

C小学校 第6学年(学級数:1学級 児童数:約30名)

経営の重点

児童が喜んで登校し、満足して下校する学校づくりを通して、自ら学び最後までやり通すことができるよう支援する。



- 学校の経営課題や教育課題の解決に向けた方途を教職員が自ら考え協働的に取り組む職場環境づくり
- よりよい学校づくりに向けて自分や自分たちにできることを児童が自ら考え主体的に取り組む行動を肯定的に評価する学校づくり
- 保幼小中高及び関係機関との連携や進路学習の充実等による児童の非認知的能力の育成を目標に掲げた教育活動の推進

指導の重点

授業づくり

- 児童の主体的な学びを目指した**自己評価表**の提示と**ICTを活用した振り返り**
- 学力の**四分位層**に応じた**4つの教材や手立て**を準備し、児童が内容や方法を自己選択することによる主体的な学びの実現
- 算数科を中心とした習熟度別少人数分割指導



【ICTを活用した振り返りの様子】

この2つのどちらかを使って、自分の考えをまとめよう！

例① もし、この事例じゃなかったら、～です。

例② この事例だと、～というよさがあります。

【D層の児童への手立て】

考えをノートにまとめたら・・・

●まとめ終わった友達と考えを交流し合う。

●なぜこの順番で事例を挙げたか考える。

●困っている友達を助ける。

などをしてみよう！

【A層の児童への手立て】

評価内容		評価
日本文化に書かれた本を読み、使ってみよう表現の工夫について発表する。	☑	評価
自分が使ってみよう表現の工夫についての考えを発表することができた。		3つできた☆☆☆ A
「文末表現の工夫」や「絵の示し方の工夫」についてまとめることができた。		2つできた☆☆ B
「論の展開の工夫」について気づき、まとめることができた。		1つ以下 ☆ C

【自己評価表の例】

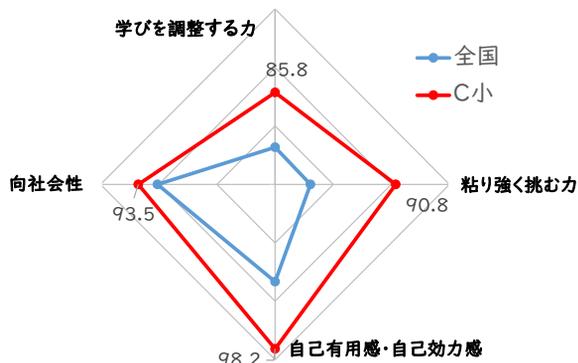
認め合う仲間、安心できる学級・学校づくり

- 児童会活動や学校行事等における児童一人一人が活躍できる場の設定と、一人一人のがんばりを認め、ほめる取組の充実

令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」

国語:104.3 算数:107.0



児童の個別の学力実態に応じた授業づくりとともに、校内で、児童の主体的な行動を認め、ほめる取組を共通実践することで、教科の標準化得点とともに、児童の「粘り強く挑む力」や「自己有用感・自己効力感」の面に成果が見られた。

D小学校 第6学年(学級数:2学級 児童数:約60名)

経営の重点

何事にも進んで取り組み、自ら伸びようとする児童の育成を目指し、全職員の共通理解に基づく丁寧かつ徹底した指導を行う。

- 各種調査の結果を丁寧に分析し、全職員で共有することで、指導や支援に活かす校内研修
- 論理的に思考し、説明できる児童を育てる国語科・社会科を中心とした主題研究

指導の重点

学力の基盤づくり

- 工夫する力やまとめる力の育成を目指し、児童が自主学習に取り組む「**活用カアップノート**」
- 基礎、思考力、読解力、記述力等の育成を目指し、日替わりで計画的に取り組ませる朝活動
- 複数教員による習熟度別の国語・算数集中講座
- 月に1回、算数科の複数単元を範囲として実施する
校内実力テスト

授業づくり

- 交流を重視し、「交流の見通しをもつ活動」「焦点化した交流活動」「交流を振り返る活動」により、学びを連続させる授業づくり
- 「交流形態の工夫」「教材開発」「資料提示」「発問の工夫」や「ICT活用」による交流の活性化
- 高学年において理科、家庭科、外国語科で実施する「学ぶ楽しさ」を実感させる専科授業



【活用カアップノート(2年生)】

かつやさんの学級は40人です。40人分のご飯は下のように入れ物に入ります。



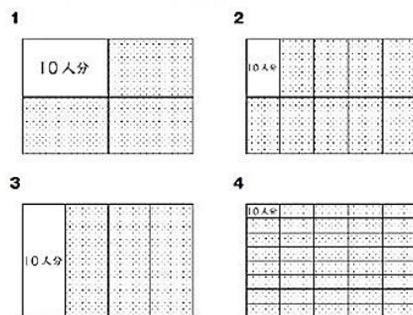
かつやさんは、ご飯が足りなくなったり、残ったりしない分け方を考え、下のように入りました。



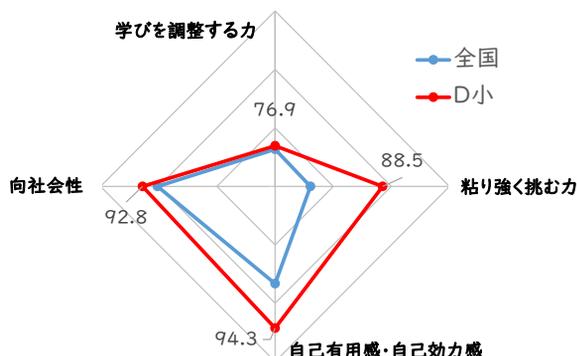
かつや

40人分のご飯が入っている入れ物を長方形とみて、10人分のめやすを最初に作れば、全員に同じくらいの量で分けることができるとおもいます。

かつやさんの言っているめやすを正しく表している図を、次の1から4までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。



【校内実力テスト問題(6年生)の一部】



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」

国語:103.2 算数:108.0

全校で意図的・計画的に自学、朝活動、集中講座、専科等を実践し、その成果を校内実力テストで児童にフィードバックすることを繰り返すことで、教科の標準化得点とともに、児童の「粘り強く挑む力」や「自己有用感・自己効力感」の面に成果が見られた。

経営の重点

一人一人に出番と居場所のある授業づくりに取り組み、児童が自分から粘り強く課題解決できるようにする。

- 一人の児童に対して、複数の教員が関わるができる環境や体制の整備
- 学力向上委員会の定期開催による児童の実態把握、取組の進捗状況の把握とチーム力の向上

指導の重点

学力の基盤づくり

- 個別の補充指導や励まし・賞賛を通して、全ての児童が85点以上を獲得するまで繰り返し取り組む単元末テスト
- 基礎基本の定着を図る複数教員体制による朝活動
- 分割少人数による読解(読み方・解き方)指導

家庭・関係機関との連携

- 教育委員会作成の資料「**家庭学習のすすめ**」を活用し、家庭訪問で配布・説明し、保護者に協力を依頼

家庭学習のすすめ

高学年

家庭学習でつけたい力

自分の生活時間を考えて、計画的に家庭学習に取り組む力をつける。

↓

中学校では

宿題だけではなく、学習や復習、苦手な学習の克服に自分から取組んでいく力が重要になる。

学習するときできていますか?

- テレビやゲームのスイッチを切っている。
- 机やテーブルの上が片付いている。
- 字をていねいに書いている。

家庭学習のながれ

時間のめやす【5年：60分以上 6年：70分以上】

平日	時	分	平日	時	分
通夜	時	分	通夜	時	分

(学習を始める時刻) (学習を終わる時刻)

(学習をする場所: 平日) (学習をする場所: 週末)

- 宿題をする。**
 - ★ 学校から出されたもの(プリント・ドリル・音読など)
 - ★ 家の人からサインがあるものは、サインをもらう。
- 自主学習(自学)をする。**
 - ★ 教科書を、大事なところに線を引きながら、音読する。
 - ★ 授業で学習したことを、ノートにまとめる。
 - ★ 習ったところの練習問題をやる。
 - ★ まちがえた問題をもう一度といたり、少しむずかしい問題にチャレンジしたりする。
 - ★ 言葉の意味や学習に関連した単語を調べる。
 - ★ 作文・詩・読書感想などを書く。ローマ字を練習する。
 - ★ 算数の公式や果て、国名、歴史人物などを覚える。
 - ★ 新聞記事を読んで、感想を書く。(土・日曜日は10分読書)など
- 明日の準備をする。**
 - ★ 時刻表を見て、必要なものをそろえる。
 - ★ 筆箱整理(えん筆5本、消しゴム、赤・青ペン、じょうぎ)
 - ★ 家の人におたよりを見せる。

〇〇市PTA連合会
〇〇市小中学校
〇〇市教育委員会

家の人のやくわり

たくさんかかわり
ほめて認めて
言葉のシャワー!

もう、こんな勉強してらんだ。すごいね!

これは、自分で考えてした自学ね。いい勉強してらね。

ていねいに書いているね。

毎日、よくがんばるねえ!

この一言が、子どもの**自信と意欲**をつくりだします。

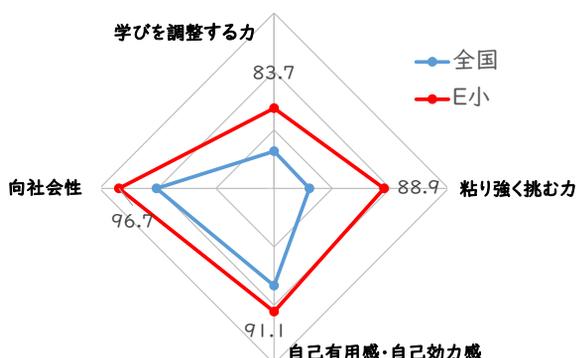
【家庭学習のすすめ(高学年版)】

授業づくり

- 本時で教師が「教えること」、児童が「学びとること」を具体化した上で、習熟したことの確認までを確実に実施する1コマ50分授業
- 算数科で、全時間、全学級の児童に対する複数教員による学習指導
- 各学年が児童の実態に応じて設定する重点単元における**習熟度別少人数指導**



【習熟度別少人数指導の様子】



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」
国語:118.1 算数:120.0

算数科を中心に、全職員による「できるまで・わかるまで」の指導を徹底するとともに、読解力を高める指導を実践することで、教科の標準化得点とともに、児童の「**自己有用感・自己効力感**」や「**向社会的性**」の面に成果が見られた。

F小学校 第6学年(学級数:2学級 児童数:約60名)

経営の重点

教育の重点を主体性とコミュニケーション力の育成に焦点化し、全ての教育活動において全職員が意識して取り組む。

- 教師も児童も学校を創る参画者として実践的に活動する雰囲気づくり
- 学び合う土台としての「よりよい集団づくり」に参画する児童を育成する特別活動の研究

指導の重点

授業づくり

- 授業の冒頭に教師が丁寧に説明した学習内容を、児童が「理解確認」→「理解深化」というアウトプット活動を通してより深く習得することを目指す「教えて考えさせる授業」を、算数科を中心に実施

認め合う仲間、安心できる学級・学校づくり

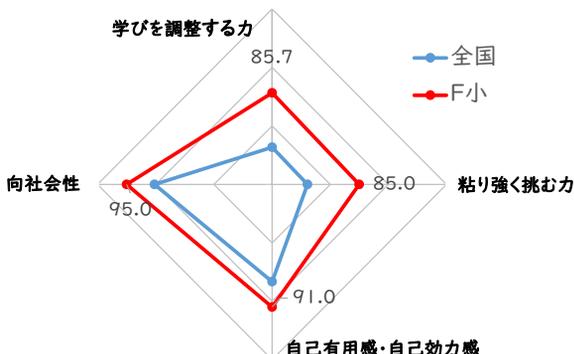
- 校内放送で指示される題目について、一定時間、近くの友達と対話する朝活動(コミュニケーションカアップタイム)の実施
- ゴール像を定め、振り返りや実践活動、話し合い活動、事前の活動等の具体を示した「**学級活動指導プラン**」を作成して行う学級活動
- 異学年児童によるコミュニケーションを重視し、年間を通した「縦割り掃除」「縦割り給食」等の取組
- 学級や学校での生活をよりよくするために、児童が主体性を発揮し、意欲的に取り組む委員会活動
- 一人一人の児童が自身の目標を宣言したり、自他の努力や成長を振り返ったりする場を意図的に設ける学校行事



【学級活動における児童の話し合いの様子】

単元名	
ゴール像	本題材で目指す子どもの姿 ※評価可能な姿で ※学級目標と関連付けて
振り返り活動	「何を」「どのように」振り返らせるか
実践活動	実践のねらい・内容
話し合い活動	話し合いの手順(合意形成の過程) 【①出し合う】 【②比べ合う】 【③まとめる】
事前活動	①目的 ※学級目標と関連付けた取組の価値 何のためにするのか ②話し合いの観点(低学年は【も】のみでも可) ※集団決定の根拠となるよう、 焦点化・具体化 ※観点到した 子どもの発言内容 が見えるように 【も】 【み】 【じ】 ③原案 ※話し合いの観点到したものの 自分の考えをつくる。 【IC活用】
実態	本題材に関する子どもの実態 ※学級目標と関連付けて

【学級活動プラン】



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」
国語:105.3 算数:110.0

学び合う土台としての集団づくり、人間関係づくりを重視し、児童の主体性や創意工夫を発揮させる学級活動、児童会活動、学校行事等を実践することで、教科の標準化得点とともに、児童の「**自己有用感・自己効力感**」や「**向社会的性**」の面に成果が見られた。

3 成果を上げている事例の紹介<中学校>

A中学校 第3学年(学級数:2学級 生徒数:約60名)

非認知的能力を高めることを目標に掲げた上で具体的な取組を検討し、一人一人の生徒の実態に応じて授業や指導・支援を行うことで、教科の標準化得点とともに、生徒の「**学びを調整する力**」や「**粘り強く挑む力**」の面に成果が見られた学校

B中学校 第3学年(学級数:6学級 生徒数:約230名)

授業モデルに基づくめあてやまとめ、振り返りを重視した授業づくりを行うとともに、生徒間で実践される補充タイムの活動等を通して、教科の標準化得点とともに、生徒の「**学びを調整する力**」や「**自己有用感・自己効力感**」の面に成果が見られた学校

C中学校 第3学年(学級数:5学級 生徒数:約160名)

振り返りを重視した授業づくりを全ての教科の授業で実践するとともに、生徒会による自学・自習ができる学習環境づくりの取組等を通して、教科の標準化得点とともに、生徒の「**学びを調整する力**」や「**向社会性**」の面に成果が見られた学校

D中学校 第3学年(学級数:6学級 生徒数:約240名)

学力と自己指導能力の向上を目指し、生徒の主体性を大切にしながら、鍛ほめ福岡メソッドに基づく教育活動を共通実践することで、教科の標準化得点とともに、生徒の「**学びを調整する力**」や「**粘り強く挑む力**」「**向社会性**」の面に成果が見られた学校

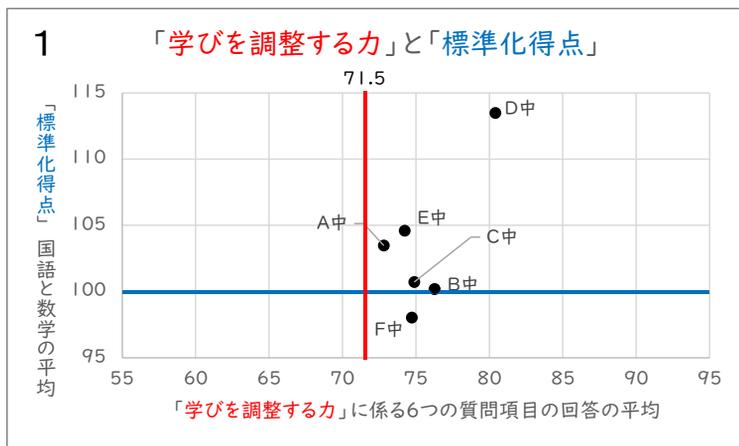
E中学校 第3学年(学級数:3学級 生徒数:約120名)

生徒が主体的に学校生活をつくる「時・場・礼」の取組と、各自が目標を定めて学習し振り返ることを毎日繰り返すチャレンジノートの共通実践等を通して、教科の標準化得点とともに、生徒の「**粘り強く挑む力**」や「**自己有用感・自己効力感**」の面に成果が見られた学校

F中学校 第3学年(学級数:2学級 生徒数:約70名)

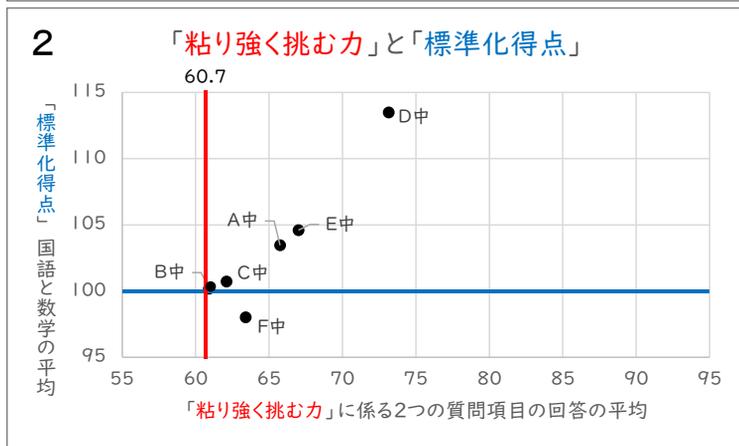
生徒が1日の学習を振り返り、家庭で計画的に学習する自学ノートの蓄積や、生徒による授業アンケート結果を生かした授業改善の共通実践により、教科の標準化得点とともに、生徒の「**自己有用感・自己効力感**」や「**向社会性**」の面に成果が見られた学校

成果を上げている中学校の 「学びに向かう力、人間性等」と「標準化得点」の関係



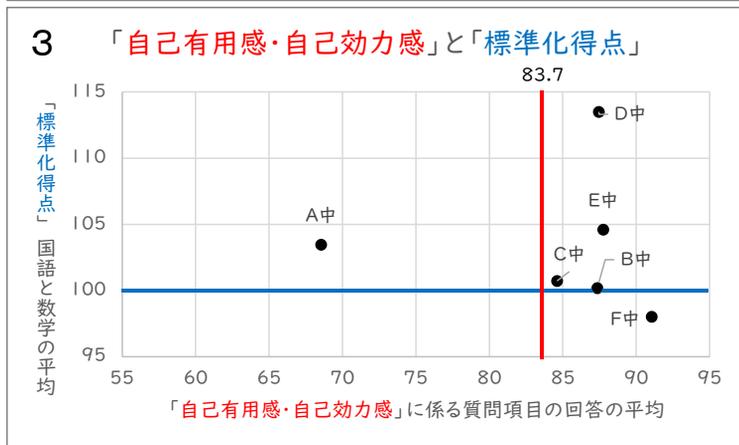
「学びを調整する力」について

- 関係する6つの質問項目に対する肯定的な回答の平均値
生徒質問紙番号
(36) (37) (38)
(40) (41) (42)
- 全国平均(71.5)が赤線



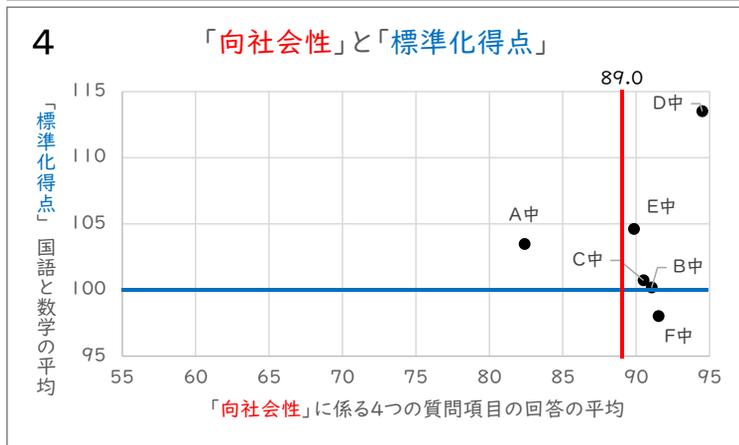
「粘り強く挑む力」について

- 関係する2つの質問項目に対する肯定的な回答の平均値
生徒質問紙番号
(7) (16)
- 全国平均(60.7)が赤線



「自己有用感・自己効力感」について

- 関係する2つの質問項目に対する肯定的な回答の平均値
生徒質問紙番号
(4) (5)
- 全国平均(83.7)が赤線



「向社会性」について

- 関係する4つの質問項目に対する肯定的な回答の平均値
生徒質問紙番号
(8) (9) (11) (13)
- 全国平均(89.0)が赤線

「標準化得点」について

- 国語と数学の標準化得点の平均
- 全国平均(標準化得点100)が青線

A中学校 第3学年(学級数:2学級 生徒数:約60名)

経営の重点

自尊感情や学ぶ意欲の向上を目指し、鍛ほめ福岡メソッドを活用した指導方法を実践する。

- 鍛ほめアンケートの結果に基づき、各学年で目指す生徒の姿(非認知的能力が発揮された生徒の姿)や課題、課題を解決する手立て等を協議する研修会の実施
- 異教科メンバーで構成されたグループによる授業研修会の実施



【研修会の様子と共有された課題や手立て】

鍛ほめアンケート

・課題項目

- 子ども同士の関係性の中で、お互いの良さが認められる雰囲気を作る
- 12. 安心してわからないと答える雰囲気をつくる

・手立て

- 生徒が自己存在感を感じるような声掛けを1日に1回は行う(生活ノート、声掛けなど)
- 「やればできる」を浸透させる
- 考えを披露する場を増やし、それを認められる環境づくり

9. 良いところを認める

9. 良いところを認めてくれている

12. 自分の考えを深めたり、広げたり

達成感を味わえるような経験をつませる

授業をスモールステップにして小さなことで達成感を得るよ

指導の重点

授業づくり

- 学年別、教科(領域)別、問題形式別等に生徒の課題を分析・把握し、生徒に身に付けさせる力を明確にした上で、教材や発問を工夫する授業づくり
- 一人一人の個別の学力実態(四分位)を一覧表にまとめ、個々の学力層に応じた手立てを工夫する学習指導
- 学力アップ非常勤講師を活用した習熟度別少人数学習

	国	数	英
	B	B	C
	C	D	D
	C	C	C
	B	C	C
	B	C	D
	B	A	C
	B	A	B

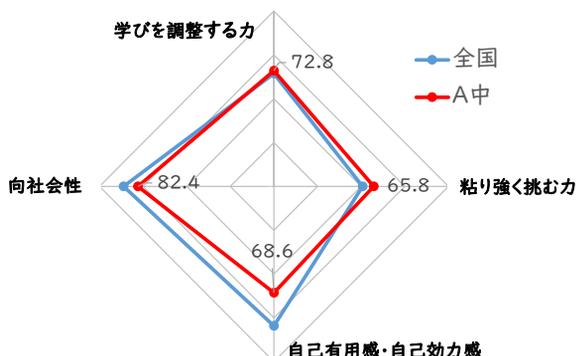
【学力実態(四分位)一覧表】

鍛ほめ福岡メソッドに基づく学力の基盤づくり

- 毎週教科を変え、金曜日に実施される小テストに向けて、各自が自分に合った内容やレベルの課題を自己選択して取り組む朝活動
- 生徒が学習計画を立て、自身の努力や成果を振り返って次に生かすことを重視した定期考査に向けた自主学習



【朝活動の様子】



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」
国語: 99.0 数学: 107.9

非認知的能力を高めることを目標に掲げた上で具体的な取組を検討し、一人一人の生徒の実態に応じて授業や指導・支援を行うことで、教科の標準化得点とともに、生徒の「学びを調整する力」や「粘り強く挑む力」の面に成果が見られた。

B中学校 第3学年(学級数:6学級 生徒数:約230名)

経営の重点

何事にも進んで取り組み、自ら伸びようとする生徒の育成を目指し、各取組の目的・内容・方法等を全職員で共通理解し、徹底した指導を行う。



【学年会議の様子】

- 市が作成した授業モデルに基づき一人一実践を公開する授業研修会
- 「学力向上」「基本的生活習慣」の観点から、各月の目標と具体的な取組を明確化し、実施状況等を学年会議、運営委員会で確認

月	学校教育目標	重点目標	学期の目標	月の目標	取組内容		
					学習規律の徹底	スパイラルタイムの充実	家庭学習の定着
4月			家庭学習規	授業規律を徹底させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○学年チャイム席点検(風紀委員) ○授業の始めと終わりのあいさつ強調週間(評議員) ○帰りの会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・1日の反省を班で話し合う ・教師が評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○スパイラルタイムのやり方の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・自分で解く→教え合い ○時事問題の取組(通年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○二中ノート点検 <ul style="list-style-type: none"> ・課題プリントを用意 ・未提出者は放課後残す
5月				家庭学習を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○学年チャイム席点検(風紀委員) ○授業態度コンクール <ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会で評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○県学テ過去問 <ul style="list-style-type: none"> ・二中ノート課題の教え合い ○ブロックの3年生による取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○二中ノート点検 <ul style="list-style-type: none"> ・県学テの過去問、類似問題を用意

【学力向上に係る各月の目標及び具体的な取組(1年生)の一部】

指導の重点

授業づくり

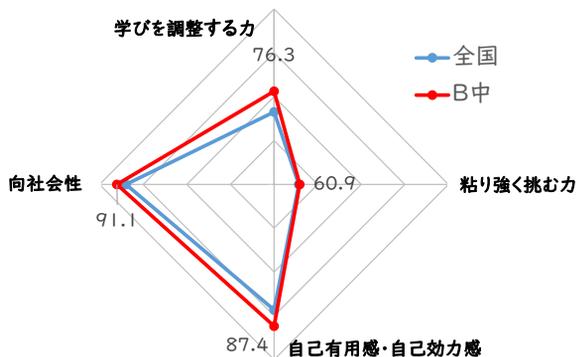
- 市が作成した授業モデルに基づき、「めあての設定」「学習内容のまとめと振り返り」「書く活動」「ICT活用」等に全職員で取り組む授業づくり
- 生徒一人一人に、自身の努力や成長を実感させることをねらいとした「教え合い学習」の時間の確保

学力の基盤づくりと学ぶ意欲の高揚

- 数学科を中心とした習熟度別少人数学習
- 帰りの会前に15分間の教え合いによる補充学習の設定
- 生徒が主体的に発案し、その価値を実感して取り組む上級生が下級生に勉強を教える「補充タイム」期間の設定
- 生徒が日常的に内容や方法を工夫して取り組む自学ノートの校内コンクールと教師の肯定的な評価による努力の価値付け



【15分間の教え合いによる補充学習の様子】



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」

国語: 99.0 数学: 101.3

授業モデルに基づくめあてやまとめ、振り返りを重視した授業づくりを行うとともに、生徒間で実践される補充タイムの活動等を通して、教科の標準化得点とともに、生徒の「学びを調整する力」や「自己有用感・自己効力感」の面に成果が見られた。

C中学校 第3学年 (学級数:5学級 生徒数:約160名)

経営の重点

生徒が自ら伸びを実感することができるようにするために、自分に必要な力は何か、そのために何をすべきかを生徒自身に考えさせ実践させる指導を大切にする。

- 生徒主体で考え、一人一人の教師が自分にできることを考え実践
- 教科部会→学力向上検証委員会→校内研修会→学年会を通した学力向上検証改善サイクルの確立



指導の重点

【振り返り活動の様子】

授業づくり

- 授業の導入と終末の段階に位置付けた**振り返り活動**で、生徒一人一人が、自己の変容を自覚化
- 他者と協働したり、互いのよさを認め合ったりする場面を意図的に設定する授業づくり

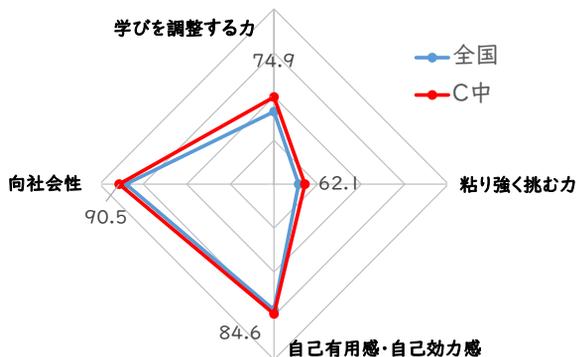


学力の基盤づくり

- 帯の時間を活用し、生徒が与えられた問いの意味や出題者の意図等を考えたり、解釈したりすることを重視した作文指導の積み重ね
- 学年ごとに生徒の学力実態を分析し、分析結果に基づいて内容や方法を検討して実施するD層の生徒に焦点化した基礎基本の徹底を図る勉強会

生徒による学びの環境づくり

- 定期考査前に落ち着いた雰囲気自学・自習ができる環境を整える生徒会の主体的活動



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」

国語: 96.2 数学: 105.3

振り返りを重視した授業づくりを全ての教科の授業で実践するとともに、生徒会による自学・自習ができる学習環境づくりの取組等を通して、教科の標準化得点とともに、生徒の「**学びを調整する力**」や「**向社会性**」の面に成果が見られた。

経営の重点

生徒の自己指導能力の向上を目指し、鍛ほめ福岡メソッドに基づく教育を、全職員が学校の教育活動全般において実践する。

- 3本の矢(3つの共通目標)「あいさつ」「黙動掃除」「対話活動」
- 生徒の自ら伸びようとする力(互いに伸び合おうとする力)を最大限に活用した自己指導能力を向上させる教育活動の推進

指導の重点

学力・生活の基盤づくり

- ICT(AIドリル等)を活用し、基礎学力の定着を図る鍛ほめ福岡メソッドによる**朝活動**
- 自己指導能力の向上を目指し、生徒が主体的に自身の学習や生活を振り返り、1日の伸びや課題を自覚する**ドリカム手帳**の取組

【AIドリルを活用した朝活動の様子】

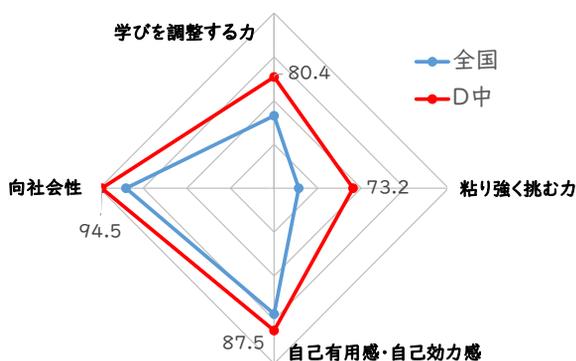


7月	8月	9月	10月	11月	12月	13月
部活動中止	中央専門委員会	テストの見直し	行事予定	期末テスト①	期末テスト②	練習試合!!
理科 教・ファ・ワ	数学 教・ファ・ワ	国語 教・ファ・ワ	国語	社会	理科	英語(週末課題)
音楽 リコーダー	社会 教・地図帳	体育 教・ファ	技術/家庭	保健体育	部屋の片付け	練習試合で 1点はゴールを さめる!! (ゼッケン忘れず!!)
美術 手習いセット	家庭 教・ファ	体育 体操帳	英語	学活アンケート		
国語 教・ファ	理科 教・ファ・ワ	社会 教・地図帳	数学			
体育 体操帳	学活 ファ	英語 教・ファ・ワ				
	中央専門委員会	数学 教・ファ・ワ				
テスト計画表		P.T.A講演会	国・英・数・ワーク	テスト計画表!!		
社会の週末課題		出欠票	技・家・ファミル	社・理・ワーク		
				保体・ワーク		
明日の100問	数学と理科の	国・漢字	社・同名	期末テストの		
テスト(社会)に	ワークを全て	技・家・用語の確認	理・用語の確認	復習をする。		
向けて復習する!	終わらせる!	英・単語・文法	英・単語のルール	(部室交換ノート に書き直し)		
	(お付けまで)	数・ワークの見直し				
帰塾	帰塾・準備	帰塾	大の散歩	帰塾		
夕食・入浴	塾(7時半まで)	夕食・入浴	塾(7時半まで)	夕食・入浴		
国語(漢字)	→ テスト勉強	国語(漢字)	→ 1日1単語	→ 期末テストやり直し		
数学(ワーク)	夕食・入浴	技・家(復習)	夕食・入浴	自由時間(テレビ)		
社会(プリント)	数学・理科(ワーク)	英・数(ワーク復習)	保健(復習)	就寝		
就寝	就寝	就寝	就寝	就寝		
音楽でリコーダーの	社会の100問テスト	体育で体力テスト	期末テスト1日目	期末テスト2日目		
練習をした。	があった。	をした。	だった。	だった。		
じやんが教えてくれ	全然できなかった	反復練習が	今日の英語のテストは	やっと終わったほっし		
てうれしかった。	ので必ず復習する。	自己新記録だった。	完璧だった。おほい。	した。早くねよう!		

【ドリカム手帳】

- 授業づくり
- 対話活動の充実とICTの効果的な活用による協働的な学びの授業づくり
 - 生徒による授業評価に基づく日常的な授業改善

- 認め合う仲間、安心して学べる学級・学校づくり
- 第3学年生徒がリーダーシップを発揮するユニット制(縦割りグループ)による学校行事や生徒会行事



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」
国語:108.6 数学:118.4

学力と自己指導能力の向上を目指し、生徒の主体性を大切にしながら、鍛ほめ福岡メソッドに基づく教育活動を共通実践することで、教科の標準化得点とともに、生徒の「学びを調整する力」や「粘り強く挑む力」「向社会的性」の面に成果が見られた。

経営の重点

主体的に学び、仲間とともに行動を磨く生徒の育成を目指し、日常的に生徒を主語とした教育活動を展開する。

- 結果だけではなく、経過を価値付ける声掛けや評価の実施
- ICTを活用した協働的な学びの充実をねらいとした授業公開の実施

指導の重点

生徒による学校づくり

- 仲間とともに行動を磨く「時・場・礼」の実践

時を司る

- ①常に時計を見ながら、次にとるべき行動を先読みする。
(タイム席、給食準備と片付け、掃除5分前無言移動等)
- ②メリハリをつける。
(集中と休憩の使い分けによる時間の有効活用)
- ③提出物の期限厳守
(チャレンジノート、アンケートや出欠表提出等)

場を整える

- ①無言清掃と気づきの清掃
- ②集会時→無言移動、無言整列
- ③授業の準備や学び合いの雰囲気作り
今何をしなければならないのかを考えよう。

礼を正す

- ①挨拶 5S
Stop(立ち止まって) Smile(笑顔で) Spark(元気に)
Speed(自分から) Spirit(気持ちをこめて)
- ②気持ちのいい返事 はい!
- ③「お願いします」「ありがとうございました」「失礼します」「すみません」言葉を適切に使おう。

- 第3学年生徒の姿を校内モデルとし、生徒会活動の充実による生徒主体の安全・安心な学校づくり

授業づくり

- 自校版「学び合いスタンダード」に基づく授業づくり
[個人思考→集団思考→個人で再構築]
- 生徒の主体的な学びを促す「めあて」の設定と「振り返り」の実施



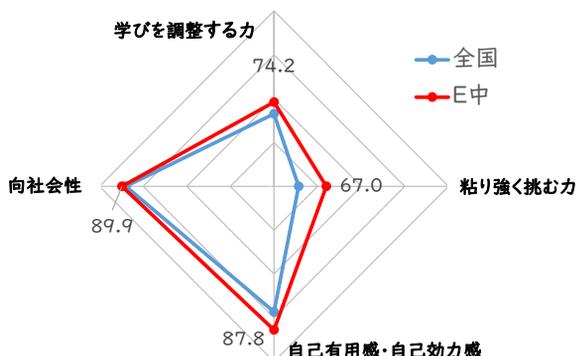
【時・場・礼(無言清掃)の様子】

学力の基盤づくり

- 授業の振り返りに基づき、毎日家庭で計画を立てて学習する「チャレンジノート」の取組と、生徒の主体的な努力に対する教師の肯定的なコメントの積み重ね
- 生徒の「できた」「分かった」の積み重ねを大切にした**放課後学習会**の実施と教師による指導・支援



【放課後学習会の様子】



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」
国語:100.0 数学:109.2

生徒が主体的に学校生活をつくる「時・場・礼」の取組と、各自が目標を定めて学習し振り返ることを毎日繰り返すチャレンジノートの共通実践等を通して、教科の標準化得点とともに、生徒の「粘り強く挑む力」や「自己有用感・自己効力感」の面に成果が見られた。

F中学校 第3学年(学級数:2学級 生徒数:約70名)

経営の重点

よりよい選択肢を選び、自分をコントロールしながら行動できる生徒の育成のために、生徒の動機付けを重視する。

学力向上の基本的な考え方

- ① 年度当初に決めたことを最後までやる。
- ② 一方で効果のないことはやめる、減らす。
- ③ 効果のある取組は積極的に取り入れる。
- ④ 既存のものを活用する。
- ⑤ 学年を中心として学力向上に取り組む。

学年を中心とした学力向上

- 全学級における二人担任制による生徒一人一人を大切にされた学級経営・生徒指導
- 生徒の学力実態を個別に挙げて分析し、学年教員で共有するとともに、学年で設定した目標に向かって、職員が責任をもって指導

指導の重点

- 学力・生活の基盤づくり
- 「主体的な学びの姿」の具体を10項目で示し教室に掲示することによるあるべき姿(目標とする姿)の共有
- 帰りの会で1日の学びを振り返り、計画的な家庭学習につなぐ生活・学習ノートの取組と生徒の生活・学習ノートに対する教師からの肯定的なコメント
- 生徒会が作成する生活・学習ノートマニュアル

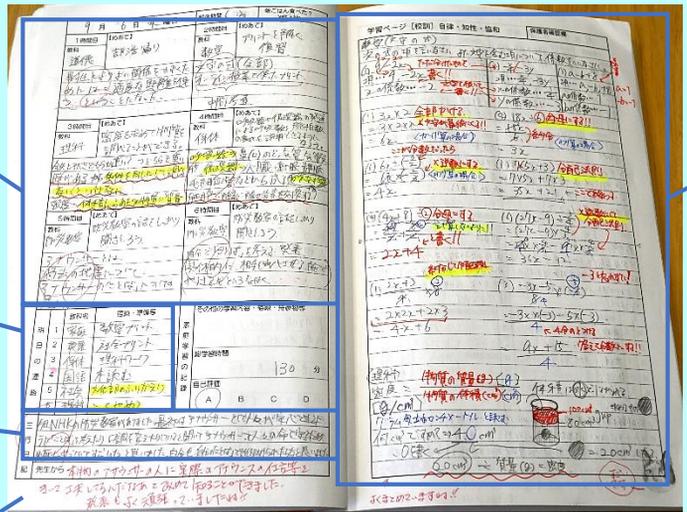
今日の学習内容

明日の時間割

今日の振り返り

教師のコメント

【生活・学習ノート】



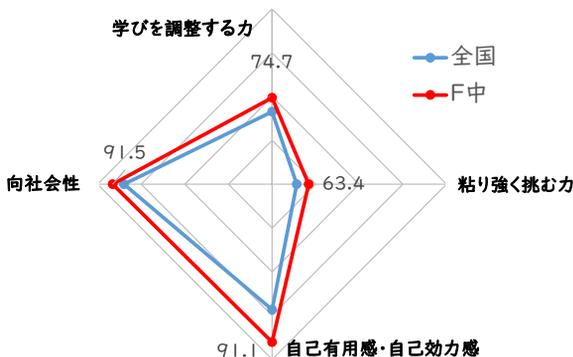
家庭学習(自学)

授業づくり

- 「書く活動」と「振り返り」を重視した授業づくり
- 学校版授業アンケート結果に基づく授業改善
- 期間を定め、学年の全職員で実施する習熟度別少人数指導



【振り返り活動の様子】



令和5年度調査で明らかになったこと

「標準化得点」
国語:100.0 数学:96.1

生徒が1日の学習を振り返り、家庭で計画的に学習する自学ノートの蓄積や、生徒による授業アンケート結果を生かした授業改善の共通実践により、教科の標準化得点とともに、生徒の「自己有用感・自己効力感」や「向社会的性」の面に成果が見られた。

資料は次のページから



ふくおか教育月間イメージキャラクター「ミライル」
これからの社会をはばたく子供たちの「翼」をイメージした妖精です

2 児童生徒質問紙の回答状況



- ◆ 基本的な生活習慣等は、教科の正答率への影響も大きい傾向にあります。
- ◆ 挑戦心、達成感、自己有用感等の項目に肯定的な回答を示す児童生徒（自分のよさを自覚しながら粘り強くやり遂げようとする児童生徒）ほど、教科の正答率が高い傾向にあります。
- ◆ 学習習慣、学習環境等では、家庭での計画的な学習や毎日の学習時間（量）が確保できている児童生徒ほど教科の正答率が高い傾向にあります。
- ◆ 挑戦心、達成感、自己有用感等に関する項目では、全国と比較して肯定的な回答が低い傾向があり、**非認知的能力の育成に関わる取組の充実が求められます。**
- ◆ 教科の興味・関心や理解度は、教科の正答率への影響も大きいので、児童生徒の学習状況等を評価しながら指導に生かす取組が求められます。

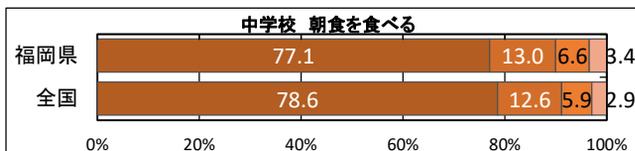
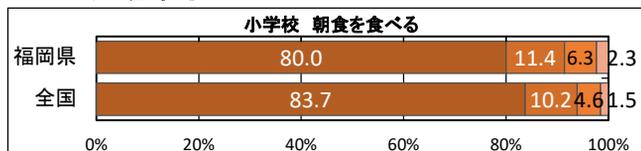
※ 表の数字は、質問番号

基本的な生活習慣等に関する特徴的な質問項目

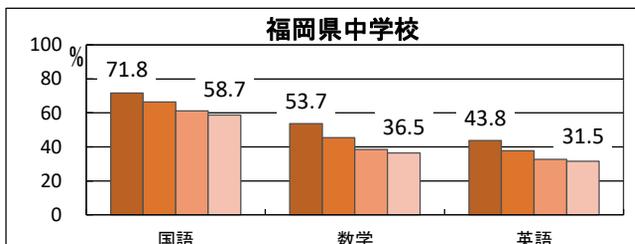
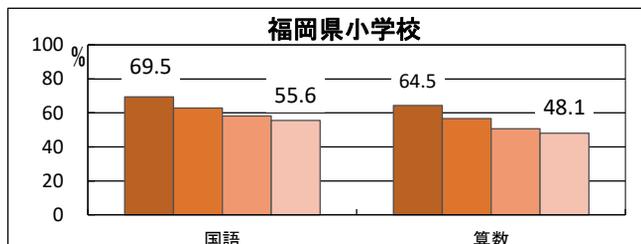
1	朝食を毎日食べていますか
---	--------------

回答状況

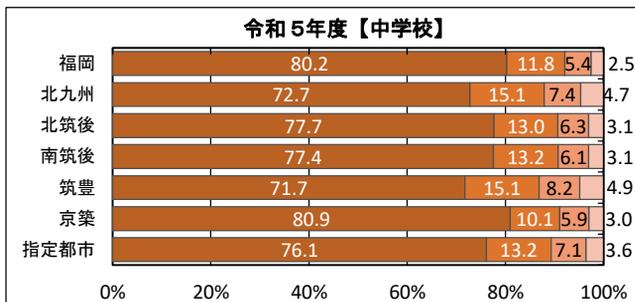
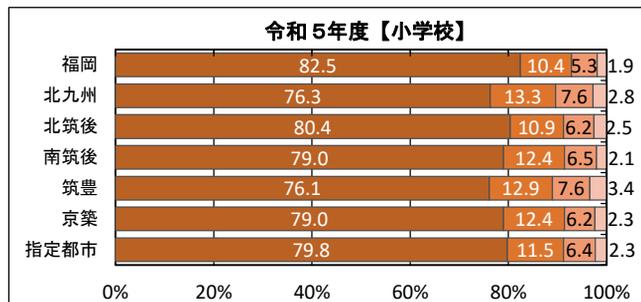
■ している ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全くしていない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

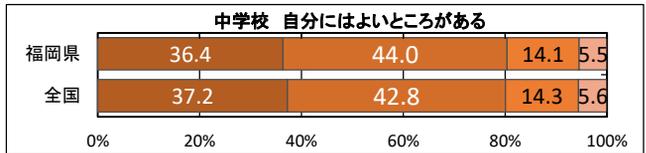
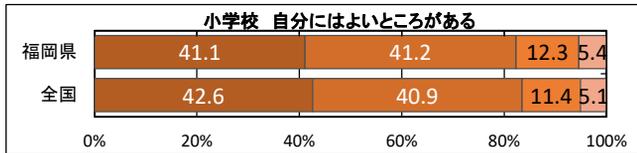


挑戦心、達成感、自己有用感等に関する特徴的な質問項目

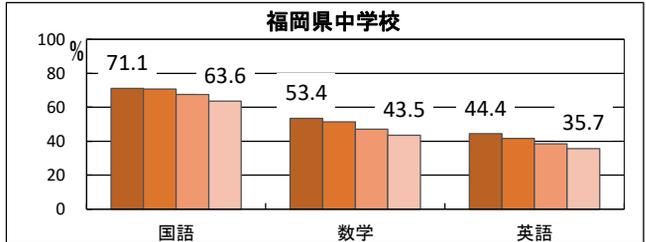
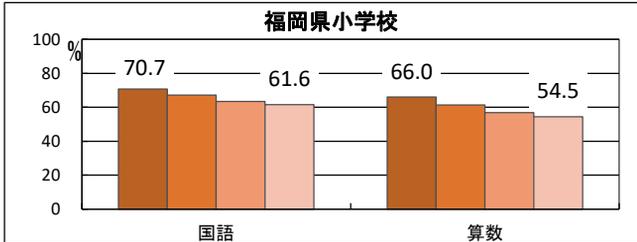
4 自分には、よいところがあると思いますか

回答状況

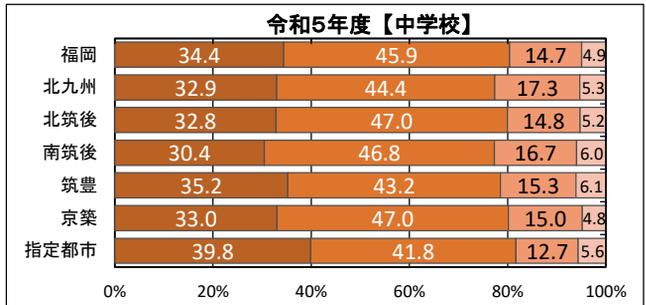
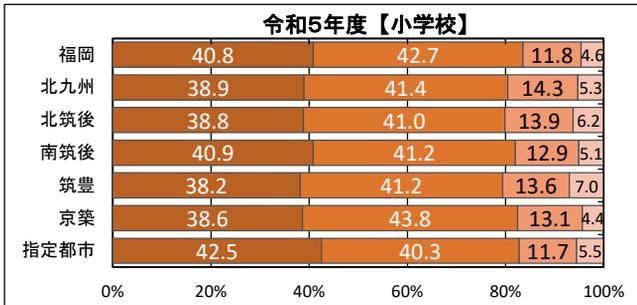
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



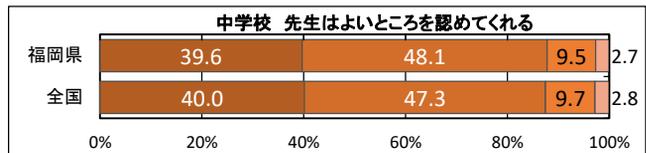
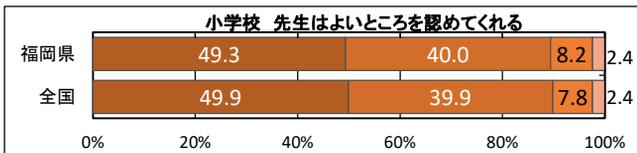
地区別回答状況



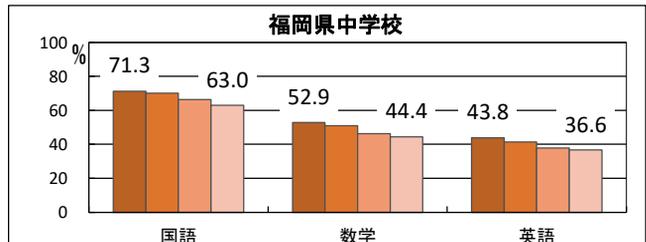
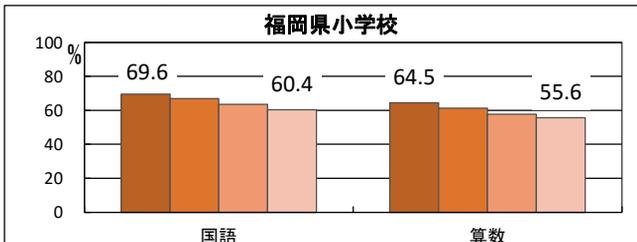
5 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

回答状況

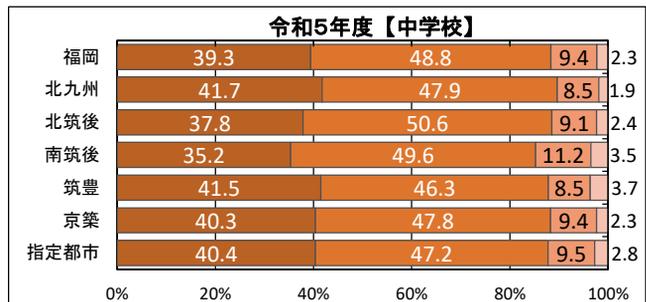
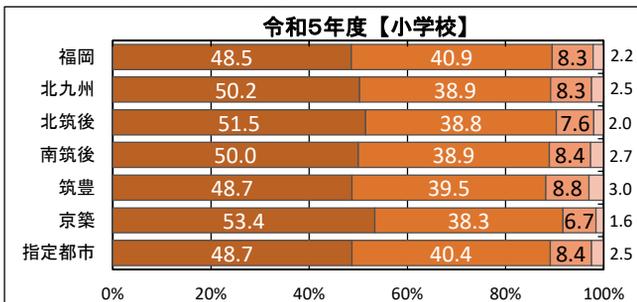
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析

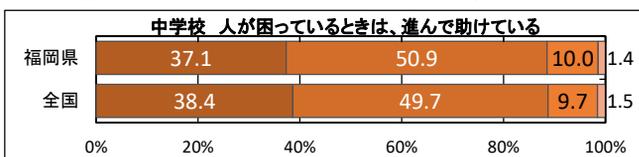
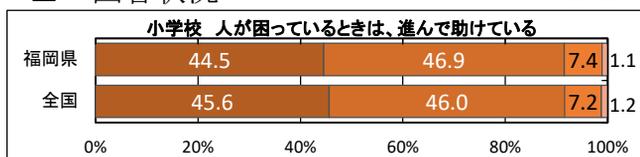


地区別回答状況

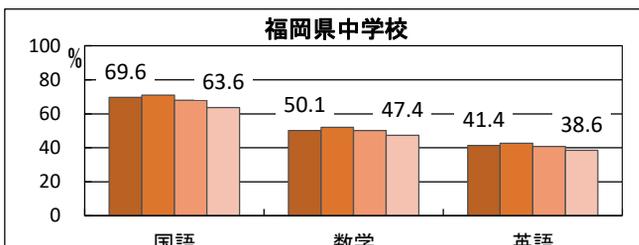
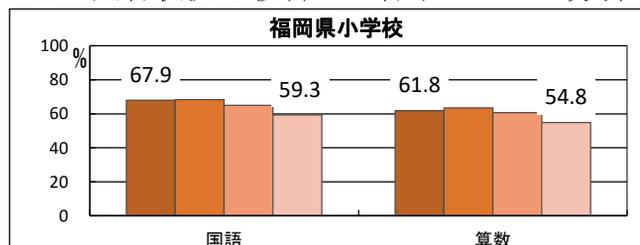


8 人が困っているときは、進んで助けていますか

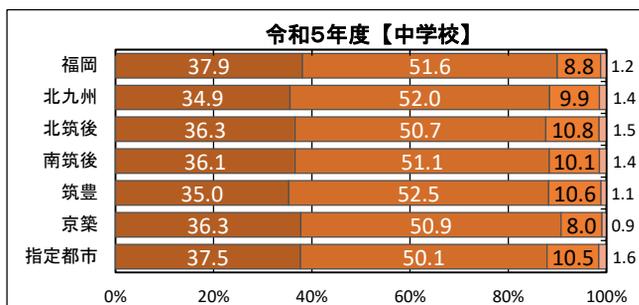
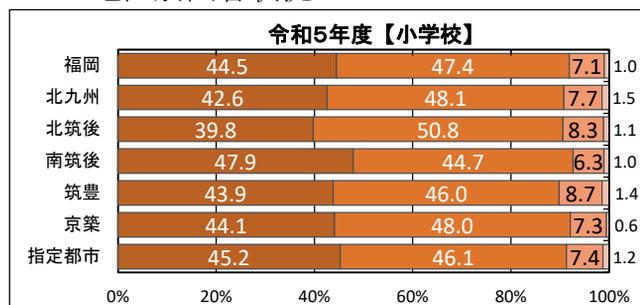
■ 回答状況 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析

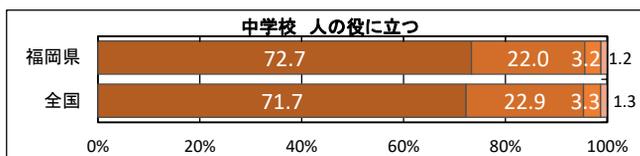
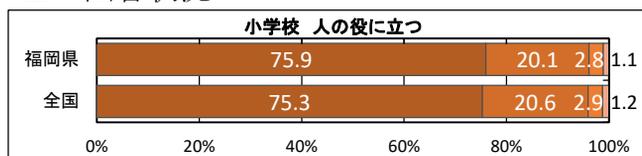


■ 地区別回答状況

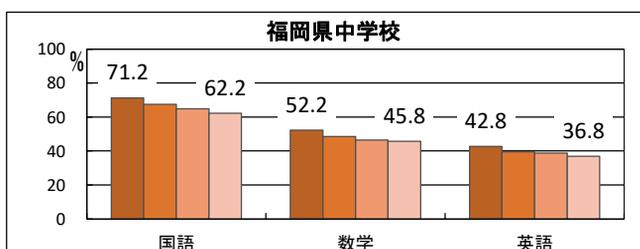
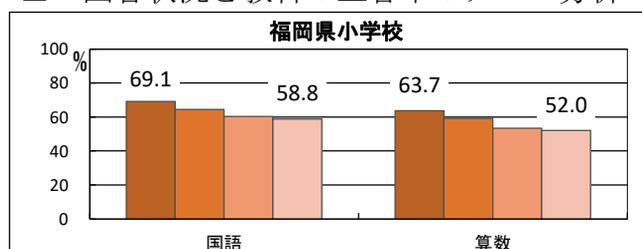


11 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

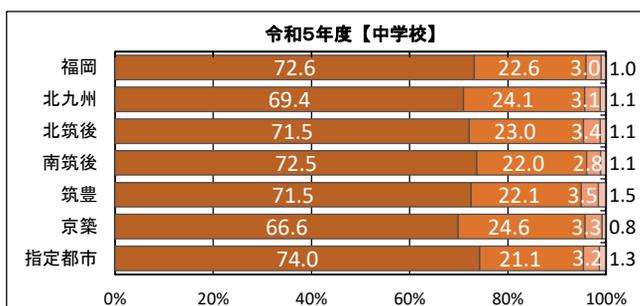
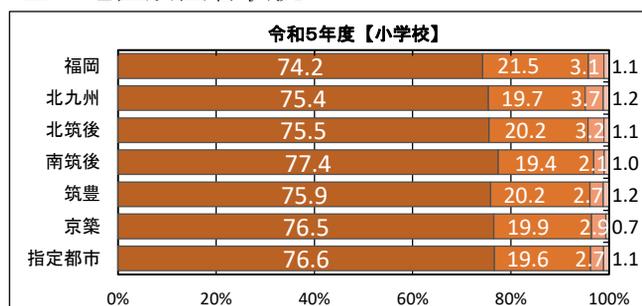
■ 回答状況 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析

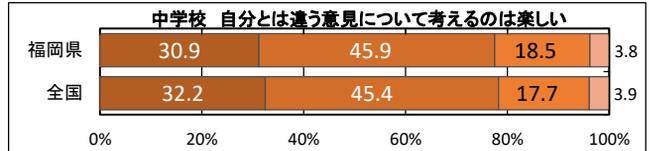
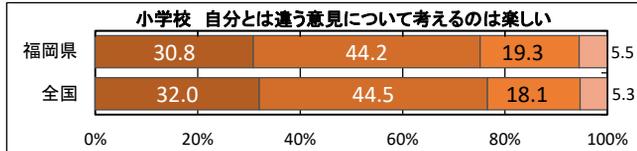


■ 地区別回答状況

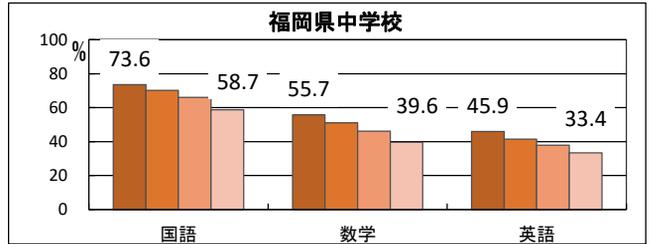
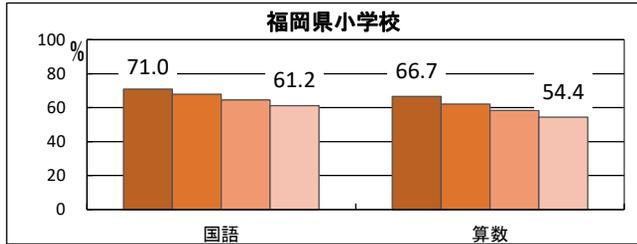


■ 回答状況

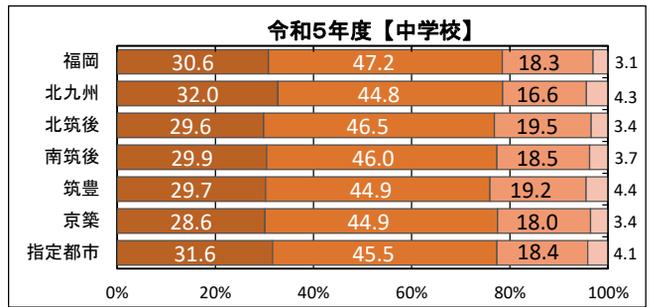
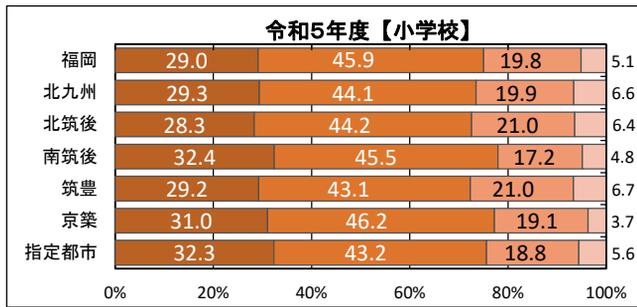
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



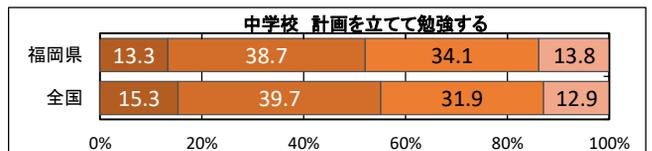
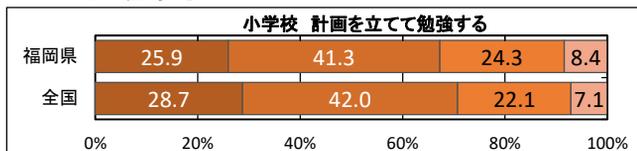
■ 地区別回答状況



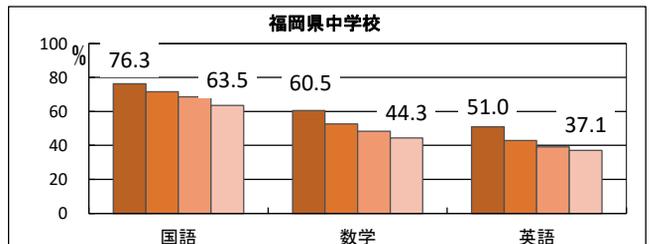
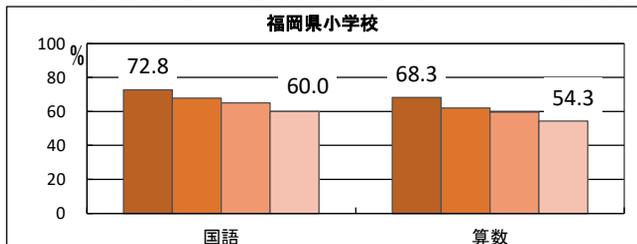
学習習慣・学習環境等に関する特徴的な質問項目

■ 回答状況

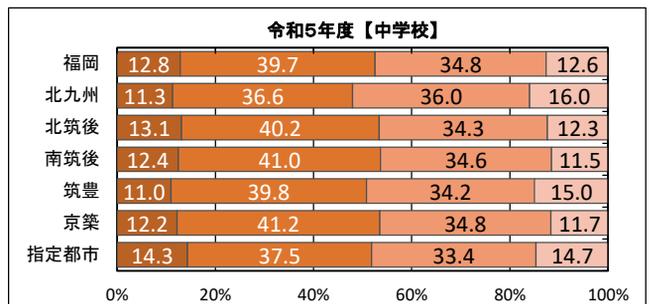
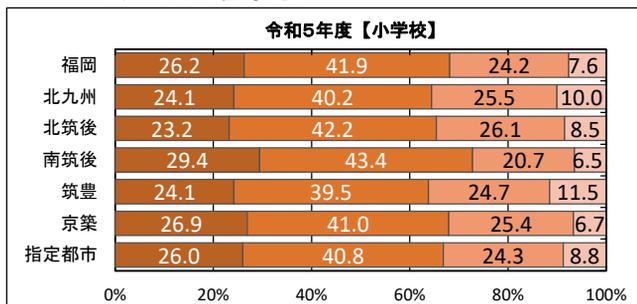
■ よくしている ■ ときどき ■ あまり ■ 全くしていない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



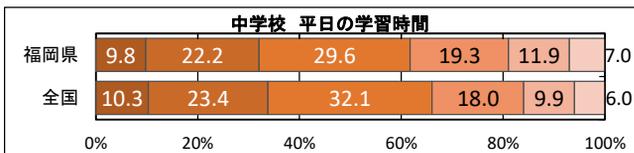
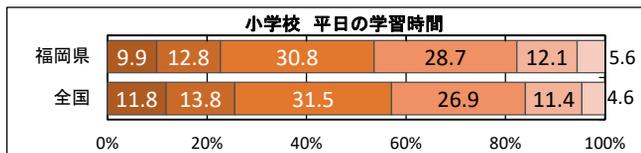
■ 地区別回答状況



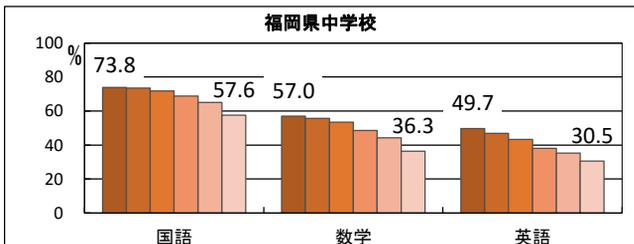
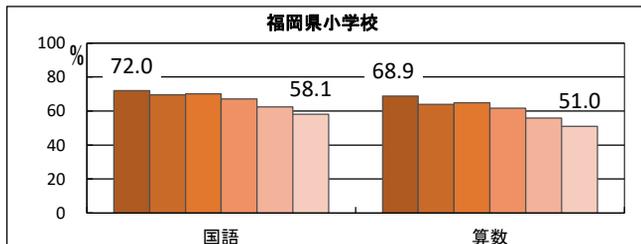
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）

回答状況

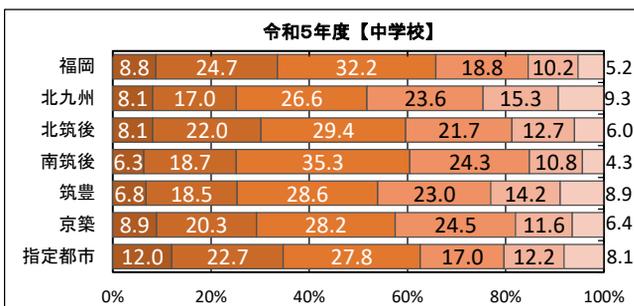
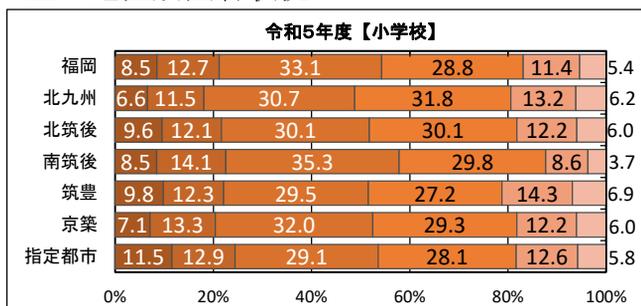
■ 3時間以上 ■ 2時間以上 ■ 1時間以上 ■ 30分以上 ■ 30分未満 ■ 全く



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況



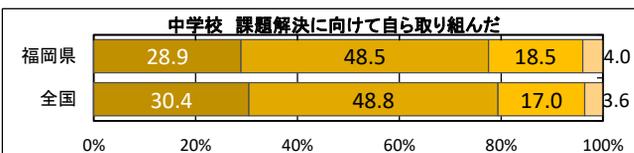
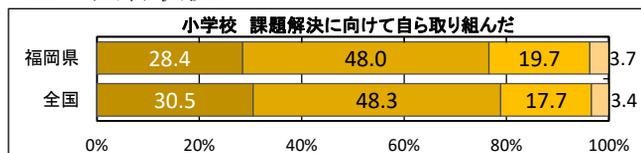
授業改善に向けた取組状況に関する特徴的な質問項目

小3 3
中3 7

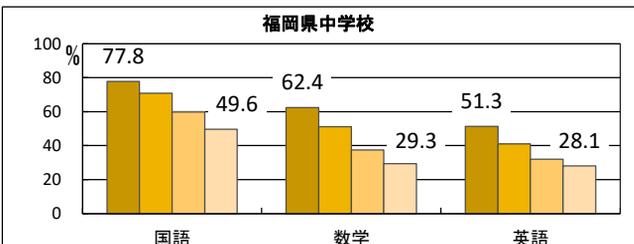
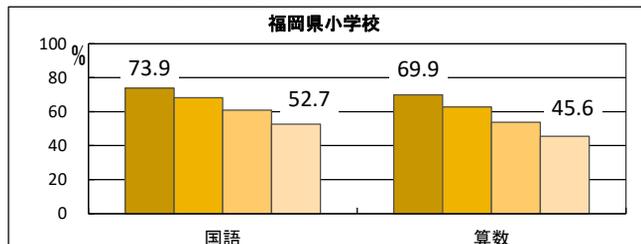
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

回答状況

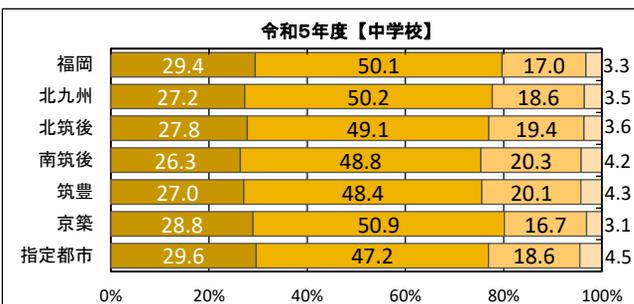
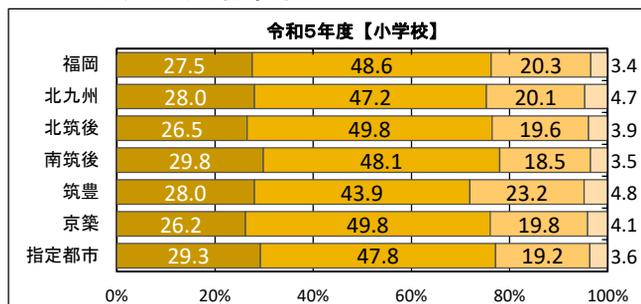
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

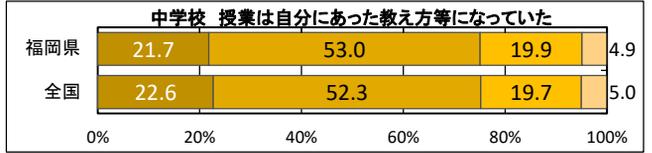
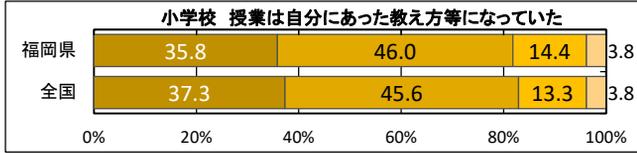


小3 5
中3 9

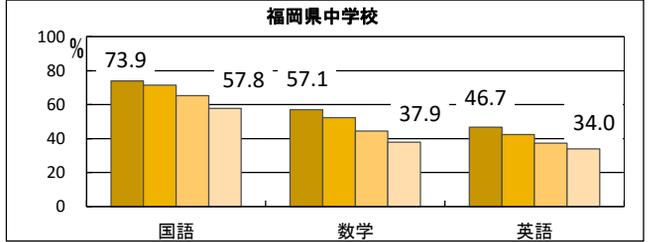
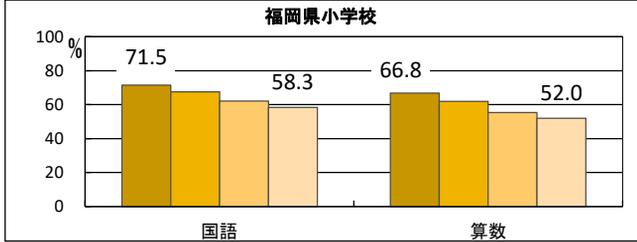
授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

■ 回答状況

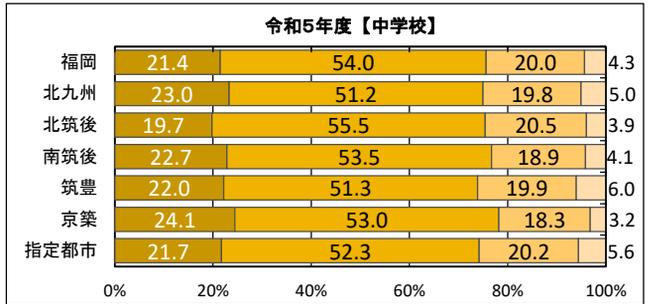
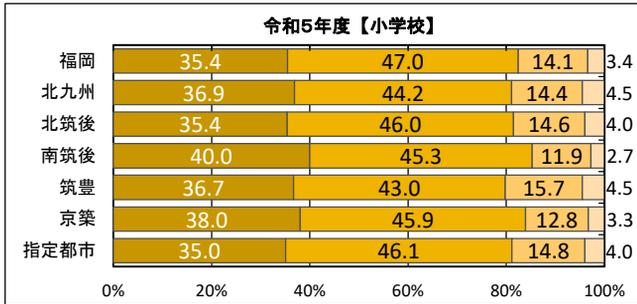
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況



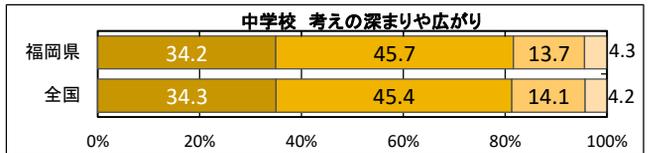
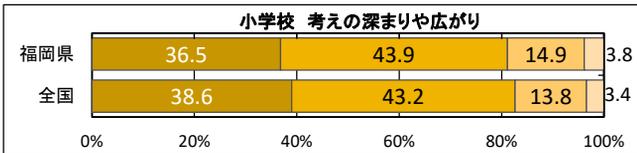
小3 6
中4 0

学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

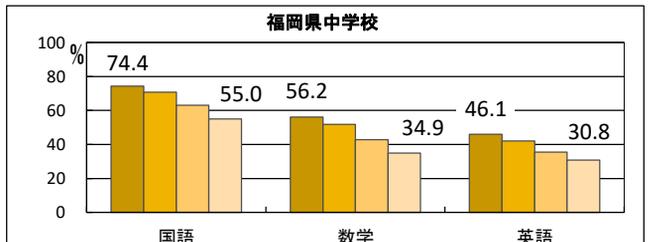
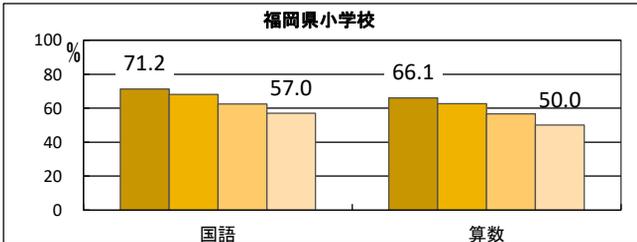
※「話し合う活動を行っていない」と回答した結果は除いているため数値の合計が100%とならない

■ 回答状況

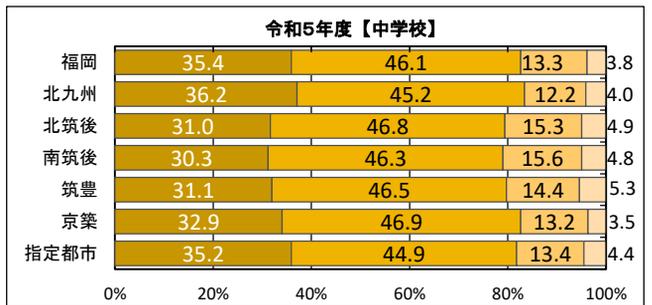
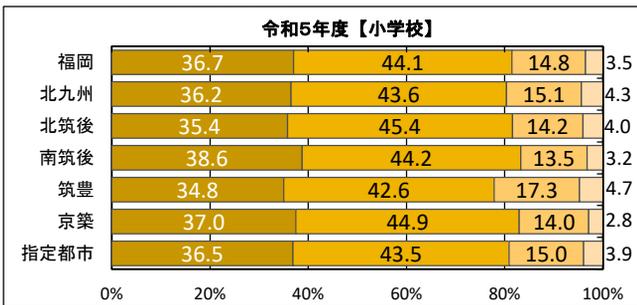
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況



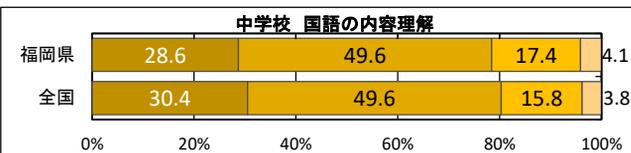
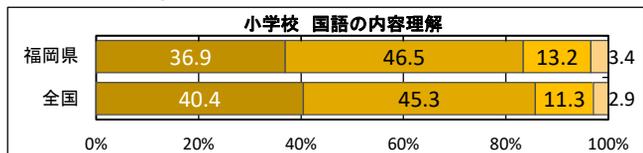
学習への興味・関心に関する特徴的な質問項目

小4 5
中4 9

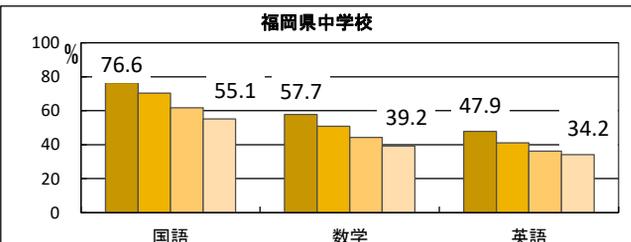
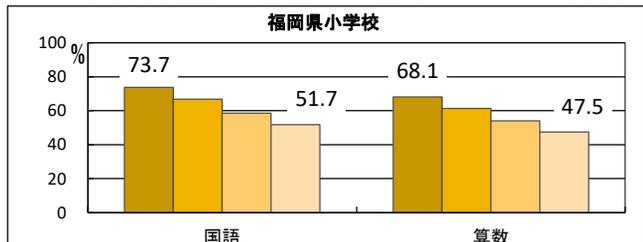
国語の授業の内容はよく分かりますか

回答状況

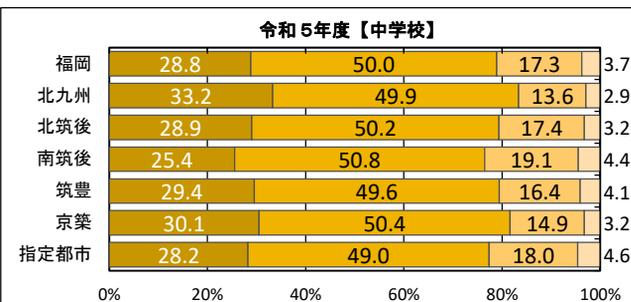
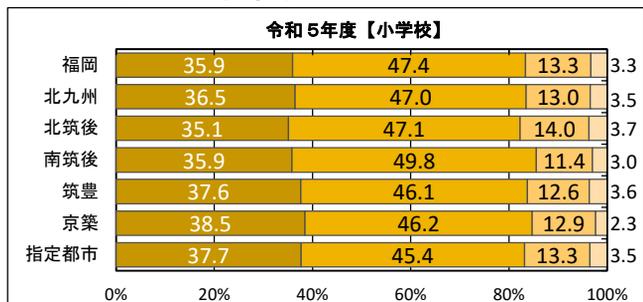
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

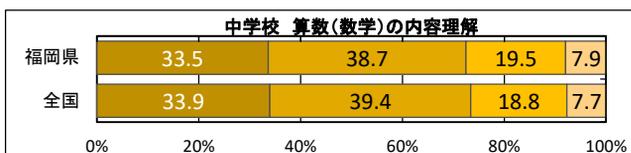
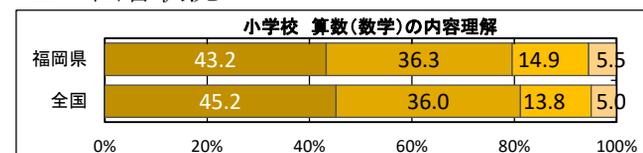


小5 3
中5 7

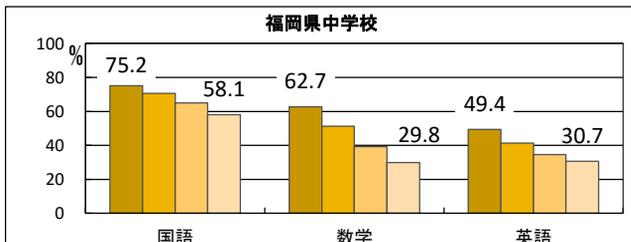
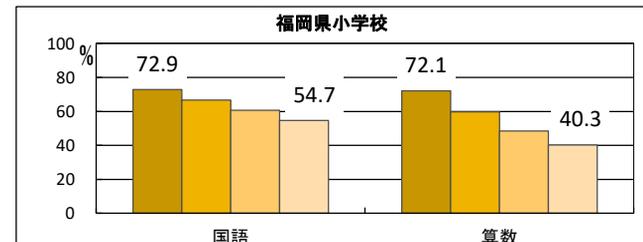
算数／数学の授業の内容はよく分かりますか

回答状況

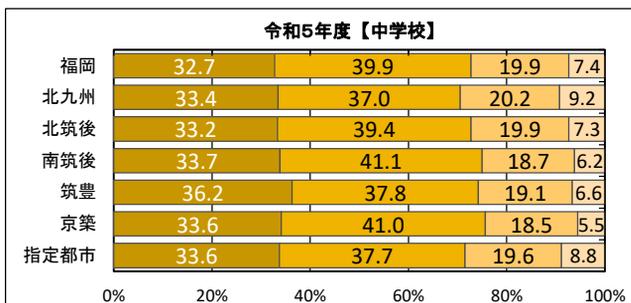
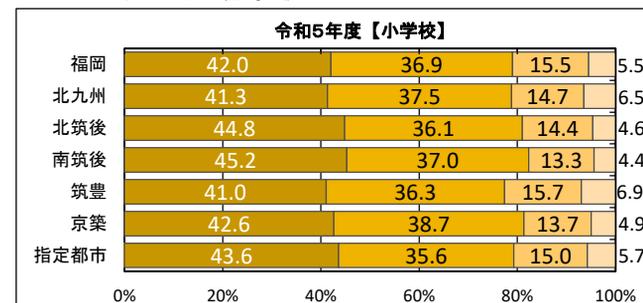
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況



3 学校質問紙の回答状況



- ◆ 非認知的能力を育成する取組では、学級での取組や話し合い、児童生徒を褒める取組について、地区間や校種間での差が表れやすい傾向にあります。**児童生徒の努力やよさを認めていくことは学力向上の取組を進める上で大切です。**
- ◆ 授業改善に関する取組では、全国と比較して肯定的な回答が低い傾向にあります。主体的・対話的で深い学びを視点にした授業改善では、**児童生徒が発表、説明、話し合う(アウトプットする)活動を充実させていくことが大切です。**
- ◆ 学校運営では、PDCAサイクルの確立について全国と比較して肯定的な回答をしている学校が多い傾向にあり、**検証改善の取組が推進されています。**

※ 表の数字は、質問番号

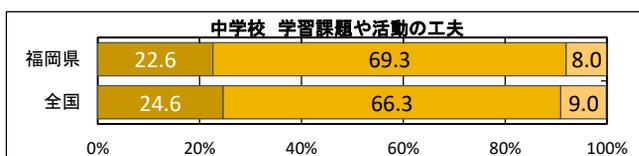
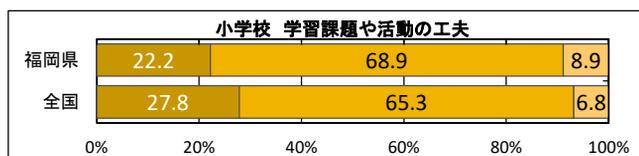
※ 全体の傾向を捉えるため「1%未満の回答は非表示」とし、合計が100%にならないことがある

授業改善に関する特徴的な質問項目

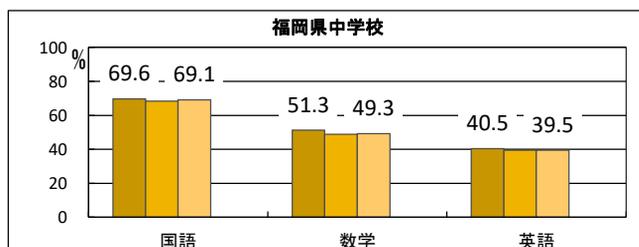
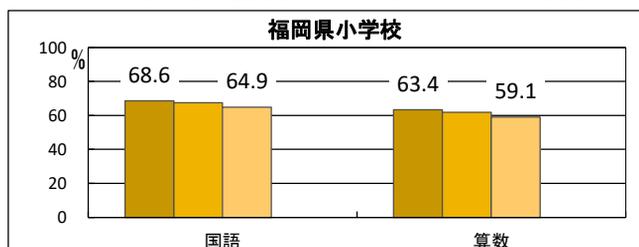
31	学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか
----	---

回答状況

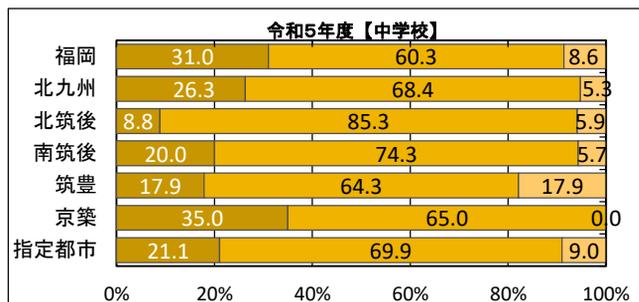
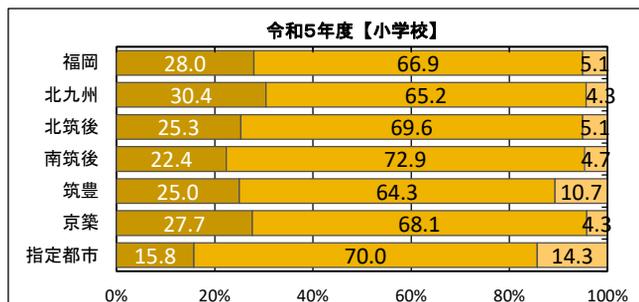
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行わなかった



回答状況と教科の正答率のクロス分析



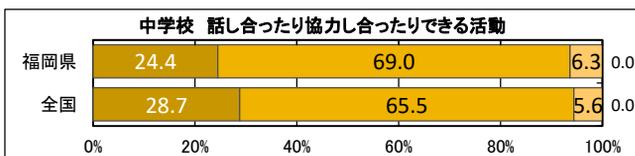
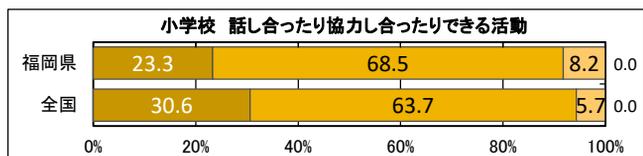
地区別回答状況



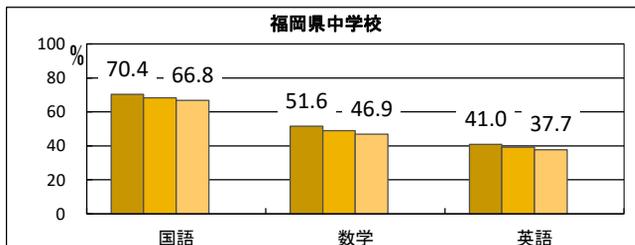
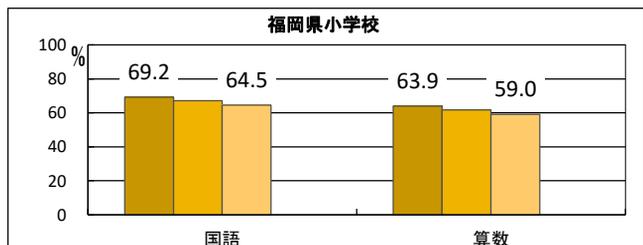
それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

■ 回答状況

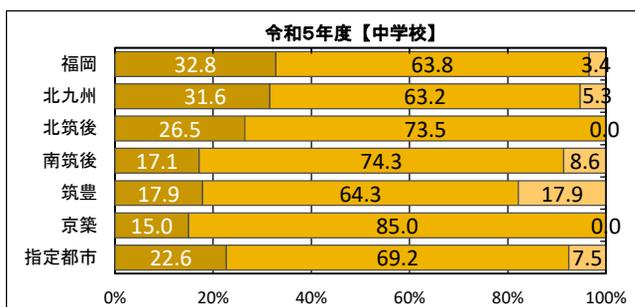
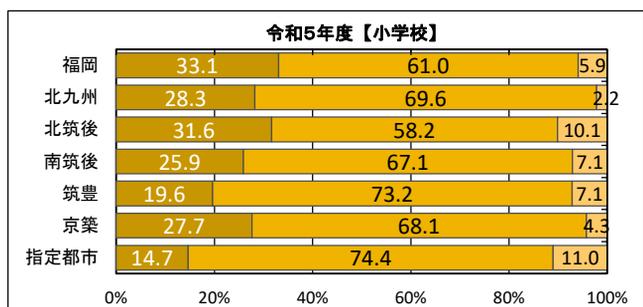
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行わなかった



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

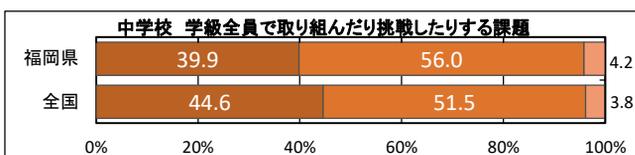
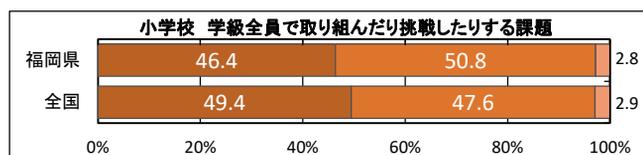


非認知的能力を育成する取組に関する特徴的な質問項目

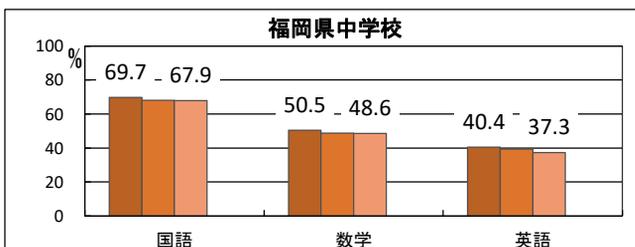
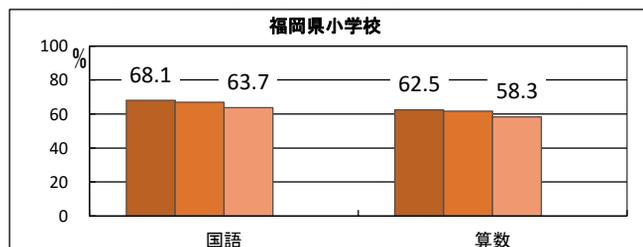
学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか

■ 回答状況

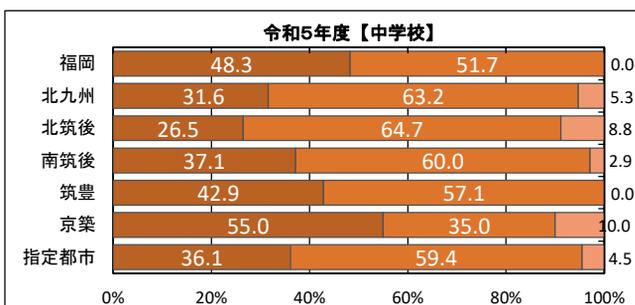
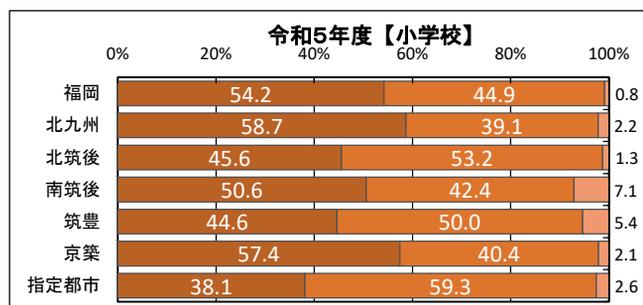
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 行わなかった



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



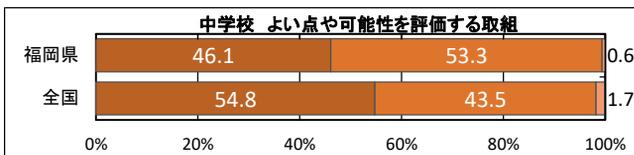
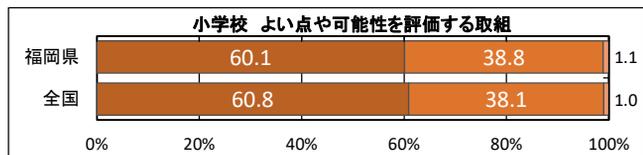
■ 地区別回答状況



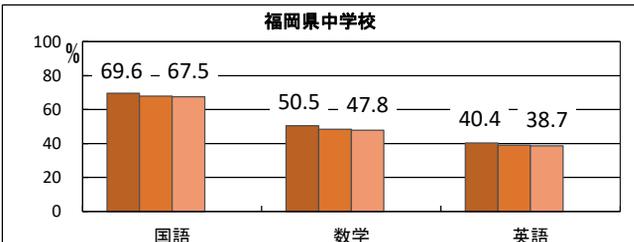
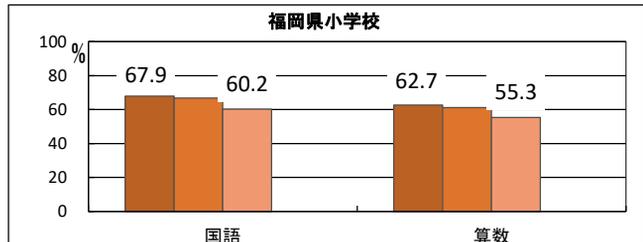
学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか

■ 回答状況

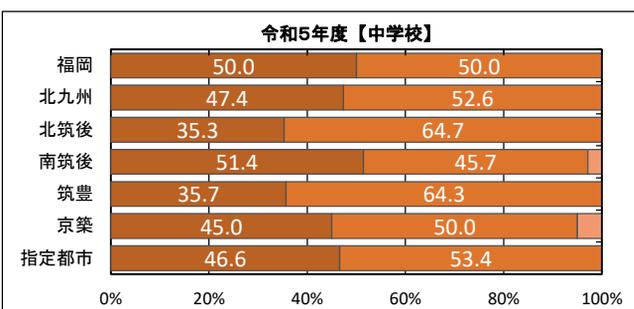
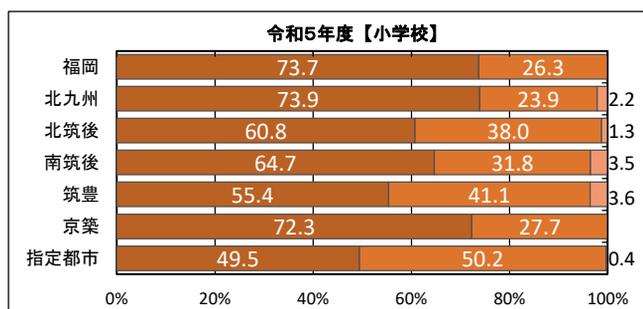
よく行った どちらかといえば あまり 行わなかった



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



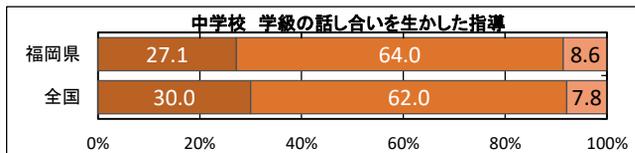
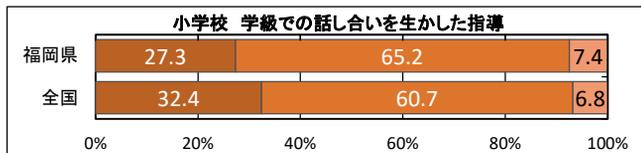
■ 地区別回答状況



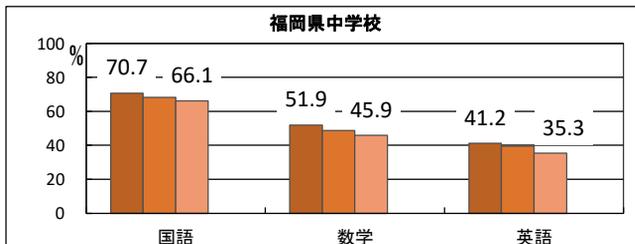
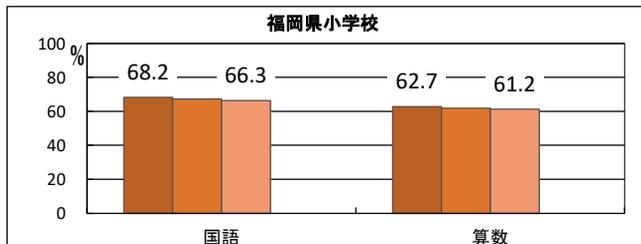
学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか

■ 回答状況

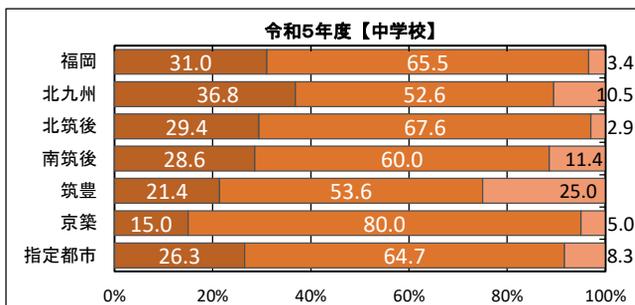
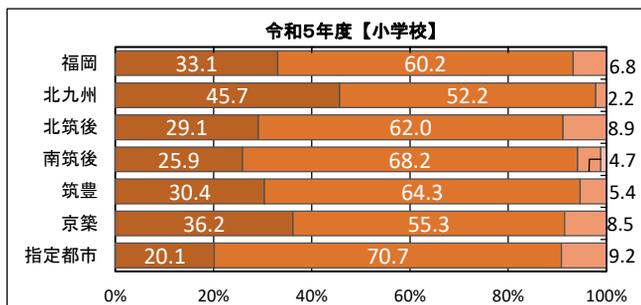
よくしている どちらかといえば あまり 全くしていない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

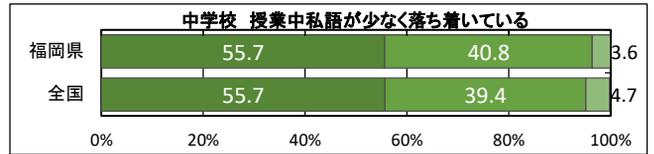
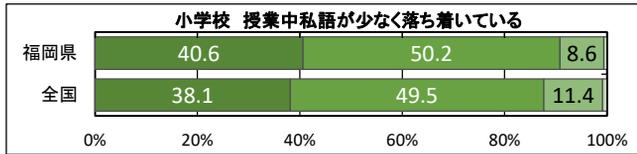


学習環境等に関する特徴的な質問項目

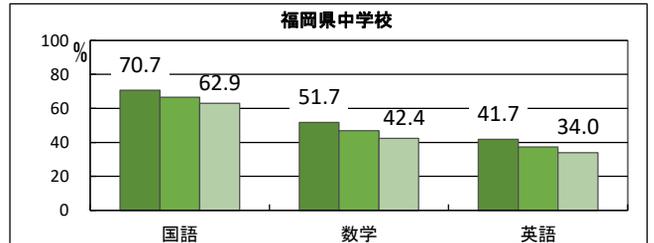
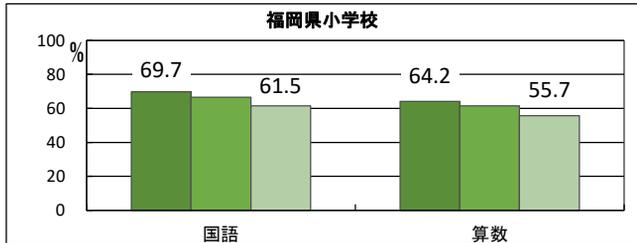
9 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

■ 回答状況

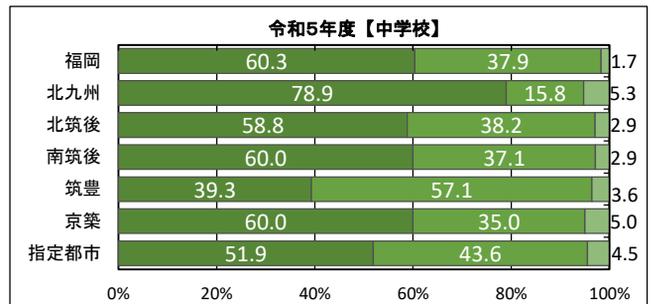
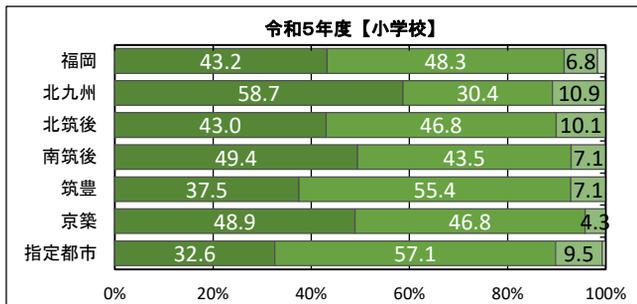
■ そう思う ■ どちらかといえば ■ あまり ■ そう思わない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

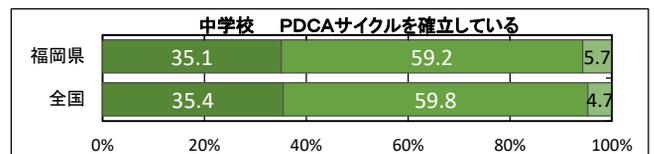
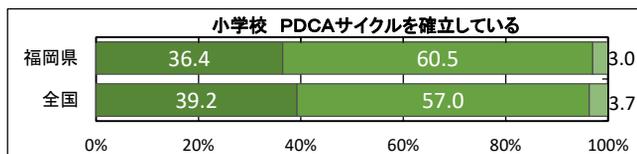


学校運営に関する特徴的な質問項目

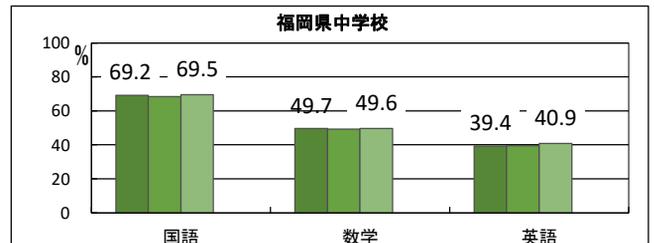
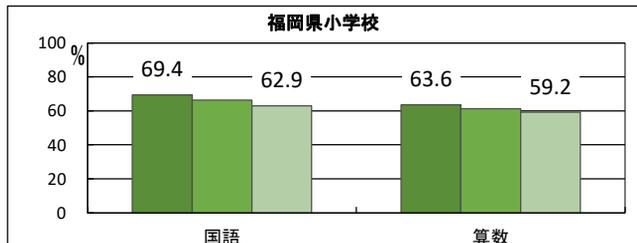
19 子どもの姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

■ 回答状況

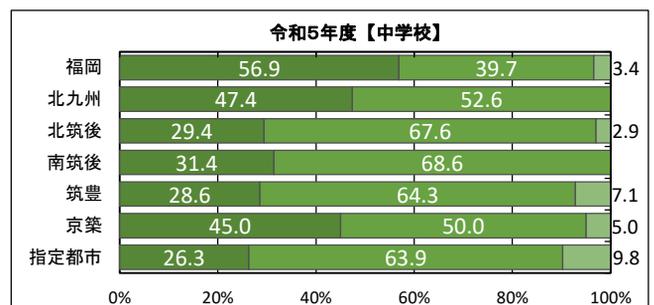
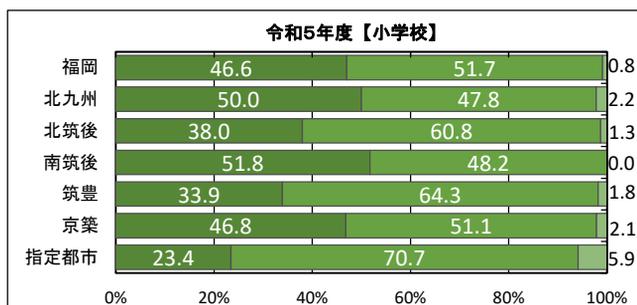
■ よくしている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全くしていない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

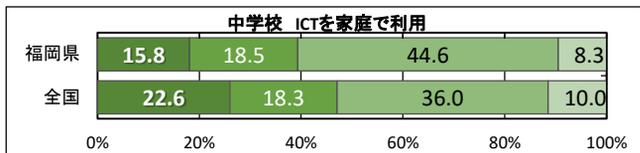
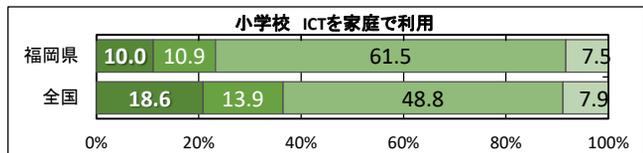


ICTを活用した学習状況に関する特徴的な質問項目

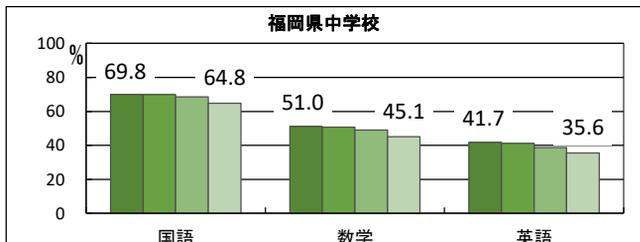
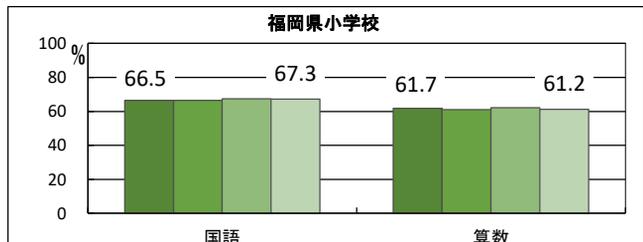
小6 3 一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できる
中7 1 ようにしていますか（一部抜粋）

※「持ち帰ってはいけないこととしている」「臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている」は除外している。

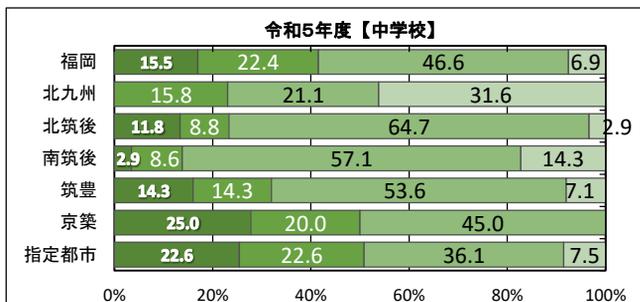
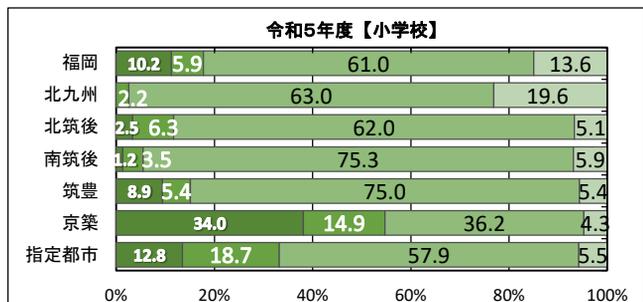
■ 回答状況 ■ 毎日持ち帰り毎日利用 ■ 毎日持ち帰り時々利用 ■ 時々持ち帰り時々利用 ■ 持ち帰らせていない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

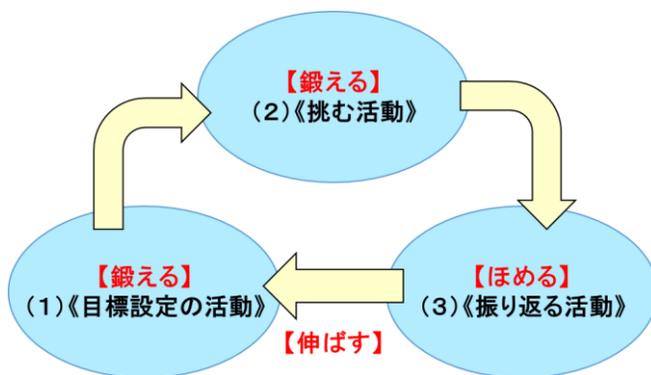


4 本県が育成を目指す「資質・能力」の視点に立ったこれまでの取組

資質・能力の三つの柱をバランスよく育成していくことを目指した取組や資質・能力の三つの柱をバランスよく育成していく際に参考となる取組として、本県には次のような例がある。

①学ぶことに挑み続ける子どもを育む鍛ほめプロジェクト

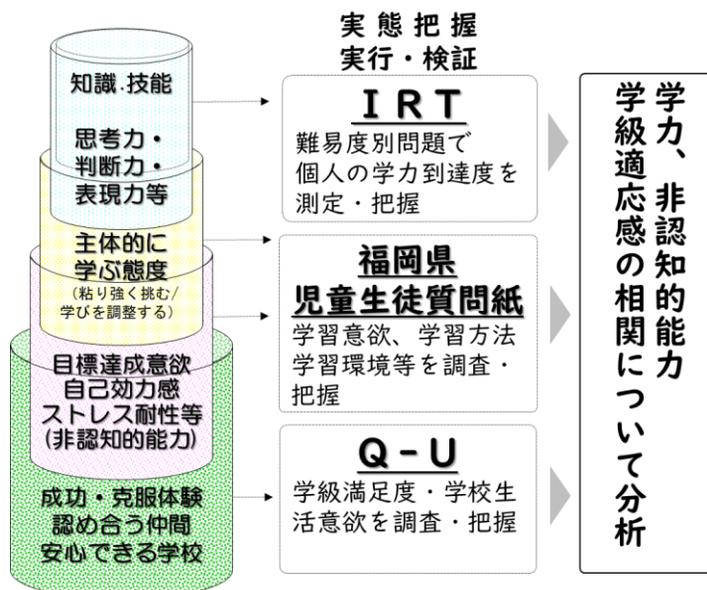
子どもの学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や逆境に立ち向かう心など、子どもが自律的に成長するための原動力となる人格的資質を育成するための指導を実践し、学力の向上と非認知的な能力の高まりを検証している。本プロジェクトにより、授業改善等を通して、学力の向上と非認知的な能力の高まりに効果が見られた取組が報告されている。



鍛ほめ福岡メソッド

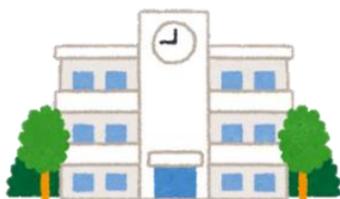
②学級づくりと個別最適な学習による確かな学力の育成推進事業

安心・安全な環境をつくり、教師と児童生徒の信頼関係、児童生徒同士の仲間意識等を築いて学級適応感を高める中で、非認知的能力を育み、知識・技能や思考力・判断力・表現力等の育成につながる基盤づくりを行っている。IRT調査による精緻な学力把握・分析方法を獲得するとともに、客観的なデータに基づく検証改善プロセスの高度化を目指している。



確かな学力の育成に向けた検証改善プロセス

行きたい「学校」



会いたい「仲間」



参加したい「学び」



上の図は、基本的な考え方として大切にしたい学校イメージです。児童生徒にとって「行きたい学校」にするには、「会いたい仲間」と「参加したい学び」が必要だと考えています。そして、この2つの鍵となるのが「教師」です。

「教師」が児童生徒に接する姿勢や態度は、「会いたい仲間」づくりにも、「参加したい学び」づくりにも大きく影響します。各学校では、教師の前向きで児童生徒に元気を与えられる姿勢や態度を今後も大切にしてください、そのことが、結果として児童生徒の学力向上にもよい影響を与え、効果を発揮すると考えています。



